

雅趣ト感
性ノ關涉
ヲ論ス

此ノ如キ人ヲ以テ此事ニ就テ知ルナシトモテ定メサルヲ得ス
今マテ余唯辨決ノ關涉ニ就テ雅趣ヲ論シタリ然レニ又感性トノ關涉
ヲモ論スルコト緊要ニシテ雅趣ト感性トハ屢混スルコト多シ此兩者
其實全ク相異ナリ感性ハ今雅趣ト相關スル所ノミニ就テハ美妙高大
ノ觀ニ於テ此心ノ情ヲ生スル性ニシテ雅趣ハ同一ノ觀ニ於テ辨決ヲ
ナスノ性ナリ感性ハ此心ノ情狀勢力ト云フヨリモ寧ロ發作トシテ觀
ルヘクシテ美妙ナル物體ヲ觀ルニ當リ提起セラシタル感動ナリ而テ
雅趣ハ之ニ就テナシタル辨決即チ說ナリ既ニ云ヘル事例ニ如ク余壯
麗ナル彫像若クハ圖書ノ前ニ立ツ時ハ是我ヲ攪動シ我ヲ奪ヒ我ヲ娛
樂ト驚歎ヲ起サシム然レ是ノミニシテ直チニ余カ雅趣ニ非スシテ唯感
性攪動ヲ受ケ運用ニ發スルノミ此時余我カ前ノ物體ヲ藝術ノ物トシ
テ其功用ト不用トニ就テ余カ說ヲナス爲コ之ヲ辨決セムトス此ノ如

兩者必ス
相均稱ス
ル者ニ非
ルヲ論ス

クシテ余カ雅趣ハ通用ニ發スルナリ
此兩者ノ本元ハ固ヨリ別ナルノミナラス一ツ心ニ二ツノ者均稱シテ
存在シ又均シク開發スルコトモ必ス可ラス故ニ其感性極メテ活潑
ナル人必ス精密ナル雅趣アル人ニ非ス恐ラクハ概シテ其人ニ非ルガ
リ兒童若クハ教育ナキ農夫黒奴ノ如キ美妙ナル形容ト美妙ナル彩色
ニ於テハ甚ク之ヲ娛樂スル猶哲人ノ如シ然レ其好ム所ノ物ニ於テ何
故ニ攪動セラレヤ是何物カ然ラシムルヤヲ辨解シ能ハサルナリ且
又此徒ハ其眞ニ美妙ナル者ト驚歎スルニ足ラサル者トチ裁別シ能ハ
サルナリ故ニ雅趣ナキ感性アリトモ其裏面ニ就テハ雅趣ハ高度ニ
達スレハ之ト相一致スル感性ノ度モ必ス同シク伴ヒ來ルヘシト謂フ
可ラス故ニ博學ニシテ鑒識アル人ハ好書ニ對シテ尤モ其樂ミヲ享ク
ルノ人タルヲ必トス可ラス而テ巧妙ナル樂手ハ兒童ノ其樂ヲ聽キテ

稱歎娛樂交至ルニ比スレハ、音樂ニ於テ雅趣ヲ有スル、一層多シト謂フ可シ、唯吾人須ク此諸人ノ間ニ就テ、孰レカ最ニ感動セリヤト、其顔色ニ徴シテ、知ルベキ耳

感性ハ雅趣ト合併スヘキヲ論ス

然レ、余ハ前論ニ據テ、感性ノ高度ハ、雅趣ノ高度ト共ニ、相容レテ存ス可ラスト、引証セサルナリ、士低瓦的氏ハ、此説ヲ取レリ、其言ニ以謂ヘラク、此ノ如キ事例ニテ、感動ハ、辨決ト均シク、混合スルナリト、蓋シ、其感動、甚ク高ク、挑起興發セラル、時モ、其時間ニ、辨決ノ平心深思ノ運用ト、相混合スルハ、疑ヒナシ、然レ、若感性乏キ時ハ、雅趣多カルヘシト、謂フ可ラズ、余今、美妙ナル山水、若クハ、畫圖ヲ觀テ、一モ快樂ヲ覺エサル時ハ、其巧拙ヲ比較シテ以テ、我ヲ勞スルコトヲ、好マサルハ、此ノ如キ時ハ、何物カ、我カ好ミニ供シ、何故ニ我ヲシテ、之ヲ好マシムルト、講究スルハ、無益ニシテ、其實、何モ我ヲ樂マシムルコトナシ、故ニ、此ノ如キ時例ニテハ、辨決

ヲ運用スルノ意モナク、又其發作ヲナス機會モナシ、是此ノ運用ヲナス基礎ノ眞、既ニ缺ケタレハナリ、故ニ、感性ノ活潑ナルハ、雅正ナル趣味ノ根基ニシテ、其地礎ノ上ニ、雅趣ヲ立ツヘシ、是其發作ノ源、且生力ト謂フヘシ、故ニ、此ニツノ者ノ關涉ハ、稍才智ト、學問トノ如シ、是必ス、均一ノ度ニ存スル者ナラサレ、絶テ交互ニ、相容レサル者ニハ、非ス、譬ヘハ、心ノ力量發動ハ、高度ニ及ヘ、之ト相通スル學術ナキ人ハ、アルヘシト、雖、少シモ、心ノ力量發動ナクシテ、學力アル人ハ、ナキカ如ク、雅趣多カラサルノ感性ハ、アリト、雖、感性ナキ雅趣ハ、在ラサルナリ、蓋シ、雅趣ナル者ハ、大率、學習培養シタル術藝ニシテ、感性ハ、生來ノ天賦ナリ、故ニ、感性ハ、開發シ、熟達シ、培養ス可シト、雖、之ヲ學フ可ラサルナリ、才智ハ、生、感性ハ、驚歎シ、雅趣ハ、裁決ス、其作用ハ、交互ニシテ、雅趣、能ク輕易浪放ナル感性ヲ、改正控勒スル時ハ、感性ハ、反テ、其地ヲナシ、其材料ヲ供シテ、最後ニ、

養育

雅趣ノ培
養ヲ論ス

雅趣其處決ヲ行フヘシ
 余等既ニ心ノ一勢力美妙ヲ認識スル者ノ性質ニ就テ嘗テ計リタル如ク、多少意ヲ加ヘテ、之ヲ講究シタリ、然ルニ此連絡ニ於テ、此勢力ノ培養ニ就テ猶數言ヲ費サ、ルヲ得ス、雅趣ハ、靈智中ノ一能力ニシテ、知覺ノ勢力ニ屬シ、辨決ノ事タリ、此ノ如キヲ以テ、此兩ツナカラ、培養スヘキ者ニシテ、之ヲ要スルナリ、總テ心ノ發作ノ諸狀中ニ於テ、其完全ナル開達ヲ要スルニハ、吾人辨決ト云フ總名ヲ附シタル一種ノ勢力ヨリ、培養習熟ニ關スルコト、一層切ナル者ハ、非ス、而テ、辨決ノ諸狀中ニ就テハ、雅趣ト名クル者ヨリ、一層切ナルハ、莫シ、其心美妙ノ精微ナル知覺ニ於テ、培養ナキ、習熟ナキ、常ニ之ヲ此ニ用ヒサル者ハ、雅趣ノ事ニ於テ、正シク辨決スルコト能ハサルハ、猶遠近大小、若シハ、諸體化學上ノ性質ニ就テ、之ヲ辨別スルニ習レサル人ノ、此事ニ就テ、正シキ決斷ヲナスコト、能ハサ

伯拉多ノ見解

ルカ如ク、一般ナリ、是ヲ以テ、是其藝術ニ依テ、習慣ヲ、練馴ニ依テ、熟達セサル可ラス、是美妙ノ理法ヲ朋友トシ、其形體ト交通セサル可ラス、總テ天然物ニテモ、藝術ノ工作ニ於テモ、其美妙ヲ、視察シ、習熟スルコト、之ヲ裁別シ、之ヲ比較シ、之ヲ辨決スルコト、ヲ學ハサル可ラス、ガノ世々ノ好尚ヲ受ケ、天下ノ批判ニ就テ、名譽アル文章學ノ諸本、藝術ノ諸作、并ニ現在世人ノ稱美スル天然ノ諸物ハ、徒ニ視察ノミヲ以テ、之ニ習熟スル耳ナラス、又細心ニ、之ヲ玩味セサル可ラス、此ノ如クシテ、雅趣ハ、始メテ培養ヲ得タリト、謂フヘシ

記傳ノ略

昔人ノ中ニテハ、恐ラクハ、伯拉多第一ニシテ、始メテ美妙ノ觀念ヲ、他ノ一類ノ諸觀念ヨリ區別シ、其真ト善トノ、親和アルヲ、指目シ、以テ變易美可ラサル遠永ノ理ナリト、認識セリ、然レ、善ト美妙トヲ、同一ナリトシテ、

亞立斯度德ノ見解

藝術上ノ眞ノ品性ト目的トヲ、錯認セリ、伯拉多以前、又伯拉多サヘモ、藝術美妙ハ、唯藝倫學ト、政事トノ連絡ニ於テ、之ヲ論シ、科學中一部タル美妙論ハ、昔人ノ知ラサル所タリキ。

亞立斯度德ハ、美妙ノ事ヲ論セス、唯傳奇體ノ術ニ就テ、説ナセリ、以謂ヘラク、詩ハ、模擬ノ意向ト、知ルヲ願フ欲トニ生スル者ナリ、而テ、悲曲ノ傳奇ハ、一層善キ者ノ模擬ニシテ、畫圖ハ、是ト同シク、今在ル所ヲ表スルニ非ス、在ルヘキ事ニ屬スル者ヲ表スル者ナリト、此旨趣ニ據テ、其深奥ナル指目ハ、詩ハ、史傳ヨリモ、眞ナリト云フニ在ルヲ、曉ルヘシ。

亞氏ノ後ニハ、伯魯埤尼斯及ヒ、煥加斯丁ノミ、昔人ノ中ニテ、美妙ヲ論シタリ、煥加斯丁ノ書ハ、今存スルナシ、唯其説ニテ、美妙ハ、諸部ノ合一和諧中ニ生スル、猶音樂ニ於テ、如シト云フコト、世ニ知ル所ナリ、伯魯埤尼斯ノ論ハ、人視テ以テ、美妙且深奥ナリトスル所ニテ、其説、物質ノ美妙ハ、唯

伯魯埤尼斯并ニ堅智利安

論治尼斯并ニ堅智利安

萊武尼多學派

精神上ノ美妙ノ、表現反射スル所ナリ、人心ニ在リ、唯靈魂ノミ、美妙ニシテ、美妙ヲ愛スルハ、其靈魂自己ノ照影ノ、彼處ニ表見シタルヲ愛スルナリ、故ニ、美妙ヲ曉會感覺スルコトハ、其靈魂、自ラ美妙ヲラサルヲ得スト、此考ヘノ偏スル所ハ、神秘學ニ陷ルナリ。

論治尼斯及ヒ、堅智利安ハ、唯好辯學ト、談説術トニ就テ、高妙ノ因ヲ論ジ、又何羅斯モ、藝術中ニモ、詩ヲ以テ、此高妙ニ達スヘシト論セリ。

新哲學ノ中ニテハ、倍根、科學ノ中ニ、巧藝アリトシテ、之ヲ取リ、詩學ヲ以テ、人間知識ノ三大部ノ一トセリ、然レ、余カ見タル所ニテハ、一モ美妙ニ就テ、別ニ部ヲ立テ、論セシヲ見ス。

日耳曼ニテ、萊武尼多及ヒ、俄爾布ノ學派ニテ、創メテ、美妙ヲ、一種別ノ科學トナセルコトアリキ、俄爾布ノ門人、慕謨荷爾天始メテ、此觀念ヲ理會シケリ、然レ、伯拉多ノ如ク、美ヲ以テ、善并ニ、道德ト同一體ナリトナセル

派 祿可ノ學

コト、殊ニ過甚ナリ

英吉利ニテハ、美妙ノ事ニ就テ、祿可ノ學派ニ説多シ、沙布廷斯、佛黎、并ニ

哈車孫ハ、既ニ上ニ云ヒシ如ク、美妙ト、至善トナシ、明カニ區別セシメテ、差

異中合一ノ考ヘテ取レリ、而テ、苛加爾多亦、同一種ニ陥リ、其觀念ニテハ、

波線ノ譬喩ニテ、美妙ヲ表セリ、又波爾加、高大ト、畏懼スヘキ者トナシ、十

分ニ區別セサリキ

佛朗西ニテハ、連環字類家ノ説、其本體、祿可ノ學派ト相符シ、美妙ヲ首ト

シテ、道德ノ體段ヨリ論シタリ

日耳曼ニテ、再ヒ巧藝家ニテ、哲家ニハ、非ル榮厄拉文ト云フ人、希臘ノ藝

術ノ精神ニ貫通シ、伯拉多ノ如ク、美妙ノ觀念ヲ、神ニ歸着シ、美妙ハ、其表

象トシテ、神ヨリ出テ、視察ニ供スル物ニ於テ、顯ル、ナリト云ヘリ

此理想上ノ、神ヲ主トスル體段ト、相反シテ、勒士升ハ、一層着實ノ見解ヲ

耳曼 近日ノ日

家 佛朗西ノ 連環字類

酒兒林并ニ倅歌兒

猶佛魯哇

取り、美妙ヲ、現實ノ地位ヨリ視タリ、其後、黑爾的兒、并ニ翺測、亦美妙學ニ

資セル説多シ、然レ、此等ハ總テ、韓圖ノ爲ニ、路榛ヲ闢キタルノミ、而テ韓

圖ニ至リ、一層其深奧ヲ極メ、之ヲ以テ、哲學ノ講究ニ供シ、其説、美妙ヲ以

テ、主觀ノ事ニシテ、想像力ノ運用トナセリ

叙拉列兒ハ、美妙ヲ以テ、理性ト感性トノ、相合シテ生スル所ナリトシタ

レ、猶韓圖ノ如ク、主觀ノ事トスルヲ免レス

酒兒林ハ、美妙ノ精神上、即チ理想上ノ考定ヲ開キ、倅歌兒ハ、此考定ヲ述

テ、其完全ナル科學ヲ作り、諸藝術ヲ彙類シテ、之カ分解ヲナセリ、故ニ其

書ハ、巧藝ノ哲學ニ於テ、創メテ完全ナル論究ヲ、ナシタル者トシテ、視ル

ヘシ、其書ハ、明亮雄健、且深奧、分解ノ力、想像ノ富メル、實ニ一ノ品性ヲ、具

セリト謂フヘシ

佛朗西ニテ、近日ノ著家中ニテ、猶佛魯哇、美妙ノ哲理ヲ、論セルコト、其法

考定

極メテ完全、歎稱ニ堪エタリ、其考定ハ、俾歌兒ニ本ツキテ、些ノ變更ヲ加ヘタリ、是前章ニ、此事ヲ論シタル如ク、實ニ一家ノ考定コシテ、即チ知覺ニ供スル形體中ニ、精神上ノ隱然タル、元行、表現スルト云フ説ニシテ、猶佛魯哇ヲ措キテ、他ニ學習スヘキ著述ナシ、其書、詳明雄拔、分解ノ力アリ、驚クニ堪エタリ

項參

選擇學ノ中ニテハ、項參ノ眞理、美妙、至善ノ論說ハ、正當ナル表章多ク、且其文辭、絢爛、哲家ノ詳微ヲ悉セリ

摩埵爾抹

英吉利ニテハ、既ニ引用シタル諸書ノ外ニ、摩埵爾抹ノ雅趣ヲ、表章セサル可ラス、是雅趣ノ性質ト、物品トチ、十分ニ能論セル者ナリ

第四篇 正直ノ觀念、并ニ其認識ヲ論ス

第一章 正直ノ觀念

正直ノ觀

人心ノ器具タル諸理會ノ中、一ノ理會アリ、其狀總テ他ノ理會ト異ナ

念ハ此心ノ理會ヲ論ス

其普通流ヲ論ス

ル所多クシテ、并ニ又、總テノ他理會ヨリモ、一層切要ナリ、是乃チ、正直ノ念、即チ、其觀念ナリ

今、吾人、何人タルヲ論セス、道理ヲ知ル靈智ヲ、具スル一體アリテ、有意ノ動作ヲナス時、其何事タルヲ論セス、之ニ我カ意ヲ注意スル時ハ、吾人、自ラ其事ノ品性ヲ唱ヘテ、正シキ行爲トシ、或ハ正シカラサル行爲トスルコト、屢ナルヲ見ル、是、其行事、較著ナル非常ノ品性ニシテ、之ヲ觀察スル時ハ、殊ニ此事例ニ當ル者ニシテ、率爾トシテ、其事ハ、正シヤ否ト、疑問ヲ起スナリ、或ハ又、其事ニ就テ、自ラ意識ニ省ルコトナク、又曾テ、疑問ニ及フコトナク、其行事ヲ、我心ニ領解スル瞬間ニ、我カ裁決、既ニ出テ來リテ、此事ハ、正シ、其事ハ、邪トナリト、云コト、蓋シ鮮カラス、唯吾人、其事ニ就テ、裁決スルハ、或ハ正當ナルアリ、或ハ正當ナラサルアリ、又其行事ノ眞實ヲ、知覺スルハ、明亮ナルアリ、或ハ曖昧ナルアリ、又我カ心ヲ感動スルハ、

疑問并
諸種ノ答

或ハ強烈ナルアリ、或ハ淡薄ナルアリ、是皆吾人ノ心ノ慣習ト、我カ心性ノ氣象ト、又一ハ、我カ道德力ヲ培養シタル度ニ關シテ、各差異ナキヲ得サルナリ、又人、其心タル、極メテ卑下、其性質タル、極メテ敗壞ニシテ、行事上、道德ノ品性ハ、全然之ヲ頓倒シ、多クハ、全ク之ヲ意外ニ置キ、或ハ少シク之ヲ覺ルコトアルモ、其感動ヲナス、殊ニ淺キ者アリ、然ルニ、此ノ如キ心ニ在テスラ、正邪ノ觀念ハ、猶其中ニ存シ、縱ヒ、悉ク正當ナラサルモ、人間躬行ノ特別ナル時例ニ逢ヘハ、其悟性能、此觀念ヲ使用スルナリ、今、尋常賦性ヲ有スル心ニテ、天ヨリ稟クル所ノ理性靈智ノ度、少キ者ハ、此觀念ヲ悉ク亡ヒ、總テ自己ト、他人トノ躬行ニ、之ヲ使用スルコト、能ハスト思フハ、理ヲ知ル者ニ、非ルナリ

然レ、爰ニ切要ナル論題アリ、曰ク、此觀念ト、知覺トハ、何處ヨリ來ルカ、其源由ハ如何、又吾人一次之ヲ曉解スレバ、一行事ヲ指シテ、或ハ正トシ、或

此疑

ハ邪トス、是何ヲ以テ然ル、是ハ、何如シテ爲シ得ヘキ、又吾人、此念ヲ以テ、何如シテ事ニ應スル、是皆疑フヘシト、此事實ハ、固ヨリ然ルコトナリト雖ヒ、其解釋ハ、亦區々ナリ、一種類ノ著述家ニ在テハ、我カ此性ノ觀念ヲ、教育ト、風習トニ歸シ、他ノ著述家ハ、之ヲ法制ノ控勒ニ歸シタリ、而テ、其法制ハ、人設ト、神造トノ別アリトシ、又他家ハ、更ニ此觀念ヲ以テ、人性ノ萌芽トシ、或ハ之ヲ一特別ノ覺性ノ運用ナリトス、以謂ヘク、是天ノ一特別ノ用ニ、供スル爲ニ、賦スル所ニシテ、視聽ノ爲ニ、耳目ヲ賦セルカ如シト、又或ハ之ヲ、一定ノ相伴結セル情ヨリ生シ、以テ此作用ヲナスナリトセリ、而テ、他ノ著家ハ、之ヲ觀テ、辨決ノ運用中ニ、發生スル者トシ、又他ノ諸家ハ、更ニ此心ノ、天然ノ直覺カトシ、道德ノ性質ヲ具セル事ニ就テ、運用セル理性ナリトセリ

問題ノ大

此疑問ノ大別ハ、此觀念ハ、天然ニ出ルカ、或ハ人造ニ屬シ、學ヒテ得ヘキ

第一 教育

此見解ヲ駁ス

者カト云フニ往リ、果シテ人造ニ出ルカ、是教育ノ爲ス所、若クハ、法制控
 勒ノ爲ス所タルヘシ、又若ク天然ニ出ルトモハ、一特別ノ覺性ノ效驗トシ、
 或ハ伴結セル情ノ效驗トシ、之ヲ感性的ニ歸スルヲ得ヘシ、若クハ、辨決ノ
 能力ノ效驗トシ、之ヲ靈智ニ歸シ、若クハ、理性ノ直覺トナスヲ得ヘシ、
 此觀念、果シテ教育模範ヨリ來ルカト、祿可、巴禮、其他諸人ハ、此ノ如ク定
 メタリ、祿可ノ此見解ヲ取ルニ至リシハ、總テ其哲學ノ如ク、吾人心上ノ
 運用ニ供スル、日常ノ觀念ノ外、總テ單純ナル觀念ハ、其跡ヲ求メテ、感覺
 ニ至リ、感覺ヲ以テ、其源トナセリ、然ルニ、感覺ハ、正邪ノ觀念ヲ覺ユルコ
 ト能ハサルハ、言ハスニテ明カナルヲ以テ、正邪ハ、天然ノ觀念ニ非スシ
 テ、教育ノ效驗タルヘシト、斷言セルナリ
 ソレ教育ト風俗トハ、人心ノ培養ニ於テ、至強ナル器械タルコト、固ヨリ
 論ナシ、故ニ、凡ソ人間ノ論說、一世ノ好尚ヲ現範シ、其方向ヲ一ニスルノ

第二 法

源由ヲ論スルニ至テハ、教育ノ功、固ヨリ忽略ス可ラス、然リト雖モ、教育
 風習ヲ、事物ノ源由トナシテ、論ス可ラス、是獨格拉士低瓦的、其祿可ヲ答
 フル書ニ、極メテ能ク明辨セル所ニシテ、是此問題ヲ解クニ、完全ナル答辭
 タリ、ソレ教育ト模範ト、兩ノ者ハ、先ッ道德ノ觀念ト、是非ノ別トノ存在、之
 カ地ヲナシテ、始メテ可ナリ、是其事ニ就テ、之ヲ指示スルヲ得ヘシ、何ト
 ナレハ、始メテ此是非ノ別ヲ教ヘシ者ハ、何如シテ、此ニ至リ、又始メテ此
 是非ヲナス例ヲ定メシ者ハ、何如シテ、自ラ此觀念ヲ有セシヤ、何處ヨリ
 シテ、其人ハ、此觀念ト、是非ノ性トヲ受ケ來リシヤ、之ヲ教ヘ、之ニ例規ヲ
 下セシ者ハ、ハタ何人ナリヤト、問フヲ得ヘケレハナリ、是此論題ナル考
 定ニテハ、答フ可ラサル問題ニシテ、觀念ノ源由ニ就テハ、絶テ其解釋ヲ
 示スコト、能ハサルナリ
 然ラハ則チ、吾人此觀念ヲ、法制ノ控勒ト、其設立トニ由ルト、セムカト、或

制ノ控勸

五百九十一

預メ正直
チ地トナ
スチ論ス

ル有力ナル諸家ハ、此ノ如ク教ヘテ、以謂ヘラク、法度ハ、人ノ立ル所、又神
ノ造ル所ニシテ、吾人チシテ、其行爲、云々ヲシムルチ、求メ、云々タル事
チ禁シタリ、是ニ依テ、吾人、元來正邪ノ觀念チ得ルナリト
然ルニ、是果シテ然ラシメハ、凡百ノ法度ニ先チテ、此ノ如キ觀念ノアラ
サリシハ、論チ待ス、然レ、法度ハ正邪ノ觀念、先[○]之[○]カ[○]地[○]チ[○]ナ[○]シ[○]テ、後ニ立ッ
者ニ非スヤ、其法度ハ、此觀念チ基礎トシテ、此上ニ立ッ者ニ非スヤ、果シ
テ然ラハ、法度ハ何如シテ、其法度ノ附屬スル主チ生シ、又其法度ノ地チ
ナス者チ、生シ得ルヤ、其初メ曾テ宣布セル法度、或ハ正シク、或ハ正シカ
ラサル者ダラサルチ得ス、然ラサレハ、亦一モ、道德上ノ品性チ、具スルチ
ケレハナリ、若シ果シテ、道德上ノ品性チ、具スルチトセハ、正シキニモ非
ス、正シカラサルニモ非ル法度、何チ以テ能、法度チ受クル者ニ、此ノ如キ
觀念チ、發生セシメ得シヤ、若シ又、其法度正シキ者トシ、若クハ、不正ナル者

(第三)特
別ナル一
覺性

五百九十一

トセムカ、其正不正ノ形質、之チ觀ルノ觀念ハ、既ニ其法度ノ先[○]天[○]ニ、存立
セサルチ、得サルナリ、而テ、其者ノ何タルニ拘ハラヌ、法度チ作り、之ニ此
ノ如キ、品性チ、有セシメタル者ハ、既ニ己ニ自己ノ心裏ニ、正不正ノ觀念
チ、有セサルチ得サルナリ、吾人、此ノ如キ道理チ以テ、問題タル觀念ノ源
由チ、解釋シ能ハサルハ、殊ニ著明ナリ、論シテ此ニ至リ、此問題チ解クノ
道、一層眞ニ近キチ覺ユ
蓋シ、吾カ徒ハ、此見解ト相反シテ、問題ナル觀念チ視テ、或直接タリ、或
ハ媒接タリ、且、天然ニ具ハル者ニテ、吾人ノ性ニ發スル效驗トス可シ、然
レ猶疑問ノ存スルアリ、是上ニ指示シタル所ニシテ、其孰レニ在ルカハ、
之チ次ニ見ヨ
然ラハ、則チ、吾人、此觀念チ一種特別ナル覺性ニ歸スヘキカト、是哈車孫
并ニ、其門人ノ取レル見解ニシテ、祿可ノ説ニ據テ、凡テ吾人ノ單純ナル

中々チエソ

觀念ヲ、感覺ニ歸シタレハ、**祿可**ノ考定ニ從ヒ、道德上ノ是非ヲ、教育ノ效
 驗ナリトスルコトニ、服セスシテ、**哈氏**ハ、是カ爲ニ感覺ノ圈ヲ擴張シ、別
 ニ新タナル一覺性ヲ立テ、之ヲ解釋セムト欲セリ、此新覺性ノ官司ハ、
 即チ一種特別ニシテ、此ノ如キ是非ノ別ヲ、認識スル者ナリト、此考定ノ
 偏スル所ハ、著明ナリ、此考定ニテ、正不正ノ觀念ヲ、我カ天然ノ性ヨリ出
 タリトセリ、是其以テ前ノ諸説ニ、勝レリトスベキ所ナリ、然レ猶此觀念
 ナ、唯感性ノ列ニ、位セシメタリ、是道德ノ事ヲ以テ、徒ニ情思トナシ、徒ニ
 之ヲ感動ノ事トナシ、吾人感性ヲ具スル性ニ於ケル、衝動トナシタリ、然
 ラハ、是唯主觀ノ事タルニ過キスシテ、猶色ト味ヒトノ、我カ官具ニ於テ
 スル衝動ノ如ク、其本然ハ、物體ノ形質ニ非ルト一般ナリ、而テ、此覺性ノ
 攪動ハ、獨立シテ存スル者ニ非ス、唯我ニ相關シテ、存スル者ナルカ故ニ、
 此見解ニテハ、道德上ノ是非ハ、徒ニ我カ心ノ、客觀上ノ攪動ニシテ、彼ニ

論十
 虎謨并ニ
 詭辯學ノ
 徒ヲ論ス

覺性ト云
 フ語ノ、模
 糊ナルヲ
 論ス

獨立ノ實在アルニハ、非ルナリ
 虎謨ハ此一般ノ見解ヲ許シ、之ヲ究討シテ、其純然ノ極ニ至リ、道德ヲ以
 テ、徒ニ我カ性ト、一定ノ物體トノ中間ニ、生スル關係トシ、其行事ノ形質
 實在ニシテ、存スル者トナサハ、リキ、故ニ此説ニテハ、徳ト惡トハ、色ト味
 ヒトノ如ク、其明暗甘辛ハ、唯我カ感覺中ニ、在ルノミト
 此疑惑學ノ見解ハ、カノ古昔ノ詭辯學ノ徒ノ、講明セル所ニシテ、其徒ハ、
 人ハ萬物ノ尺度タリ、故ニ其物ノ長短ハ、唯我カ見ル所ニ、在ルノミト、教
 ヘタリト
 是士低瓦的ノ指目セル如ク、此見解ハ、必ス**哈車孫**ノ考定ヨリ、來リタル
 ニモ非ス、又恐テクハ、**哈氏**此ノ如キ見解ヲ、立テタルニモ、非ルヘシト、雖
 其學派ノ、自然ノ偏倚ニ、由ル者ナルヘシト、是真ナリト謂フヘシ、覺性
 ト云フ語、**哈氏**ノ用非タル所ニテハ、自ラ模糊ニテ、心ノ知覺ヲ徵スル爲

此ノ如キ能力ハ明證ナキヲ

ニ用井クル者ナルヘシト雖也今覺性ト言ヘハ我カ體性ノ中ニテ外部ヨリ攪動ヲ受ケタル時我ニ感覺ヲ與フル部分タリト領解スヘシ故ニ視聽ノ覺性嗅味ノ覺性ノ若キ皆是ナリ哈車孫ノ此語ヲ用井タルハ此ノ如クナリシト見エ其譬喩ハ悉ク此方向ヲ示シタリ蓋シ其此語ヲ用井其比喩ヲ取レル不幸ニシテ此ニ至リ又不幸ニシテ虎謀ノ如キ弟子アリテ以テ其考定ヲ推究シテ其純然タル極ニ至ルニ及ヘリ若シ哈氏ヲシテ一種ノ覺性ナル語ヲ以テ唯心ノ直チニ知覺スル勢力ヲ指サシメハ此ノ如キ能力ヲ認識シテ問題ナル觀念ヲ之ニ歸スルコト誠ニ允當ナリト謂フヘシ然レ是覺性ト云フ語ノ本來ノ訓義ニ非ス又徒弟ノ之ヲ解釋セル意ニモ非ルナリ然ルニ哈氏ヲシテ覺性ヲ以テ其語ノ本然ノ字義ニテ指ス如ク感性ニテ外部ノ物ヨリ印象ヲ受ルノ性ヲ指シ我カ覺性ノ官具ヨリ攪動ヲ受

論ス

其必要ニ

ケタル事ト同一類例ナリトセシメハ首トシテ其眞ヲ得サルコトアリ何トナレハ吾人一モ此ノ如キ一種能力ヲ有セサレハナリ此ノ如キ官具ニ就テハ一モ明證ナク加旃其事實全ク反言對ニ出ルチヤ蓋シ道德上ノ衝動即チ感覺ニ就テハ此假想ニテ自然表現スヘキ一致絶テアルコトナシ人ノ耳自ハ世界中其發動ノ機法甚タ一様ナリ故ニ一人ニ白若クハ赤ト見ユル者他人ニ黒キニ非ス又他ノ一人ニ綠リナルニ非ス一人ニ甘キ者ハ他人ニ酸キニモ非ス又辛キニモ非ス然ルニ所謂一種ノ官具ニ至テハ其作用獨リ是ト反セリ蓋シ人皆多少正邪ノ觀念ヲ有セサルナシ然リ而テ之ヲ躬行ノ一事例ニ適用スルニ當テハ其差異得テ生シ易キ者アリ一人ノ徳トシテ善ニスル所他人之ヲ譏リテ以テ罪業トナセリ之ニ繼キテ吾人ヲシテ此種類ノ觀念ヲ得セシムルニ一ノ特別ナル覺

性ヲ假リテ、之カ助ケヲナスハ、絶^ニ要セサルコトアリ、蓋シ、祿可并^ニ哈
 車孫ノ信セシ如ク、吾人心ノ運用、即チ意識ニ資スル觀念ヲ除キ、其他、百
 般ノ觀念ハ、究竟感覺ヨリ、之ヲ取ル者ナリト云フハ、眞ニ非ス、吾人既ニ
 眞理ノ觀念、美妙ノ觀念、因由應效ノ觀念、幾何算術ノ諸數、相關スルノ觀
 念、并ニ其他、諸種ノ觀念ヲ有ス、是皆其由ル所ヲ推究シテ、之ヲ五官ニ歸
 スルハ、難事ナルヘシ、故ニ果シテ、其言ノ如クナラムカ、是皆正邪ノ觀念
 ト共ニ、之ヲ生スル爲ニ、各一種ノ覺性ヲ具スルコトヲ要スヘシ
 然ラハ、則チ、吾輩、カノ彝倫學ノ諸家ノ中、此觀念ノ源由ヲ伴結^ノ理法ヲ
 以テ、解釋スル一種ノ見解ヲ取ルヘキカト、此說ヲ取ル諸家ハ、哈多禮彌^{ハートリ}
 爾、馬京士士并ニ、此流亞ノ諸人ニシテ、此ノ如キ講究ニ於テ、容易ニ擯斥
 ス可ラサレナリ、其見解ハ、以謂ラク、道德ノ知覺ハ一定ノ情アリ、先^ッ之カ
 地ナナシ、相結合シテ、生ズル者ナリ、其情ハ、感恩、哀憐、厭惡等ノ如シ、是本

來、他人ノ性質制行ニ就テ、發スル者ナレトモ、極テ容易ニ、其人ヨリ轉移シ
 テ、其制行ニ遷リ、又其制行ヲ促カセシ性質ニ遷リ、其性質制行ヲ視テ、一
 形質ヲ具スル者トナスコト、天然ノ如ク然リ、此ノ如ク、轉移シテ、相伴結
 シタル時ニ、吾人道義ノ情、又道義ノ知覺ト、名クル者ヲ成スナリ、是恰モ、
 慳貪ハ尋常錢貨ヨリ生スルニ非ス、錢貨ヲ以テ、買ヒ得ヘキ物ヲ好ムノ
 欲ヨリ、生スレトモ、其欲、究竟其好ム所ノ物ヨリ、轉移シテ、其物ヲ獲ルノ方
 略器械タル、錢貨ニ遷ルカ如シ、而テ、同感ハ本是、一定ノ時機ニ處シテ、吾
 人自己ノ心胸ヲ、感痛スル情ナレトモ、此感動ヲ轉移シテ、他人ニ遷スヨリ、
 生スルカ如ク、總テノ感動モ、是同シク、伴結ノ理法ニ依テ、自然ニ、他人
 ノ躬行ヲ見テ、生スル者ナレトモ、竟ニ其人ヨリ、轉シテ、行事ニ遷リ、敵ト思
 人トヨリ、轉シテ、傷害ト恩惠トニ移リ、而テ、其行事後來獨立シテ、或ハ善
 ズヘキ、或ハ罪スヘキ事トナルカ、凡テ仁惠ナル行事ヲ善シ、其反體ヲ

獨知ヲ以テ徒ニ情思トナスヘキカチ論ス

罪スルコト、變シテ性質ト化スルハ、此ニ在リ此性質此ノ如ク轉變シテ、化成スル者ハ、獨知ノ一部タリ、是總テ他ノ元行タル情ニ於テモ、亦然リ此考定ノ、其全備ニ至リテ、學術上ノ體段ヲ具セルハ、首トシテ、馬京土土ニ依ル所ニシテ、是ニテハ、獨知ヲ以テ、全ク情思感動ノ事ト、ナセルコトヲ覺ルヘシ、故ニ此ヨリシテ見レハ、一種覺性ノ考定ト、同シ地位ニ立テ、大半ハ同シ擯斥ニ屬スヘキナリ、是ニ由テ、カノ情思學ノ名ハ起リ、屢此見解ヲ取レル黨羽各人ヲ、總テ稱スルノ名稱トナレリ、然ルニ此考定ハ、上ニ云ヘル如ク吾人ノ道德ノ情思ノ生スル方法ニ就テ稱スヘキ解釋ヲ供シタル如ク、見ユルト雖モ、吾人ノ觀念ト、道德上ノ正直ノ知覺トニ就テハ、其源由ヲ解明スルコトナシ、ソレ道德上ノ能力ハ、徒ニ情思ニハ非ス、人皆靈智ノ知覺アリテ、一事ヲ正トシ、一事ヲ邪トス、而テ、今論題ナル疑問ハ、此知覺ハ、何處ヨリ來リ、其觀念ハ、何ニ本ツキテ立ツカト、云フ

其他ノ擯斥ヲ舉ク

ニ在リ、然ルニ、今此事ノ全體ヲ舉リ、之ヲ轉移伴結シタル、一定ノ情ニ、鎔化スルハ、是固有正邪是非ノ別ヲ以テ、唯行事ノ形質トナシ、善徳ト惡行トヲ以テ感性ノ作ル所トナシ、此等ヲ取テ以テ、感動ノ興起ヨリ、之ヲ生シ、之ヲ運用スル者タルヲ、示スナリ、且ソレ、正直ノ知覺觀念ヲ、許スモ、其源由ヲ、之カ地ヲ、ナス情ニ歸スルハ、カノ性理學ノ運用ニ於テ、自然ノ次序ト、理法トヲ、顛倒スルナリ、性理學ニテハ、情ヲ、知覺ニ本ツキ立ルト雖モ、知覺ヲ、情ニ本ツキテ、立ルコトナシ、吾人、始メニ驚動シ、愛惡シ、而テ後ニ、知覺セズ、正ニ其反體タリ

此論題ナル見解ハ、道德上ノ能力ノ事ヲ以テ、全ク彼此相關スル事トシテ、カノ獨知ヲ、天然ノ能力トスルヨリモ、寧ロ、學ヒ得タル能力トセリ、是即チ、之ヲ以テ、固有ノ本元トスルヨリモ、寧ロ、情ヨリ變化スル者ニシテ、第二ノ運用トオスナリ、且ソレ、此獨知ヲ以テ、其源由ヲ、吾人ノ性中、純然

タル私欲ヨリ取リタルハ、亦甚シキ不正ナラスヤ、余今、人ノ恩惠ヲ受ケ、若クハ、傷害ヲ受ケ、依テ以テ、其此ノ如ク、我ヲ待シタル人ヲ見、或ハ、恭敬ノ情ヲ加ヘ、或ハ、其反體ヲ以テス、此感動ヲ、余、其行事ノ獨立シタル者ト視テ、漸次ニ、之ニ、轉移シ、之ト伴結セシメテ、竟ニ之ヲ以テ、他ノ同種類ノ行事ト、伴結セシメ、而テ最後ニ、余、道德上ノ能力ヲ具シ、一事ヲ正トシ、一事ヲ邪トシテ、表言スルニ至ルト、豈亦怪ム可ラスヤ

此見解ハ、其事實ト相違ヒ、世ニ能ク知レタル、人心ノ理法ト、相忤スルヲ以テ、全然取ル可ラス、ソレ人、道德ノ能力ハ、諸能力ノ中ニ就テ、其開發、最モ夙歲ニ、在ルノ一ニシテ、既ニ稚兒ノ時ニ顯ハルレトモ、學ヒ得タル第二等ノ本元トシテ、表見スルニモ非ス、其漸次、化成長大ナル爲ニ、歲月ヲ要シテ、轉移伴結シタル情ノ、組織セル運用ヨリ、發生スルニモ非ス、但寧ロ、我カ性中ニ、固有セル本能ノ元トシテ、表見スルナリ

此說ノ事實ニ違フヲ論ス

同感ヲ論ス

亞當、士美梭、其道德上情思ノ考定中ニ、一ノ見解ヲ表セリ、是本ト一般ニ伴結ノ考定中ニ入り、之ニ少シク、變革ヲ加ヘタル者トシテ、見ルヘキ者ナリ、其說以謂ヘラク、吾人道德上ノ知覺ハ、同感ノ情ニ歸ス、他人ノ情感ヲ、收納スルハ、是其情感ヲ善ニスルナリ、若シ其情感ヲシテ、同一ノ事物ニ由テ、自然ニ、我カ心ニ、此感ヲ生セシムル者ナル時ハ、我之ヲ善シテ、當然ナル道理トス、故ニ、恩惠ヲ受ケタル人ヲ、辱ナク思フノ同感ハ、我ヲシテ、恩惠ノ事ヲ、功勞トシテ、視セシムルニ至リ、傷害ヲ受ケタル人ヲ、厭フノ同感ハ、其傷害ヲナセル人ヲ、罰スルニ足レリトシテ、視セシムルニ至ル、此ノ如クニシテ、過失ノ意ヲ生ス、又、我カ自己ノ躬行ニ就テ、他人ノ情意ニ、同感ヲ興セハ、我乃チ、自ラ善ニスルノ情ヲ發ス、以テ我カ本分トスルノ意ヲ生ス、是ヲ以テ、道德上ノ諸規ハ、唯此ノ如キ情思ノ、要略タルニ過キスト、從來ノ諸哲家ニ在テハ、此元理ヲ取テ、十分ニ之ヲ論駁スル者ナシ、唯此

是見解モ

意識本ニ
ツカサル
ヲ論ス

同感ハ硬
要ノ品性
ナラサル

精巧ナル著家ヲ信シテ、別ニ意ヲ措クコトナシト雖也、吾輩ハ論シテ此
ニ至レハ、之ヲ完好ナラサル解釋ナリトシテ、措クコト能ハス、其首トシ
テ答ムヘキハ、吾人、道德ノ能力ニ因テ、知覺辨決スル時、同感ノ元行、其間
ニ參スルハ、意識ニ供セサル所ナリ、吾人一定ノ行事ヲ見テ、乃チ正トシ
邪トシ、而テ之ニ本ツキテ、之ヲ善シ、之ヲ罪ス、是唯、其行事ノ、正タリ邪タ
ルヲ以テナリ、未ク曾テ、其行事ニ依テ、他人ノ心中ニ興起シタル情ト、同
感アルヲ、以テノ故ニ非ルナリ、然リ而テ、若シ上ノ如キ運用ニ於テ、我其行
事ヲ知レト、我其行事ノ道德ニ關シテ、之カ辨決ヲナスノ際ニ當リ、情思
ノ參スルアラハ、吾人、素ヨリ之ヲ知リ、之ヲ認ムヘシト雖也、之ヲ別ノ元
行トセムノミ
且ソレ、同感ハ、他ノ諸情ノ如ク、硬要ノ品性ヲ有スル者ニ非ス、況ヤ、若シ之
ヲシテ、心裏ニ、道德上是非ノ觀念ヲ、提起セシムヘシト、假定スルモ、道義

ヲ論ス

其正直ノ
大本ヲ論
ス

ノ情ニ至テハ、同感ヲ以テ、其址ヲ立ルコト能ハス、而テ、道義ノ情ハ、道德
上能力ノ裁決ト共ニシテ、之カ品性ヲナス者ナルヲヤ
然ルニ、是ヨリ一層辨スヘキハ、此見解、正邪ノ大本ヲ、不定變易ニ供スル
者トシ、之ヲ人々ノ情感ニ、歸シタルニ在リ、果シテ然ラハ、吾人、一定ノ行
事、正シカ、邪マナルカヲ知リ得テ、之ヲ爲シ、若クハ、之ヲ止ムト、欲スルノ
前、預メ他人ノ、之ヲ思ヒ之ヲ感スルハ、何如、又此事ノ、他人ヲ攪動スルハ、
何如ト、之ヲ知ルヲ、要スヘシ、而テ又且、我ノ情感、他人ノ情感ト、一致スル
ヲ要シ、以テ、其見解上、情感ト、同感タリ、和合タルヲ、要スヘシ、然ラサレハ、
其效驗ハ、生セサルナリ、果シテ然ラハ、今一定ノ行事、方ニ行ハル、時、他
事アリテ、他人ノ情感何如ヲ、知ルコトヲ、阻息セシメ、若クハ、又他ノ道理
アリテ、我、他人ノ情感ト、其感ヲ同クスルヲ、得サル時ハ、吾人、其事ニ於テ、
獨知ヲ有スルコト、能ハサルナリ、若シ其情感ノ變スル毎ニ、吾人、道德上是

前ノ講究
ノ效驗ヲ
論ス

非ノ別ヲシテ、遷ラシメハ、吾人、一定ノ大本ヲ有スルナク、所謂正義ナル者、純然地歩ヲ占ムルコト莫ケム、是同感ナキ時ハ、本分ノ義務ナク、正義ナク、又道德ナキナリ

余輩、此ニ至ルマテ、未タ道德ノ觀念知覺ニ就テ、其源由ノ十足ナル解釋ヲ見ザリキ、是教育摸擬ニ由ルノ、效驗ト見ユス、又法制控勒ノ效驗トモ見ユス、其造設、若クハ、學習ニ出タルヨリ、寧ロ、天然ニ出タリト見ユ、然レ、余輩、又之ヲ踪跡シテ、吾人ノ性中、感覺ヲ具シタル部ノ、發作タリトスル能ハス、是亦、一種特別ナル覺性ノ、所産ニモ非ス、又一一定ノ天然ノ情ノ、結合伴生セル發作ニモ非ス、況ヤ、同感ノ如キ、一情ノ效驗ナラサルチヤ、然リ而テ、是猶、我カ性ノ一部ニ屬セルコト疑ナシ、試ミニ、一人ヲ、汝カ欲スル處ニ置ケ、之ヲ圍繞スルニ、汝カ欲スル所ニ從ヒ、他ノ感動ヲ、起ス者ヲ以テセヨ、然リ而テ、汝尙、其人ニ於テ、少クモ、稍道德上ノ性ノ、發見スルチ

第五
辨
決

見ルヘシ、實ニ其性ハ、外界ノ情狀ニ因テ、變更スルコトアルモ、曾テ全ク塗抹シ盡ルニ、至ラサルヘシ、然ラハ則チ、問題ナル觀念ヲ、靈智ニ歸セサルチ、得サルヤ、較著ナリ、何トナレハ、是既ニ、我カ性ノ感覺アル部ニ屬スル者ニ、非レハナリ

然ラハ則チ、是辨決ノ能力ノ、生スル所ニシテ、其運用ナル莫ラシヤ、然レ、辨決ハ、觀念ヲ生スル者ニ非ス、辨決ハ、計較ヲナシ、分排ヲナシ、價直ヲ商定シ、以テ其事ノ、何ノ種類、何ノ分類ニ屬スルヤヲ、決定スル者ナリ、然レ、絶テ創造スルノ用ナシ、余今、心中ニ、正三角、正圓等ノ觀念ヲ有ス、而テ一定ノ輪廓アリテ、目ニ觸ルレハ、余直チニ、辨決ノ發作ニ依テ、其屬スヘキ種類ニ、之ヲ充テ、其或ハ正三角タリ、或ハ正圓タリ等ヲ、肯定ス、辨決ノ用ハ、此ノ如シ、然レ、辨決ハ、余カ心ニ、三角、正圓等ノ、根元ノ觀念ヲ、供スルニ非スシテ、唯既ニ心ニ在ル觀念ヲ、以テ、用チナス者ナリ、吾人ノ美妙醜

此觀念ハ、直覺力タルヲ論ス

惡ノ辨決モ亦此ノ如シ、一山水、若クハ、一畫圖ノ、美妙タリト云フ知覺ハ、一ノ意味ニテハ、辨決ノ作用タリ、然レ、是此ノ如ク辨決スル美妙ノ觀念ヲ、既ニ心ノ中ニ在リトシテ、預メ定メタルナリ、道德上是非ノ別ニ於テモ、亦然リ、故ニ、制行ノ道德ニ關スル品性ニ就テ、各自ニ之ヲ是非スル、辨決ノ基礎タル正邪ノ觀念ハ、何處ヨリ來ルカ、是目前ノ問題ニテ、未ダ答辭ナキ者ナリ、而テ是ニ就テ、唯一答辭ノ存スルアリ

問題ナル觀念ハ、直覺ニシテ、理性ノ提起知覺タリト、此見解ニテ、解釋スルハ、次ノ如ク、理性ノ官司ハ、正邪ヲ辨シ、並ニ眞偽ヲ辨シ、美惡ヲ辨スル者ナリ、正邪、并ニ、美惡ト、眞偽トハ、之ヲ主觀ヨリ觀テ、人心ノ理會トスレハ、分解法ト、定義トニ、供ス可ラサル單純ナル觀念ニシテ、即チ理性ノ直覺ナリ、之ヲ客觀ヨリ視レハ、正邪ハ、實在ニシテ、事物ノ純全ナル形質、其性中固有ノ具ニシテ、假設ニ非ス、人心想像ノ運用、若クハ、感發ニ非ス、是

第一元ヲ論ス

人心ニ關係シテ、存スル者ニ非スシテ、獨立、本體、普通、純全ナル者ナリ、理性ニテ、正邪ノ存在ヲ認ムルヤ、蓋シ此ノ如ク、辨決ハ、唯云々ナル行爲ハ、此形質ノ中ニテ、彼ヲ有シ、若クハ、此ヲ有シ、一ハ正事タリ、一ハ邪行タルヲ、斷スル者ナリ、是ニ於テ、爲スヘキト、爲ス可ラサルトノ、義務ノ、意生シ、是ニ於テ、服從スルニ足レル功德ト、服從スルニ及ハサル無益トノ、意識發ス、此知覺ニ、伴ヒ、情モ亦興ルト雖レ、唯之ヲ基礎トシテ、生スル耳、情ハ、情思學家ノ肯定セル如ク、觀念、并ニ、知覺ヲ生スル者ニ非スシテ、觀念ト、知覺トハ、情ヲ生スル者ナリ、吾人ハ、行事ニ就テ、其道德上ノ形質ヲ觀レハ、一定ノ情ヲ感發ス、是我カ、稟生ノ性ナリ、然レ、此道德上ノ形質ノ觀念ト、知覺トハ、必ス先ツヘキ者ニシテ、之ヲ生スルハ、理性ノ官司ナリ

一定ノ單純ナル觀念アリ、是皆人ノ悟性ノ第一等ノ本元トシテ、視ルヘキ者ニシテ、悟性ノ運用ニ、少ク可ラサル者ナリ、即チ、普通、純全、必要ナル

諸觀念ニシテ、人心存在、人心同一、時間、空間（此ニツハ、物質ノ存在ニ關ス）
數、因縁、并ニ、數學上ノ關係ハ、皆此種ノ觀念ナリ、真理、美妙、正直、及ヒ、其反
體ノ觀念モ、此種類中ニ位スル者ニシテ、論辯、并ニ、道德ノ基礎タル本規
ハ、皆此ニ在リ

直覺ノ知ハ、一ノ意味ニテハ、感ニ取テ、原生トナス可ラサルモ、同生トナ
ス可シ、是吾人ノ性、并ニ、稟生中ニ居エタル發作ノ基礎ナリ、此心、開發シ
テ、一定ノ度ニ達スレハ、直チニ現出ス、唯現出チ促カスト、慢ニスルトハ、
境遇ニ由ルノミ、故ニ其發生ノ時ヲ得ルハ、機會ニ關スト、雖モ、然モ、人ノ
靈魂ノ、自然天然ノ開發ニ非ル莫シ、即チ實ニ、吾人ノ性ノ一部タルコト、
猶吾人他ノ本能ノ衝動、若クハ、心ノ形質ノ如シ、是即チ、造物主ノ、吾人ノ
有體ニ賦與セル所ノ、此固有靈智ノ一部ナリ、然モ、吾人、此直覺ヲ具ルハ、
正邪ノ基礎タルニ非ス、是ニ依テ以テ、正シキ一事ヲ爲シ、邪マナル一事

何如シテ
提起セラ
ル、ヤチ
論ス

チ爲スニ、非スシテ、是ニ依テ以テ、一事ヲ正ト視、一事ヲ邪ト視ルノ、理性
タルノミ、是吾輩、吾人、道德上ノ知覺ノ、源由ニ就テ、眞ノ解釋タリト信ス
ル所ナリ

第二章 正直ノ認識

正直ノ觀
念ト區別
シタル認
識ヲ論ス

此勢力ノ
存在ヲ論
ス

前章ニ於テ、正直ノ觀念ヲ、此心ノ一理會トナシタレハ、是ヨリ之ヲ此心
ノ正直ヲ認識スル、發作トシテ、視ルコトヲ論スヘシ、此題目ハ、容易ナラ
サルノ一タレモ、又同シク、極メテ切要タル者ナリ
既ニ前ニ、論述シタルヲ以テ、人ニ、道德ノ能力ノ、存在スルコトニ就テハ、
序論ノ、講究ヲナスニ及ハス、吾人ハ、道德上ノ是非ノ別ヲナス勢力ヲ、有
スルコト、并ニ、吾人、人ノ躬行ニ於テ、其正邪ヲ、辨別スルコトハ、人間世々
ノ、史乘ニ、徵シ、性理ニ、考ヘテ、著明ナル事實ナリ、人ノ意識、視察、言語ノ、成
形、世々ノ、文章、社會ノ、慣習、一トシテ、此真理ヲ、證シテ、其堅固ヲ、極メタル

莫シ、吾人、我カ自己ノ躬行、若クハ他人ノ躬行ヲ、觀察スル時ハ、必ス吾人ノ心ニ、此元理ノ運用アルニ就テ、現ニ意識ヲ有シ、故意ナラス、恰モ本能上ニ出ルカ如ク、此事ハ正ナリ、其事ハ邪ナリト、表言シテ在リ、且吾人之ヲ爲スヘキ義務タルコト、若クハ、然ラサレハ、爲スヘキ義務タリシコトヲ認識シ、或ハ善ミシ、或ハ毀リ、或ハ自ラ善ミスル時ハ、自ラ身ヲ處クモ、自ラ平安疾シカラス、或ハ其譏リヲ受ル時ハ、惶懼限リナク、若クハ、怒憤己マズ、此心ノ憂擾ヲ覺ルナリ、而テ、吾人、自己ノ心ニ視ル者ハ、又他人ニ於テモ、其然ルヲ見ル、故ニ、同一ノ境遇ニ處シテハ、人々亦、同一ノ是非ヲ認識シ、又、同一ノ情ヲ現ハス、若シ顯然タル不正、若クハ、邪惡ノ行アレハ、之ヲ小説ニ見テモ、之ヲ現在ニ視テモ、憤然皆チ裂クコト、小兒戎狄ト、カノ哲學先生ト、何ソ撰ハム、且ソレ此事、一代一國ニ限リタル事ニ非ス、世界ノ言語、文章ハ、何ノ時代ヲ論セス、何レノ邦國ニ限ラス、正邪是非ノ別ヲ、認識セ

講究ニ屬
タル問題
ヲ論ス

サルナク、其感覺、有ラサルハ、莫シ、希臘語ニテ、ト、チカイオン、正直又ト、カ
 ロソノ善美、又拉丁語ニ、テ、ホチスチユム、正良、又ヒユルクリユム、美健ト云フ語、一
 種類ノ字義ニテ、何レノ國語ニモ、其意義ノ語ナキハ、莫シ、而テ、其語ノ意
 味ト、用法トヲ、此問題ニテ、是非ノ心ト云フナリ
 果シテ然ラハ、吾人、道德上ノ是非ヲ、認識スルコト、疑ヒテ容レサル所タ
 ルヲ以テ、吾人、此道德上ノ能力ヲ有スルヤ、亦的然タリ
 此事項ニ就テハ、此外ニ論スルコトナク、正ニ此章ノ題目ノ講究ニ就ク
 ヘシ、然ルニ、此講究ハ、首トシテ、此能力ノ性質ト其權カトニ係ハル者ニ
 シテ、此事項ニ就テ、諸哲家、并ニ、諸神敎學ノ中ニテ、其說區々ニテ、大爭論
 チ生シタルハ、言フニモ、及ハサル事ナリ、曰ク、此能力、運用ニ發シタル者
 何如、辨決タリヤ、論辨ノ運用タリヤ、ハ、情タリヤ、是、我カ性ノ、道理ヲ知
 ルノ部ニ屬スルカ、ハ、感動スル部ニ屬スルカ、靈智ノ區域ニ屬スルカ、

第二 獨知ノ性質

ハタ、感性ノ區域ニ屬スルカ、或ハ此兩者ニ屬スルカ、吾人、道德上ノ知覺ニ於テ、其力量ト、其當否ト如何、殊ニ、其躬行、認識シタル義務ニ合スルト、之ヲ犯ストニ準シテ、自他ノ上ニ、來レル應允ト、貶責トニ於テ、其批判ノ強弱、正不正ハ何如ト、是獨知ノ權力ト、性質トニ就テ、生シタル問題ナリ。獨知ハ、何物ソヤ、是靈知ノ事カ、感性ノ事カ、辨決ニ屬スルカ、情ニ屬スルカト、是獨知ノ效用ヲナス諸種ノ元行ト、心上ノ運用トヲ定ムル爲ニ、細心ニ、獨知ノ現象ヲ、分解スル時ハ、此問題ヲ解クノ、援助ヲ得ヘシ。

獨知ノ發作ノ分解

凡テ吾人、靈智アリテ、道理ヲ知ル有體ニ就テ、其行事ヲ以テ、我カ觀察ノ目的トナス時ハ、其行事ノ、我カ自己ノ事タルト、他人ノ事タルトニ拘ハラヌ、又、其行事ノ、既ニ成リ了リタルト、唯謀リタル耳ナルトニモ拘ハラヌ、必ス、我カ心ニ、一定ノ提念ノ、醒發スルヲ認メテ、其行事ニ就テ、一定ノ

正直ノ認識ヲ論ス

義務ノ觀念ヲ論ス

衝動ヲナスヲ覺フ、此時、最初ニ觀察シタル行事、我ヲ動カシテ、正、若クハ、邪トナス、是、二重ノ元行ヲ含ム者ニシテ、一ヲ觀念トシ、一ヲ知覺即チ辨決トス、正邪ノ觀念ハ、心中ニテ、單純ナル觀念ナレハ、定形ナシト雖、他觀察シタル行事ニ於テ、此單純ナル元行ノ中、其一(正)若クハ、他ノ一(邪)ヲ認メ依テ以テ、正ヲキ行事、若クハ、邪マナル行事ナリト表言ス、是專ラ辨決ニシテ、知覺ノ事、即チ悟性ノ運用ナリ。然ルニ、此觀念生シテ、其一行事ノ正シキト、邪マナルトノ認識、熟ク此心ニ旺スレハ、直チニ又、他ノ一觀念、一認識現ハレ來リ、前ノ觀念認識ト共ニシ、之ト離拆ス可ラサルニ至ル、是即チ、其行事ハ、爲スヘシ、若クハ、爲ス可ラスト、云フ義務ノ、觀念認識ニシテ、所謂、爲スヘキニ屬シ、若クハ、爲ス可ラサルニ屬スト云フハ、是ナリ、然ルニ、此觀念モ、亦單一ニシテ、定形ナシ、故ニ、此觀念モ、亦將來ノ事ニモ、過去ノ事ニモ、自己ノ事ニモ、他人ノ事

ニモ、均シク適用スヘクシテ、余ハ、此事ヲ爲スヘキニ屬ス、又余ハ、昨日、此
 事ヲ、爲スヘキコトニ屬シタリ、又、彼人ハ、其事ヲ爲スヘク、若クハ、爲サル
 ヘク、若クハ、爲スヘキニ屬シタリト、謂フヘシ、是又、前ト同シク、靈智ノ發
 用、眞理實在ノ知覺認識ナリ、是即チ、他ノ實在ノ道理ノ如ク、其立證者ノ
 存スル者ニテ、其曉解セル事實、即チ是ナリ、故ク之ヲ一般ニ施シテ、我カ
 心上ノ此能力ニ、合セサル處ナク、之ヲ各自ノ細事例ニ當テ、其運用正
 當ナラサルナシ、故ニ、正直ノ知覺ヨリ、之ヲ離拆ス可ラサルハ、此心ノ的
 證スル所ニシテ、一ノ知覺明亮ナリトセハ、他ノ認識ヲ免レムト欲スル
 モ、得可ムヤ

功過ノ觀
 念ヲ論ス

然ルニ、又繼テ、第三ノ元行ヲ生ス、是致知學上ニテハ、別ナレド、曆譜上ニ
 テ、其時ヲ論スレハ、前ナル觀念ト、離拆ス可ラサル者ニテ、其所行ト連絡
 シタル功過ノ認識、即チ其所行ノ善トナリ、惡トナルヲ以テ、其所行、并ニ、

其人ヲ善シ、若クハ、善セサルコトナリ、今其行事ノ正、若クハ、邪タルヲ知
 覺シ、而テ其中ニ其人ニ就テ、義務ノ觀念ヲ含メハ、直チニ、亦我カ心ノ中
 ニ、其行フ所ト連絡シテ、功過ノ觀念生スルナリ、故ニ、吾人、其人ヲ視テ、賞
 スルニ足レリトシ、若クハ、毀ルニ當レリトシ、而テ、我カ心ニ於テ、其人、并
 ニ、其行ヒテ善シ、若クハ、之ヲ罪スルナリ、此ノ如ク、其行事ト、其人ニ就テ、
 曉會シタル報ニ準シテ、我自己ト、他諸人ト、之ヲ介諾スル所ハ、正ニコカノ
 心裏ノ法院ニ於テ、審判ノ運用ヲ成メ者ニテ、其法官ノ誤庭ニ、人々ノ所
 行ヲ解送シ、其法官ノ審判ニ、容易ニ廢スヘキ者ニ非ルナリ、然ルニ、此心
 ノ應允スルコトヲ以テ、或人ハ、之ヲ靈知ノ事ヨリモ、寧ロ、感性ノ事トナ
 ス、若カスト視タリ、吾人動モスレハ、人情ノ善シ、若クハ、之ヲ毀ルト
 云フ、然レ善シ、スルト、毀ルトハ、本來辨決ノ作用ナリ、此善シタルト、善シセサ
 ル、上ニ、繼テ來ル感動ハ、常ニ此ノ如キ性質ヲ具シ、此ノ如キ力置ヲ具ス

ル者ニテ、竟ニ此心ノ注意ヲ舉リ、悉ク之ニ委ヌルニ至ル、是ヲ以テ吾人自然ニ此運用ヲ舉リ之ヲ感性ノ事ト思ヒ、感性ノ事ト言フニ至レリ、然レ、嚴密ニ之ヲ觀レハ、是靈智ノ知觀ニテ、辨決ノ運用ナレハ、其觀察セル行事ハ、其適スル所ノ功過何如ニ在テ、依テ以テ、賞譽ト毀斥トヲ、判過スルノ斷文タリ

是此運用ヲ、完周スル者ニシテ、余、我カ心ニテ、道德上ノ見解ニ於テ、心ノ作用ヲ體驗スルニ、此三ツノ元行ノ中、其一ニモ、落チサル者ハ、之ヲ發見シ得ルコトナシ

是各其運用ヲ、個別ニ見ル時ハ、皆正シク靈智ニ屬シ、正直ノ認識、義務ノ認識、善報惡報ノ知覺トモ、總テ靈智ノ作用ナリ、然レ、此認識ノ作用、各亦感性ト相通スルノ作用ヲ含メリ、正直ノ知覺ハ、粹然タル有徳ノ心裏ニハ、快樂、歎美、愛憐ノ感ヲ提起シ、義務ノ觀念ハ、感性ノ興起ニ因テ轉シテ、

此元行ハ、
靈智ニ本
ツクヲ論
ス

其行事ニ服スルノ衝動發意トナリ、善報ノ認識ハ、敬重恭謙ノ感、若クハ、其反體ヲ提起シ、靈魂ニ滿ルニ、和煦好睦ヲ以テシ、若クハ、之ヲ縛スルニ、哀痛憂苦ヲ以テス、然ルニ、總テ此等ノ作用、性理學家ニ在テハ、正ニ獨知ノ現象中ニ、之ヲ認識シテ、其中ニ挿入スヘシ、唯此情感ハ、上ニ舉タル靈智ノ作用ノ上ニ、本ツキ、其基址ニ依テ、長大ニ至ル者ニシテ、縦ヒ、運用ノ全體ニ於テ、切要ナラサル部分タラサルモ、之ヲ視テ、偶然且、下行ノ者トスヘシ、故ニ今、獨知、若クハ、道德ノ能力ト言フ時ハ、其勢力即チ能力ノ事ヲ、爲サシムル者アルヲ謂ヒ、唯攪動セラル、コト、即チ、其感動ヲ謂フニ非ス、是又實在ノ理ニ對シテ、作用ヲ發シ、眞ニ是非ノ別アルヲ、認識スル知力ニシテ、唯感性ノ受動ノ、發シタルノミニ非ルナリ、是唯、眞理、并ニ、其關係ノ中ニシテ、一定ノ種類ヲ、認識スル心力ナリ、然ル故ニ、吾輩、之ヲ以テ、此心ノ正シキ知力ノ中、即チ、眞理實在ノ知覺ヲ以テ、作用ヲナス能力ノ

此位置ノ
切要ナル
ヲ論ス

問ニ其位ヲ占スルノ本分アル者トナスナリ
是亦一切要ノ事項ナリ、今或著述家ノ如シ、此道德上ノ能力ヲ以テ、徒ニ
感動ノ事トセハ、此感動ノ基キタル靈智ノ知覺ヲ忽略シテ、其解釋ヲナ
スコ當リ、其運用ノ首タル元行ヲ、忽棄スルナリ、然ラハ、道德上ノ能力ハ、
既コ己ニ、知力ニ非ス、既コ己ニ、其實、能力コ非ルナリ、果ソ然ラハ、其認識
シタリト見ユル是非ノ別ハ、唯主觀ノ事ニテ、印象感動タレハ、是ト相通
スル實在ハ、有ルモ可ナリ、有ラサルモ可ナリトシ、吾人、少シモ、此ノ如キ
實在ノ的證ヲ、有スルナキナリ、此ノ如キ見解ハ、道德ノ眞ノ基礎ヲ覆ヘ
スヘシ、吾人ノ感動ハ、變スルヲ得ヘキモ、正邪ハ、我カ感動ニ從ヒテ、變易
スルヲ得可ラス、正邪ハ、客觀ノ實在ニシテ、主觀ノ現象コハ非ス、此心ハ
其此ノ如キ天然ノ勢力ヲ以テ、造物主ヨリ、賦與セラレタルコ依テ、之ヲ
認識スルヲ得、而テ依テ以テ、其實在ヲ知ル、勢力ヲ、吾人、道德上ノ能力ト

ハ名クルナリ、是猶吾人、眞理ト其關係トノ中ニテ、他ノ一種、即チ、美妙ノ
認識ヲナス心ノ勢力ヲ、其美妙學上ノ能力ト、名クルト一般ナリ、此眞理
ト關係トチ、目的トシテ、此ノ如ク知覺シタル時、何レノ事例コテモ、一定
ノ感動ヲ起セハ、其情ヲ以テ、獨知、若クハ、雅趣ノ現象ニ屬シ、其一部ヨリ
ト視得ヘキハ、固ヨリ當然ナリ、何レコテモ、此二ツノ能力ヲ、十分ニ講究
スレハ、其中ニ、感性ノ作用ヲ、含ムコト固ナリ、然レコテモ、眞ノ性理
學ニテハ、此能力ヲ、感動タリトシテ、説ク可ラス、是カノ數學者ハ、其諸線
諸角ノ關係ヲ、講究スルコ當リ、其知覺ハ、一定ノ娛樂ヲ、心ニ感スルコト
チ、體驗スト雖モ、此關係ヲ知覺スル勢力ト、此心ノ依テ以テ、此數學上ノ
眞理ヲ、認識スルノ能力トヌ、是ニ就テ發シタル感動トシテ、解説ス可ラ
サルカ如シ

分解シテ

吾輩ノ分解法ニ、從事シタル效驗トシテ、次ニ開列スル元行ヲ得タリ、是

得タル效
驗ヲ論ス

道德ノ能力中ニ含有シテ、其運用ヲ成ス者ナリ

第一 心ノ、其行事ヲ正トシ、邪トスルノ知覺

第二 其正タリ邪タル行事ニ就テ、義務ノ知覺

第三 功トシ過トスルノ知覺、而テ是ニ繼テ發スル專主ノ稱譽誦責

是其事主、此ノ如キ正邪ヲ爲シタリト、知覺スル者ナリ

第四 此靈智上ノ知覺ニ伴ヒ、是ヲ基礎トシ、發シタル一定ノ情、是知

覺ト相通スル者ナレバ、其強弱ハ、心上知覺ノ明亮ナルト、曖昧ナル

ト、其人道德ノ性質、純粹ナルト、雜駁ナルトニ準シ、差異アル者ナリ

此ニ至ルマデハ、獨知ノ性質ヲ論シタリ、故ニ是ヨリ又、其權力ニ就テ

問題ヲ生ス、是即チ獨知ノ決定ニ、依頼スヘキヤ否ヤナリ

其獨知ヲシテ、正シク、正ト邪トヲ看破シ、而テ是ニ繼テ、義務ヲ看破スル

者ナラシメハ、其事主ノ該ル所ニ就テ、正シク、之ヲ辨決スルニ至ルヘシ

第二獨
知ノ權力
ヲ論ス

其正シキ
ハ、何如ノ
的證アル
ヤヲ論ス

若シ獨知ニシテ、上ノ三項ニ就テ、謬誤アラシメハ、善スルニ足ラサル者ヲ

善シ、善キ者ヲ罪スルニ、至ルコトアルヘシ

然ラハ則チ、吾人、獨知ハ、正シク辨決スル者タルヲ、何如シテ知ルヘキ、其

正シキ者タルハ、如何ナル證者カ在ル、其知覺ト裁決トハ、之ヲ寄信スル

幾何ノ度ニ至ルヘキト、言フ意ハ、吾人ハ、恐ラクハ、邪ヲ辨決シテ正トシ、

正ヲ辨決シテ邪トシ、罪スヘキ者ヲ善シ、善スヘキ者ヲ罪スル如ク、此ノ

如ク一定シテ、生レ得タル者ニ、非ルナキヲ得ムヤト、曰ク、眞個ニ、此ノ如

キコト無シト、謂フ可ラズ、二ニハ、其實、五タルモ、四タリト見ユ、三角形ノ

三角度ハ、其實三正角ニ均シキモ、二正角ニ均シト見ユ、余ハ、此ノ如ク、生

レ得タリト、謂フヲ得ヘシ、是固ヨリ謂フ可ラサルニ非ス、然レ、凡テ吾人、

天然知覺ノ、正シキコトヲ護スルニハ、聊カ臆見ナキニ非ス、曰ク、此ノ如

ク知覺スルハ、吾人ノ性ニ、固有セル本元ノ運用ナリト、今姑ラク、之ヲ言

へ、吾人我カ有體ノ一大創造者ニ依テ、生ヲ稟ル、常ニ欺罔ヲ受ル如ク
 ニ賦與セラレタル者ナリト謂フハ、蓋然タラズトシ、視聽ノ官具ハ、全ク
 偽象ヲ呈シ、我カ吾官ノ媒介ニ由テ視聽感觸スル物ハ、我カ心ニ假定シ
 タル知覺ト、絶テ相通シタル實ヲ有スルコト莫シト、謂フヲ得ヘシ、然レ、
 是亦、蓋然ノ假想ニタモ非ルナリ、今ソレ、我カ天然ノ能力ノ、真ナルヲ疑
 フ者ハ、之ヲ憑證スル難クシテ、竟ニ憑證スルコト能ハサルニ至ルヘシ、
 何トナレハ、今汝知覺ノ偽象ナルヲ證スルコトハ、汝正ニ、其疑ヒヲ容レタ
 ル能力ヲ用ササルヲ得サレハナリ、若シ知覺ノ憑證、一ノ事例ニ於テ、信ス
 可ラサル時ハ、他ノ事例ニ於テ、モ、信ス可ラサルコト明カナリ、然ラハ則
 チ、吾人ハ、知覺ノ眞實ナルハ、准可チ歴タリトシテ、取ラサルヲ得ス、而テ
 依テ以テ、之ヲ爲スノ權ヲ有スルナリ、是吾人ノ道德ノ性ニ於ケルモ、亦
 然リ、是我カ有體ノ創造者ニ、本ツク者ニシテ、果シテ之ヲシテ、恒常一致

差錯ナキ
 ナラサル
 論ス

シテ、錯誤アラシメハ、其錯誤、彼ニ存スルナリ、此ノ如キ事情ニ際シテハ、
 其錯誤ハ、看破シテ、改革スルヲ得可ラサルナリ、吾人ハ我カ性ヲ超エテ、
 事ヲナス、能ハス、又我カ天賦ヨリ、初メニ反リテ、事ヲナス能ハス、既ニ賦
 性ノ先天ニ、解決ス可ラス、況ヤ、局外ノ位置ニ在テ、知覺ノ正シキト然ラ
 サルトヲ、辨スルヲ得ムヤ、蓋シ、正邪ハ、實ニ神意ニテ、造ル者ニ非ス、唯吾
 人、之ヲ知覺シテ、正ヲ善シ、邪ヲ罪スルノ能力ヲ、是ヨリ稟ル所ナリトス、
 故ニ、吾人ハ、其一般ニ涉リテ、正當ナルヲ奉スヘシ
 然レ、上論ニ據テ、獨知ハ、差錯ナシ、獨知曾テ誤謬セズト、謂フ可ラス、況ヤ、
 余固ヨリ、之ヲ肯定シタルニ、非ルヲヤ、吾人ノ、道德上ノ知覺、解決ハ、一定
 シテ、正シキ者ナリト、謂フ可ラス、何トナレハ、是我カ生來ノ性ヨリ、發ス
 ル者タレハナリ、其性ノ然ラサルヲ得サルハ、人心ノ諸能力、一トシテ、錯
 繆ヲ受ケズト云ラ者ナク、又其發動スルヨリ方テハ、一モ差錯ナキコト能

其貴重ハ
是ニ由テ
減セサル
ヲ論ス

ハサレハナリ、論辨力モ、時トシテ謬リ、辨決モ謬リ、記性モ謬ル、道德上ノ
能力モ、是ト同一ノ基址ニ立テハ、差錯ナキヲ保ス可ラサルハ、總テ他ノ
諸能力ト同一タリ
人、或ハ云ハム、然ラハ則チ、道德ノ能力ハ、論シテ此ニ至レハ、寄信ス可ラ
サルニ似タリ、是ハタ、何ノ用ニ供スヘキ、余之ニ應ヘテ曰ク、心ノ能力ハ、
何レニテモ、純全、普通ニ、正當ナラサルコトアリト雖モ、用ニ供スルナシ
ト、謂フ可ラヌ、今ソレ、記性ノ若キ、辨決ノ若キ、皆時トシテ、誤ルコトアリ、
是皆、用ニ供スルナシト、謂ハムカ、吾人、此諸能力ヲ舉テ、之ヲ疑ヒ、信スル
ニ足ルナシトシテ、之ヲ廢セサルヲ、得サルハ固ナリ、今、時辰鐘ノ如キ、純
全ノ精チ、盡サ、ルモ、大ニ貴重スヘキ者ナリ、之ヲ造ル者ハ、尋常ノ製作
ニテモ、其普通ニ、正當ナルヲ稱シテ、誇言チ極ムト雖モ、其指針、時トシテ
ハ、偶、日間ノ時子チ、誤リ指スコトアリ

此種ノ事、
現實ニア
ルヲ論ス

カノ道德ノ世界ニ在テハ、奇事アルコト、稀ナルコトニ非ス、人能其獨知
コ證シテ、誤リテ時チ指スコトアリ、又、其獨知正嚴ナル人、自ラ其正シキ
ヲ證シテ、堅固チ、極ムト雖モ、其時、普通衆人ノ的證ト、一致ス可ラサルコ
トアリ、是唯、一二時チ違ヘル、老年ニ至リ、動モスレハ、アリ得ル事ニシテ、
此ノ如キ、人ハ、却テ之チ正スコト、誠ニ難シトス、是其人、正シク獨知チ有
スレハナリ、曰ク、爰ニ余カ時辰儀アリ、其針、云々ノ時チ指セリ、余カ時辰
儀ハ、良工ヨリ得タル者ナリ、余、之チ誤ルコトチ得スト、而テ其人、實ニ誤
リテ、此ノ如ク、痴呆ナルニ至レリ、蓋シ、獨知ハ、他ノ心上ノ諸能力ニ比シ
テ、同一ニ、差錯ナキ者ヲラスト、謂フチ眞ナリトス、是唯、既ニ論シタル如
ク、知覺シテ、辨決スルノ勢力タレハ、他ノ知覺ト辨決トノ如ク、其運用ハ、
差錯ニ出ルコトアルヘシ
然ルニ、是上ニ既ニ云ヒシヨリモ、尙一層甚クシテ、大ニ差異チ生スル者

道德上ノ

辨決ノ差
異アルヲ
論ス

ナリ、此差異ハ、人々ノ道德上ノ辨決ト論説トニ於テ、從來ヨリ久シク存
セルコトハ、世ノ能知ル所ニシテ、人ハ、其性中固有ノ一部トシテ、道德ノ
能力存在セリト云フ説ニ就テ、何故ニ、人々此目的ニ就テ、思フ所ト、行フ
所ト、彼カ如キ差異ヲ生スルヤト、此問題ノ強迫、屢其力ヲ極メタリ、其言
ニ云ク、天道ハ、其發行、揆一ナル者ナリ、是ヲ以テ、耳目ノ若キ、苟モ其目的
タル者、同一ナレハ、時代異ナリト雖モ、邦國異ナリト雖モ、曾テ其本體ニ
於テ、差異相争フノ證左ナシ、呈スルコト莫シ、故ニ、一定ノ色ハ、之ヲ悦ブ者、
普通ニシテ、一定ノ音ハ、之ヲ厭フ者、亦普通ナリ、獨リ人ノ道德上ノ辨決
ニ至リテ、此ノ如クナラサルハ、何ソヤ、一人ノ善ニスル所、他人ニ在テハ、之
ヲ罪ス、若シ是非ノ別ナシテ、普通純全ニシテ、本體ヲ具ヘシメムカ、又若シ、之
ヲ知覺スルノ勢力、我カ性中ニ固有ナラシムカ、人々、之ヲ知覺スルニ於
テ、一致セサルヲ得ス、然ルニ、汝見スヤ、一世一國ノ善ニスル所、他ノ世ト、

此差異ヲ
解釋シテ
論ス

他ノ國トコ在テハ、之ヲ罪セサル者アルヲ、加旃一代一國ノ取テ以テ、眞
ノ罪業トナス者、他ノ一代一國ニ在テハ、之ヲ以テ、宗教ノ旨趣ニ、本ツケ
リトナスアルヲ、而テ今、正邪ノ知覺ハ、直覺ナリト謂ハ、此差異、果シ
テ何カ故ニ生スルカ
余之ニ應ヘテ、以謂ヘラク、是既ニ解釋チ、ナシタル所ニシテ、吾人、正邪ノ
觀念ハ、其源由ヲ講究スレハ、其時ノ境遇ト、開發ノ度ニ、關係スト云ヒキ、
故ニ、是機會ニ關セサル者ニ非シテ、教育、習慣、法度、風俗等ハ、其觀念ノ
將ニ生セムトスルニ方リ、尤モ其開發ト、變化トニ、關涉チ有スル者ナリ、
此諸種ノ衝動ハ、此觀念ノ生長ヲ助ケ、若クハ、慢ニシ、或ハ能全ク、他ニ導
ク者ニシテ、猶カノ樹木ノ若キ、他ノ衝動、宜シキヲ得サルニ方テハ、其生
長ヲ沮滯欄格シテ、或ハ横ニ轉折シ、或ハ相糾纏シテ、其開發、常チ失シ奇
怪ヲ極メシムルト一般ナリ、然レ、天道ニ至テハ、猶此ニ運行シ、凡テ此ノ

如キ障礙ト、不便ナル景況トニ、拘ハラヌ、其理法ニ從ヒ、其完全ニ達セシムルヲ求メテ、其運行ヲ成スコ至ルナリ、然レハ、最首トシテ争フ所ハ、天道ハ、其人境遇ノ好時ニ際スレハ、其心ニ、道德上是非ノ觀念ヲ開發スルコト疑ヒナシト雖モ、同時ニ亦、境遇ト、周匝諸物ノ衝動トニ從ヒ、正タル者ト、邪タル者ノ價直ヲ評定スルニ至テハ、人々ニシテ、大イニ異ナルコト、無キ能ハスト、云フニ在リ、正邪是非ノ別チ、一特別ノ事例ニ當テ、其行事ノ、道德ニ關スル何如チ、裁定スルハ、解決ノ官能ナリ、而テ、解決ノ是ニ於テ、差錯アルハ、此解決チ、他事ニ運用シテ、差錯アルチ、宛レサルカ如シ、是他ノ衝動ノ宜シキチ得サル、教育ノ正シカラサル、習慣ノ善カラサル等ニ依テ、皆迷惑偏倚ヲ、起スコトアル者ナリ

此同一理ハ、凡テ他ノ性中、諸能力ト、其運用トニ於テ、實ニ合當ナルコト疑ナク、是皆、其開發ノ度ト、其作用ノ傑法トニ於テハ、偏ニ境遇ニ關スル

他ノ諸能力ノ類例ヲ論ス

チ以テ、大ニ差異チ生シ、屢、錯誤ニ陷ルハ、職是之ニ由ルナリ、知覺ノ視聽ニ供スル物ニ於テ、我チ誤ルコト、稀ナル事ニ非ス、其數學上ノ論辨ニ於テ、我チ誤ルコト、稀ナル事ニ非ス、其數學上ノ論辨ニ於ルダモ、人々、必ス一致セサルコトアリ、又記性ノ、物ヲ記取スル事ニ就テモ、人々ノ中ニ於テ、極メテ大イナル差異チ、生シ得ルナリ、是論辨ノ至ルト、至ラサルト、其勢カノ差モ、亦同シ今ソレ、夷狄ハ、其敵ノ頭顱皮ヲ剝キ、之ヲ炙リ、之ヲ喰フ、忽然之ヲ以テ、邪行タリト思ハス、而テ、其指ヲ以テ、物ヲ數フルニ、二十ヲ超ユレハ、既ニ能ハサルコト、斷然ナリ、而テ、哲人ハ、其同人チ愛スルコト、己カ如クスルノ本分チ、認識シ、且天體ノ運動ヲ算シテ、其精密ヲ極メ、將來ノ世ニ於テ、其天中ノ位置ヲ、前兆セリ、然ラハ、此差異ニ本ツキテ、カノ諸能力ハ、吾人性中ノ一部ニ非スト、斷スルコトヲ、得ヘキカ

然ルニ、吾カ徒ハ、人ノ道德上ノ辨決、初頭ニ見ユ得ル如キ差異ノ、大イナ

一致ノ普

通ナルヲ
論ス

ルヲ信スルコト能ハサルナリ、却テ之ト相反シテ、普通ニ一致セルコト
アリ、其究竟ヲ論スレハ、道德ノ本體タル諸大本元ニ至テハ、人々、其世代
ヲ異コシ、其邦國ヲ別ニスルモ、率テ辨別シテ、同一ナルコト多シ、蓋シ其
細事ニ就テ、異ナルアリト雖モ、普通ノ綱領ハ、一致スルナリ、唯道德上ノ
例規ヲ、特別ノ行事ニ、適用スルコト及ヒテハ、其境遇ニ準シテ、大イコ異ナ
リト雖モ、正邪ヲ以テ、是非ヲ別ツノ本元トシテ、之ヲ認識シ、正ナリト知
レハ、之ヲ爲スチ、義務トシ、邪ナリト知レハ、之ヲ避クルチ、義務トシ、認
識スルニ至テハ、人々、皆一致スル所ナリ、且又、人ノ事ヲ行フハ、必ス其正
直ノ觀念ニ從フ者ニ非ルコトモ、固ヨリ知ルヘキ所ナリ、一世若クハ一
邦ニ於テ、徳ヲ慢ニスルノ多キニ由リ、大イナル悖逆ノ事、多キニ由リ、是
ニ由テ以テ、道德上ノ能力ノ存セサルト、若クハ、存スルモ、顛倒ヲ受ルト
ヲ、引證スルハ、吾カ徒ノ能クシ能ハサル所ナリ

其差異ハ、
何處ニ在
リヤヲ細
論ス

此事ヲ講究スルニハ、終始、獨立トシテ、視タル正直ノ觀念ト、一定ノ行事
ヲ、正直ナリト知覺スルト、其差別ヲ、心ニ持ツコトハ、切要タル事ニテ、其
一ハ、單純ナル理會トシ、他ノ一ハ、辨決ノ作用ナリ、故ニ、其一ハ、此心ノ眞
個ノ性ヨリ生スル觀念ニテ、原生ナラサレハ、同生ナリ、而テ他ノ一ハ、此
觀念ヲ、悟性ニテ、躬行中ノ、一特別ノ事ニ、適用スルコトナリ、前ナル者、即
チ、道德上ノ是非ノ觀念ハ、普通、必須、純全ニシテ、誤謬ナキ者タルヘク、後
ナル者ハ、此觀念ヲ、特別ノ事例ニ、適用シテ、云々ノ事ハ、正直ニ當レリ、若
クハ、當ラズト、裁決スル事ナルヲ以テ、總テ不正當ニ、誤用シタル辨決タ
ルコトアルヘシ、乃チ、世人ノ道德ノ辨決ニ、差異ヲ顯ハスハ、確然、此事項
上ニ在ルナリ、故ニ、正邪ノ別ヲ、認識スルニハ、人々一致スト雖モ、之ヲ孰
レカ正、孰レカ邪ト、決スル爲ニ、特別ノ事例ニ、適用スル時ハ、則チ違ヒア
ルチ、免カレス、シテ、是唯辨決ノ作用、悟性ノ運用タルコト、既ニ言ヒシカ

如クナルヲ以テ、人々ノ差異ヲ生ズルハ、此ニ在ルナリ、而テ、其差異ハ、辨
決ノ作用ヲ、他ノ種類ニ施シタルヨリモ、一層大イニ、一層解釋シ難シト、
云フニ非ルナリ

獨知ハ必
フ錯誤ナ
キ嚮導ニ
ハ非ルヲ
論ス

余固ヨリ、獨知ハ、錯誤ナキ者ニハ、非スト云フヲ、容レタリ、此ニ疑問アリ、
然ラハ則チ、獨知ハ、怕レナキ嚮導ニハ非スヤ、吾人、如何ナル事例ニ逢フ
モ、其裁決ニ、從フヘキヤ、否ヤ、余之ニ應ヘテ曰ク、是既ニ、錯誤ニ出テサル
ヲ、保ス可ラサルカ故ニ、唯是ノミヲ以テ、安全ナル嚮導ト、ナス可ラス、今
ソレ、一定ノ行事ハ、必ス正シキ者ナリ、何トナレハ、是唯、獨知ノ善ミ、スル所
タレハナリト、吾人、此ノ如ク、的確ニ、斷言スルコト能ハスシテ、此斷言亦
必然ニ由ルニ非ス、一定ノ行事正シクアルト、否ラサルトチ、裁決スルハ、
唯辨決ノ事ニシテ、其辨決ハ、正シキト、正シカラサルコトアリ、是皆、境遇
ト、又一分ニハ、教育トニ關シ、又一分ニハ、吾人多少有スル所ノ、靈智ニ關

然レ、其從
フヘキヲ
論ス

ス、故ニ、獨知警醒ノ人ト雖モ、其行フ所、必ス正シト謂フ可ラス、吾人、獨知
ニ徴シテ、邪行ヲナスコトアリ、タルシユス大思斯ノ掃羅ハ、獨知アリシ人ナレモ、聖
徒チ窘迫シ、而テ實ニ、其行フ所ヲ以テ、神ニ事フルノ事ト思ヒシナリ、其
他、カノ至慢至酷ナル溺教ノ徒ト雖モ、多クハ又均シク、獨知アル人タリ
ケレモ、均シク、之ヲ差錯セルコト、疑ヒナシ、蓋シ、總テ此等ノ人ハ、一層危
殆ナル人タリト、謂フヘシ、何トナレハ、其爲スル所ヲ以テ、正シキ事ナリ
ト、信スレハナリ

然ラハ則チ、吾人、之ヲ爲ス何如、ハタ此ノ如ク、差錯シ易キ嚮導ニ、從フヘ
キカト、余之ニ應ヘテ曰ク、然リ、汝カ獨知ニ從ヘ、唯是、正シク能ク通曉シタ
ル獨知ナリヤト、省察シ以テ、其辨決チ、感動、欲情、臆斷、習慣ノ偏癖、若クハ、
省察ナキ習風ヨリ、取ルコトナクシテ、理性ノ至明ナル光輝ト、殊ニハ、神
語トヨリ取ルヘシ、吾人ハ、道德ノ事ニ於テ、我カ取リタル決斷ニ於テハ、

其責ニ任スヘキコト、猶他種ノ事ニ於テ、決斷ヲ誤レハ、自ラ其責ニ任スヘキカ如シ、故ニ、之ヲ獨知ニ決スト雖也、亦皆其責任ヲ有スルナリ、掃羅ノ過失ノ若キ、其本分タルヲ、獨知ノ的證ニ徴セテ、而テ後ニ、行ハサルコトハ非ス、シテ、一層高明ナル獨知ヲ、有セサルコト由ル、若シ彼ヲシテ、正道ヲ求ムルコト、一層勵精ヲ極メシメハ、細心ニ、其辨決ヲナシテ、錯ルナキコト至リシヤ、必セリ然也、人、其獨知ニテ、善スル所ヲ、爲ス可ラスト言フハ、是人ヲシテ、其誠ニ正タリト信スル所ヲ、行ハサラセムルナリ、是道德ノ例規ニ於テ、尤モ怪ムヘキ事ナラスヤ

余既ニ前ニ陳セル如ク、獨知ノ性質、權力ヲ講究シタリ、而テ其中、此道德上ノ能力ヲ以テ、情ノ勢力トスルヨリモ、寧ロ、靈智ニ屬シタリトシテ、之ヲ論シタリ、然也、余カ言フ所ハ、獨知ハ、亦情ノ品性ヲ具スル者ニ非スト、云フ意ヲ含メリト、曉解ス可ラス、總テ靈智上ノ作用ト、其行事ノ能力ト

獨知ハ專
ラ靈智ナ
ラサルヲ
論ス

ハ、必ス多少情ノ品性ヲ分有シ、感動ヲ伴ナフ者ニテ、此感動ハ、其相關スル心ノ、個別ノ能力ト、其作用トニ於テ、稍別種ノ品性ヲ現ハスコトアリ、故ニ、想像力ヲ運用スルニハ、其中、稍感動ヲ含ミ、或ハ、快愉ヲ覺ユ、或ハ、痛苦ヲ覺ユ、或ハ、屢、其度ノ甚シキニ、上ルコトアリ、是美妙學上ノ能力ニ於テモ、亦然ル者ニテ、道德上ノ能力ノ運用ニ於テハ、亦殊ニ、一種ノ情ヲ含メリ、是上ニ云ヒシ如ク、獨知ノ作用ヲ、分解スレハ、吾人、自己ノ行事ヲ、或ハ正トシ、或ハ邪トスルニ、之ヲ情ナシニ、觀察スルハ、爲ス可ラサルノ事ニ屬シ、又依テ以テ、自己ニ、之ヲ善シ、或ハ之ヲ罪スルニハ、情ヲ發動セサルヲ得ス、然也、此情ハ、吾躬行ノ功過ヲ、我カ靈知ニテ、理會スルノ明暗強弱アルニ從ヒテ、其厚薄濃淡、自ラ異ナル者ナリ

此情、乃チ道德上ノ行為ニ於テ、現象中ノ切要ナル一部分ヲ成シ、從ヒテ又、性理學ノ切要論題トシ、是靈知ヨリモ、寧ロ、感性ノ部ニ、屬スルヲ以

テ、爰ニ其他ノ講究ニ從事スルハ、其處ニ非ルナリ、故ニ、是皆、此書ノ次ノ
區分中ニ、他ノ諸種ノ情ト、ノ連絡ニ於テ、之ヲ論スヘシ

[Faint, mostly illegible text in a large rectangular frame on the right page.]

増補題目

第一篇 本能、人智ハ、禽獸ノ智ヨリ別ナルヲ論ス、
人智ヲ論スル哲學ト、密ニ連絡セテ、本能ノ學アリ、即チ禽獸ノ智ニシテ、
是徒ニ、性理學トノ關係ニ於テ、有益ノ事タル耳ニ非ス、又他ノ科學、造化
史、神理學等ニ於テモ、亦有益ニ屬ス

此ノ如キ
講究ヲ爲
スハ、吾人
ニ在テ、不
便タルヲ
論ス

此事ニ就テハ、初頭、自ラ陳述セサルヲ、得サルコトアリ、蓋シ、吾人、此事ニ
就テ、講究觀察ヲナスハ、一端ニ就テ言ハ、全ク暗中摸索ニ屬スルナリ、
何トナレハ、是全ク意識ノ圈内ヲ、外レタレハナリ、故ニ、吾人ハ、唯之ヲ視
察シ、之ヲ比較シ、之ヲ引證スルヲ、得ルノミニシテ、此ノ如クシテ得タル
斷言ハ、最後ニ、錯誤ニ出ツレハナリ、吾人、自己心意ノ運用ニ至リテハ、知
識ノ淵源ノ中ニテ、之ヲ知ルコト、至明至的ナル者ナリ、何トナレハ、是自
己ノ意識ニ、供スレハナリ、然ルニ、禽獸ノ智ノ運用ニ至リテハ、大半吾人

之カ爲ニ
立テタル
方法ヲ論
ス

定義

ニ知ル可ラヌシテ、常ニ隱微ニ潛伏ス可ケレハナリ、是ヲ以テ、此ニツノ者、交互ニ相似ル、幾何ナリヤ、又交互ニ相異ナル、幾何ナルヤ、之ヲ定ムルコト、固ヨリ難シ、而テ禽獸ノ智ノ止マル所、人智ノ始マル所ニ、分劃線ヲ畫シテ、何處ニ在リト云フハ、容易ナル事ニ非ス
初頭、吾輩、止テ本能ノ定義ヲ論スヘシ、是、通常禽獸ノ智ヲ、徴スル爲ニ、用ヰタル語ニテ、次ニ成ルヘクハ、本能ノ一種別ナル品性ハ、何如タルヲ確定シ、而テ後ニ、何處ニカ、人智ヨリ、差異アルカラ、定ムルコトヲ、得ヘキナリ
余、本能ト云フ字ニテ、領解スル所ハ、感性アル有體ニ於テ、其運動ヲ、提轄指揮シ、以テ其發作ヲナスノ、理法ニシテ、是、一方ニ就テハ、物質中ノ徒ラニ、發突ナル諸力、引力等トハ、別ナリトシ、又一方ニ就テハ、人ノ理性ヨリ、別ナリトス、故ニ、衝動ニ因テ、發突ニ、一定ノ目的ヲ成ス爲ニ、發動スルノ理

本能ハ理
法タルヲ
論ス

衝動ニ因

法トシ、之カ主タル者ハ、何故ニ、已カ此ノ如ク、發スルカ、之ヲ知ラザルナリ、此理法ヤ、原生ニシテ、其動物、稟生ノ際ニ固有シ、學ヒテ獲タルニ非スシテ、世々相嗣キタルナリ、故ニ其因由ハ、寰宇ヲ創造セル、靈妙ノ天工ニ於テ、之ヲ見ルヘシ、余以謂ヘラシ、是、吾人本能ト名クル者ノ、首タル品性タルヘシト
是發作ノ理法ナリ、此理法ニ從ヒテ、蜂ハ、其房ヲ造リ、蟻ハ、其室ヲ作り、鳥ハ、其巢ヲ營ス、此理法ニ從ヒテ以テ、獸ハ、何ノ種類タルヲ論セス、各、其各種ノ食餌ヲ求メ、以テ其欲スル所ニ適シテ、其供資ヲ受ク、然ルニ、是唯此理法ノ運用ノ一例タル耳、要スルニ、此理ノ運行スルヤ、其品性、一揆普通タルハ、依テ以テ、發作ノ理法タルヲ知ルヘク、徒ニ偶然ナル發用ニ、非ルナリ
是衝動ニ因テ、發作スル理法ニシテ、一方ニ就テ、之ヲ論スルニ、器械力即

テ自動力ニ非ス、又他ノ一方ニテ道理ヲ知ルノ性ヨリ發スルニモ非ル
 ナリ、上ニ云ヘル事例ニテ、之ヲ催動スル力ハ、機關ヲ動かス重錘ノ力ニ
 非ス、又他ノ器學上ノ道理ヨリ發スル力ニモ非ス、又然ラハトテ、神經刺
 戟ヲ受テ、反省セシムルノ發用ニ非ス、又筋維ノ搖擗スル發作ニモ非ル
 ナリ、是又純然タル受動ノ物質形體上ニ引力ノ動ヲ起スト、類例タルニ
 非ス、尙又吾人、人性中ニ於テ、理性ト名クル所ノ、高上ナル本元ニ由ルニ
 非ス、鳥ノ巢ヲ營スル、彼カ如ク、蜂ノ房ヲ製スル、此ノ如キハ、皆其性分中
 ノ、警突ナル衝動ニ從フノミ、然ルニ、其衝動、警突ナリト雖モ、然モ、極メテ、
 缺乏ナク、以テ其運用ヲ開導提轄シ、其發作ヲ促カシ、止息ナキ熱欲ト共
 ニ、其作用ヲ一種ノ形狀ヲ成スニ歸セシメ、竟ニ、其目的ヲ十成セサレハ、
 止マサルナリ、然モ、此生類、自ラ其依テ以テ、造作スル所ノ理法ニ通曉ス
 ルニ非ス、蜂ノ其房ヲ造ル、其角度精當、至小ノ中ニ、能ク至大ヲ包容スヘキ

ノ、巧ミヲ以テス、然ルニ、此角度ヲ用ウルコトヲ、知ルニ非ス、何ヲ以テ、之
 ヲ造ル、此角度ニ於テスルカヲ、知ラサレハ、今縱ヒ、蜂ヲシテ、吾人ノ疑問
 ヲ、曉解スルニ足ラシムルモ、其運用ニ就テ、之カ道理ヲ示スコト、能ハサ
 ルヘシ、故ニ、是其峰ニ於ル、思慮ノ事タルニ非ス、何ソ况ヤ、是理性ノ事タ
 ラムヤ、是唯警突意思ナキ衝動ナレモ、又錯誤ナキ衝動ナリ
 此理法ハ、原生ニシテ、禽獸ノ稟生ノ際ニ、生カカラ存シ、學ヒ獲タル者ニ
 非ス、是教育ノ效驗ニ非ス、故ニ、鳥ハ、其巢ヲ營スルヲ學ハス、蜂ハ、其房ヲ
 造ルヲ學ハス、又蟻ハ、其地下ノ室ヲ、製スルヲ學ハス、是皆、其父母如何カ、
 之ヲ製造建築スルヤヲ、視察スルニ非ルナリ、故ニ、總テ其視察訓導ヲナ
 ス機會ヲ奪フモ、教ヘナキ禽獸、猶能其業ヲ成就シテ、其巢其房ヲ造ラサ
 ル莫ク、而テ、之ヲ獨リコトテ、造ルモ、其同類ノ際ニテ、造ルカ如ク、之ヲ初度
 ニ試ムルモ、後來數次ニ於ル如ク、皆十分ヲ盡サ、ル莫ク、此ノ如キ勞作

製造ニ於テ、如何ナル靈智ヲ、其中ニ含蓄セリヤ、實ニ至高ノ靈智アリテ、此中ニ屬セリト、見ユルコト、其例タル、豈少々ナラムヤ、然レ、是世々相嗣ケル靈智ニシテ、學ヒ獲タルノ靈智ニ非ス、蓋シ、其源由ヲ究メハ、究竟、之ヲ其生類ノ中ニ、求ム可ラスシテ、之ヲ總テノ靈智ノ創造者ニ、歸セサルヲ得ス、是即チ、寰宇萬有ノ創造主ニ非スシテ、誰シヤ、故ニ、其靈智ハ、其生類ノ靈智ニ非スシテ、造物主ノ靈智タルナリ

其境遇ニ拘ハラズシテ現ハルヲ論ス

論題ナル理ニ就テハ、尙觀察スヘキコトアリ、是其本能、其官具、未ダ相當ニ開發セサルニ先チテ、既ニ、一種ノ偏尙ヲ現ハス、カノ犢牛ノ、未ダ其角ヲ生セサル前ニ、頭ヲ以テ、牴觸ヲナスカ、如シ、又本能ノ衝動ハ、既ニ其用ヲ、要セサル境遇ニ在テモ、猶發スルコトアリ、カノ海狸ノ、既ニ捕獲ニ就キ、一室ニ囚ハルレバ、猶獲日ノ如ク、其得ル所ノ材料ヲ以テ、堤ヲ起スカ、如シ、是今日ノ境遇ニ處シテハ、既ニ己ニ用ウヘキ、無シト、雖也、且然リ、凡

功思ノ證ヲ論ス

テ此等ノ事實ハ、其獸類ニ在テ、思量ナク、理性ナク、靈智ナク、唯一ノ聳突ニ發作スル衝動アリテ、其作用タルヲ、指目スルコト、較著ナリ、然ルニ、一方ニ就テ見レハ、又獸性ノ發用ノ一例、巧思アリテ、境遇ニ適シテ、相容ル、チ、證スヘク見ユル者アリ、蜂、若己ムヲ得スシテ、非常且平安ナラサル處ニ、房ヲ造ルヘキ時ハ、傾斜ナル側面ト、其蜂窩ヨリ至近ナル壁トノ中間ニ、蠟ニテ、間架ヲ作り、以テ之ヲ、堅固ナラシム、又蜘蛛モ、是ト同シク、其窠網、危キ時ハ、其緊張壓迫甚クシテ、危殆ニ迫ル部ヨリ、至近ナル支柱ノ一部ニ、線ヲ加ヘ、以テカノ脆弱ナル結構ヲ、安全ナラシム、又鳥モ、是ト同シク、其巢ト其雛トノ重量ヲ堪ルコトハ、下枝、甚ク脆弱ナリト見ユル時ハ、一糸ヲ以テ、此下枝ヲ、強固ナル上枝ニ連結シ、以テ之ヲ、保住スルハ、世ノ知ル所ナリ

此事實ハ

此類ノ事實ハ、誠ニ切實ニシテ、世ニ能憑據アリト、ナス所ナリトハ、雖也、

理性ノ證
ヲ論ス

寧ロ常則ノ破格タリト見ルヘシ、是獸性ヲ人智ト分別スル分界線ニ尤
モ近キ者ニシテ、唯單素ナル本能ニテ、之ヲ爲ス者ナリト知ルヘシ、此事
是ノヨコヲハ、禽獸ニ在テ、理性ノ存在、即チ、辨別思慮スル智アルヲ證ス
可ラス、何トナレハ、其生類ヲシテ、常時ニ於テ、其巢ト房トチ、平常ノ様法
ニテ、作ラシムル所ノ衝動ハ、同一類ノ理法ニテ、不意ノ急ニ應シ、或ハ、能
生スヘキ變ニ、處スル運用ニ、至ラシムルニ足レルハ、確乎トシテ、察スヘ
キ所ナレハナリ、故ニ、蜂ノ房ニ於ル、蜘蛛ノ網ニ於ル、其危キニ際シ、間架
副糸ヲ加フルニ至ラシムルハ、此兩ノ者、平常其窠網ヲ作ルニ、能精密ナ
ル角度ニ、於テスルニ比シ、固ヨリ怪ムヘキ事ニ非ス、又何ソ、之ヲ一層怪
ムヘキノ事トセムヤ、況ヤ、獸類ノ本能、境遇ニ處シ、此ノ如ク、相投スルノ
才能ヲ、現ハスハ、誠ニ僅々ニ、屬スルチヤ、是亦、知ラサル可ラサルナリ
吾輩、今將ニ、吾人、獸性ニ於テ、本能ト名スル者ハ、之ヲ人ニ於テ、靈智ト名

解スヘキ

疑問

クル者ニ比シテ、幾何カ、其相異アルヲ、講究セムトス、是其種類ニ於テ、異
ナリヤ、ハタ、唯其度量ニ於テ、異ナル耳カ、今此考學ノ史ヲ、一覽セハ、吾人
ヲ助ルコト、蓋シ鮮少ナラス

古昔ノ見
解ヲ論ス

亞立斯度德ヨリ、^{テカレト} 埜加剛多ノ前ニ至ルマテハ、皆度量ヲ異ナリトスル見
解ヲ、取レリ、此諸哲家皆、禽獸ニ、理性ノ一分ヲ、具ヘタリトシ、人ト、雖モ、同
一事ニ從事セハ、其理性ノ發用、此ノ如クナルヘシト、此理ヲ推テ、獸類モ、
亦其性質ト、其體制トニ因テ、其須要ニ、比例セタル靈智ヲ、具ヘタリトセ
リ、此見解ノ、臆說タルハ、言チ待タス、ソレ人ト、禽獸ト、同一理ヨリ、同一發
作ヲ生スト云ヒ、一ツノ例ニ於テ、其發作ノ源由ニ、靈智理性ヲ含蓄スト、
證スヘキ時ハ、他ノ例ニ於テモ、同一ノ源由ヲ、含蓄スヘシト云フハ、確乎
タル事ニ非ス、是真固ニ挑撥論題ニテ、其問題中ニ、主要ノ旨ヲ謬レリ、人
ハ、靈妙ニシテ、能ク思惟シ、能ク前後ヲ顧ミテ、道理ヲ辨スルノ靈魂ヲ有ス、而

怪加爾多
見解

テ、禽獸ハ、唯其性ニ任シ、靈妙ナラサル單素ノ衝動アリテ、唯覺突ニ感覺
 シ、以テ其一定ノ運行ヲ促スナリ、然ルニ、今、人能其靈魂ノ徳ニ依テ、爲ス
 所ノ事ヲ、禽獸ハ、全ク異ナル根元ニ依テ、之ヲ爲スト云フハ、謂フ可ラサ
 ルノ道理ニ非ス、是正ニ、一定スヘキ問題ニテ、是憑證スルヲ得、或ハ憑證
 スルヲ得サルノ事タルヘシ、然ラハ、禽獸ノ本能上ノ品性ニ就テ、既ニ上
 ニ示シタル諸家ノ見解、果シテ正シカラシメハ、爰ニ謂フ可ラサルノ道
 理ニ非スト、謂ヒシハ、強非テ、其説ヲ立テタリトシテ、視ルヘキナリ
 怪加爾多ハ、先進諸家ノ誤認ヲ悟リ、反對ノ極端ニ至リテ、禽獸ノ本能ト
 作用トヲ解キテ、單素ナル機械力トセリ、是即チ、鏢子ニテ、時辰儀ノ指針
 ノ動ク理ニ、異ナル莫キノ説ナリ、以謂ヘラク、禽獸ノ、其性質體制ニ因テ、
 其官能ヲ行フハ、猶傀儡ノ、其内部ニ藏セル發條ニ因テ、彼此ニ運動スル
 カ如シ、是、自ラ一モ知ルアル者ニ非ス、鳥、蜂、蜘蛛皆是、天造ノ官具内ニ、其

祿可并
其門人

奇異ナル性質ノ機器潜在シ、依テ以テ、其時ニ至リ、須要ナル景況ニ應シ
 テ、皆各、其固有各種ノ結構ヲ營成シテ、各、固有各種ノ用務ヲ遂ク、此ノ如
 クニシテ、各、自動力、機械力ヲ以テ、運動スルナリ
 上ノ見解ハ、古昔ノ考定ニテ、殊ニ、禽獸ニ、重キヲ歸シタルニ、相反シ、反テ
 的然ニ、其輕キヲ、歸シタル者ナリ、然ルニ、更ニ此見解ヨリ異ナリテ、祿可
 孔子コソフ羅哥、及ヒ兩氏ノ英吉利佛朗西ノ門人ハ、一説ヲ立テ、禽獸ノ作用、
 靈智ヲ示スカ如ク見ユル者ヲ以テ、慣習ノ勢力ト、伴生ノ理法トニ歸セ
 リ、以謂ヘラク、禽獸ノ能力モ、實ニ人ノ能力ノ如ク、分解シテ、其源ニ至レ
 ハ、畢竟外部ヨリノ印象ニ歸ス、犬ノ其餌ヲ嗅キ、海狸ノ其堤ヲ築ク、鳥ノ
 暖地ニ移ル、皆思慮モナク、靈智モナク、唯慣習ノ力ヨリ、出ル者ナリ、然ル
 ニ、此説ニ據レハ、此ノ如キ、慣習、第一初頭ニ於テ、何如シテ、之ヲ創メ得ヘ
 キト、云フヲ、以テ、其人ニ問フヘシ、力ノ微細ナル昆虫ノ如キ、其卵ヲ出ル

蘇格蘭ノ諸哲家

ヤ、直ナニ其食餌ヲ捕ル爲ニ、凡テ須要ナル官具ヲ用井得ルハ、是何ニ由
 テ然ル、又カノ蜂ノ如キ、其世々子孫ニ至ルモ、其蜜ヲ儲フル爲ニ、必ス同
 一ノ巧思ニ出テ、加旃、其形容ハ、千萬無量、其角度ハ、諸種トナス、ハキノ中
 ニ就テ、恒ニ必ス同一ナル者ヲ撰フハ、是何ニ由テ然ル、而テ、是蟻、蜘蛛等
 ニ於テモ、亦然リ、今之ヲ以テ、教育ニ由ルノ事トナサムカ、第一初頭ニ、生
 シタル蜂、蟻、蜘蛛、及ヒ、他ノ昆虫、此ノ如キ稱スヘキ便利ヲ、知リタルハ、ハ
 タ何ニ由テ然ル、是確乎トシテ、其然ラサルヲ知ルヘシ
 又一方ニテハ、殊、士低瓦的、并ニ、蘇格蘭ノ諸哲家ハ、一般ニ、此單素ナル
 器械力ト、云フ説ヨリ、相濶ルコト、殊ニ、遊カニシテ、本能ニ歸スルニ、一ノ
 作用ヲ以テセリ、是本來、自動無意ノ力ト、稱スル者ニテ、猶母ノ懷抱ニ在
 テ、其餌ヲ求ムル孩嬰、一異體ノ近ツク時ニ、乍チ其眼瞼ヲ閉ツル發作ノ
 如シ、其他、此類ノ一定ノ運動ハ、動物ノ官具ニ、屬スル者ニテ、生理學ニテ、

初メノ問題ニ反リテ論ス

此說ノ理由(第一) 獸

近來ノ發明ニ據レハ、是寧ロ、神經ト筋維トノ、只反映スル發作ニ歸セリ、
 是元來、本能ニハ非ルナリ
 此諸種ノ見解ノ中ニテ、其眞理ハ、孰レニカ在ル、埜加爾多ノ如ク、徒ニ機
 械力トスル考定ニ、服スル能ハズ、又祿可孔弟羅哥ノ如ク、本能ヲ解釋シ
 テ、悉ク只慣習伴生トナスノ見解ニモ、從フ能ハス、然ラハ、吾輩ハ、古昔ニ
 リ久シク、一般ニ奉シタリシ見解ニ溯リテ、本能ヲ以テ、人ニ在テハ、理性
 省察トナル智ト、同一質ニテ、唯其度ノ低下ナル者トセムカ、是吾徒ノ預
 ノ期シタル所ニ非ス、本能ニ就テ、能世ニ知レタル現象ト、理法ト、又此前
 ニ舉ケタル如ク、其本體上ノ品性トハ、是種類ノ異ナルヲ示ス者ニテ、徒
 ニ度ノ異ナル耳ニ、非ルナリ
 今、其差異ノ諸項ヲ、簡約ニ枚舉スルニ、カノ禽獸ノ本能、人ノ靈智ト、同一
 質ヲラシメムカ、又、本來ノ意味ニテ、其靈智タル、種類ニ於テハ、同一ナレ

性ハ教育ノ高度ニ達スル能ハサルヲ論ス

第二 獸性ハ實行ニ依テ改化セサルヲ論ス

ヒ、唯度ニ於テ、異ナリトシムカ、然ラハ則チ、人ニ於ル如ク教育シテ、之ヲ無疆ノ度ニ達セシムルコトヲ得ヘシ、之ヲ教育ニテ、高ノ得ヘキ時ハ、能習熟スルノ運用ニテ、其初度ニ顯ハレタル度ヨリ、甚ク上等ナル度ニ至ラシムルコトヲ得ヘシ、然ルニ、今只、僅々ナル例外ヲ除キテハ、習熟ニ依テ、上達スル事例ナキコト、的然タリ、故ニ、習熟ト教育トハ、之ヲ重ヌルモ、禽獸ナシテ、其本體ヨリ、獸性資稟ノ常界線ヲ超エ、人類ト水平線ニ近カシムル者ハ、非ルナリ

且又、其考定ニテハ、禽獸モ、實行ニ依テ、改良スヘシトス、是多分ハ、然ラサルコト、確然タリ、蜘蛛、其網線ヲ引クコト、極メテ精密、以テ能其網窠ヲ作ル、蜂其房ヲ作り、鳥其巢ヲ作ル、然ルニ、其初度ノ巧モ、二十度、若クハ、五十五度ノ後ノ試験ト、異ナルコトナク、一モ進歩ナク、又改正ナシ、又之ヲモ呼ビテ、技巧トナスル、其技巧ハ、一定不動ニシテ、之ニ就テ、學習ノ性アルニ

第三 本能ハ境遇ニ適合セサルヲ論ス

上ニ反セル見解甚タ多キヲ論ス

非ス、而テ、學習ニ因テ、改正スルハ、凡テ靈智發作ノ、少ク可ラサル性ナルナヤ

本能ナシテ、靈智ノ性アラシメハ、是須ラク、其境遇ノ變化ニ應シテ之ニ適合スヘキコト、一定不易ノ事タルヘク、而テ其中、曩日ノ運用、既ニ己ニ、用ニ供セサル時ハ、替突ニ、其舊轍ヲ踏ミテ、發作スルヲ、要セサルヘシ、故ニ、海狸ヲシテ、乾板上、若クハ、砌間ノ鋪磚上ニ、堤ヲ築カシムル者ハ、唯替突ナル衝動ニシテ、靈智ニハ、非ルナリ

其他尙、表章スヘキコトアリ、論題ナル考定ハ、唯禽獸ニ、靈智ノ最下度ヲ歸スト雖モ、一方ノ目的ニテハ、實ニ、禽獸ヲ靈智ノ一點ニ就テハ、遜カニ、人ノ上ニ、位サセシムルコトアリ、若禽獸ノ本能、眞ニ靈智ヲラシメハ、其靈智ハ、之ヲ蔑視スル敵手ノ、人タル者ニ超エテ、全ク之ヲ蝕スルニ、至ルコト多シ、人ノ科學ニテハ、線ヲ引キ基礎ノ平面圖ヲ作り、以テ一定ノ角

度ヲ求ムルノ實地ニ臨ミテハ、蜘蛛、若クハ、蜂ノ、數理上ノ精密ナルト、相
 競フ能サルナリ、而テ、工匠ハ、遊走線ト、平行線トノ術ニ於テ、蟻ヨリ、教授
 ナ受クヘシトシ、而テ此細虫ニ、カノ工匠學ニ於ケル、圓頂格ト、圓拱門ノ
 發明ヲ、歸スヘシ、然ラハ、則チ、科學ニ於テ、至奧ナル問題疑題ハ、是ト均シ
 シ、カノ人ヨリ、靈智ノ最下度ヲ有スル生類ニ依テ、始メテ能、其講解ヲ得
 ルナリ、故ニ此事實ハ、其考定ト共ニ、相容レサル者ニシテ、此考定、一ハ、甚
 タ之ニ及ハストシ、一ハ、甚タ之ニ過キタリトス、果シテ、本能ヲシテ、眞ニ
 靈智ヲラシメハ、一ノ目的ニ於テハ少クモ、人ノ靈智ニ、勝レタリトスヘ
 シ
 此ノ如キ道理ノ爲ニ、吾徒ハ、禽獸ノ靈智ハ、人ノ靈知ヨリ、特ニ、度ニ於テ、
 異ナル耳ナラス、其實、種類ニ於テ、異ナルアリト、斷言セサルヲ、得ス
 今若シ一種別ノ能力、禽獸ニハ、欠ケテ、人ハ、之ヲ有スル者ハ、是何物ナリヤ、

禽獸ニ欠

ケタル能
カテ論ス

即チ、言ヲ換ヘテ言ハ、本能ノ區域ト、靈智ノ區域ト、標別スル分劃線
 ハ、何レノ處ニ在リヤト、此講究ニ就カハ、吾徒ハ、正ニ答ヘテ、謂フヘシ、其
 尤モ較著ナル差異ヨリシテ、之ヲ始メ、第一初頭ニ、禽獸ハ、道德ヲ具ヘ、
 神明ヲ奉スルノ有體ニ非ルナリ、是固ヨリ、道德ノ性ヲ有セス、正邪ノ觀
 念ヲ有セス、理由ヲ答フルノ性ナク、又己レヨリ高キ勢力アルヲ知ラス、且
 是又、美妙ヲ知ルノ有體ニ非ルナリ、是固ヨリ、美妙ニ就テ、之ヲ識別スル
 ノ雅趣ナク、又之ヲ、評直スルコト能カス、馬ノ若キ、陽ニハ、眞ニ靈智ア
 ルカ如シト雖モ、極メテ心醉スヘキ山水ヲ見ルモ、心ニ其美ヲ感スルコ
 トナキハ、猶其牽ク所ノ車ト一般ナリ、是固ヨリ、觀念アルニ非ス、絶テ美
 妙ノ認識ナシ、カノ是等ノ觀念ヲ、人ニ賦スル所ノ、固有理會ノ能力ハ、禽
 獸ニ、欠ケタリト見エ、是又、學問ニ供スル有體ニ非ルナリ、是固ヨリ、依テ
 以テ、自ラ運用ヲナス所ノ、本理ヲ曉解スル能ハス、是ヲ以テ、此本理ヲ適

用シテ、進歩改良ヲ謀ルコト能ハスシテ、其發用終リニ於ケルモ、猶始メ
 ノ如ク、絶テ經驗ニ依テ、學習スルコト能ハス、其技工ノ本ツク所實ニ、一
 定ノ大本則、大元理アリト雖モ、是皆禽獸ニ於テ、其心ニ主觀ノ存在アル
 者ニ非ス、然ルニ、人ヲシテ、能ク學問ニ供スルノ、有體タラシムル能力ハ、即
 チ、此書論中、余既ニ之ヲ反射、即チ、省察力ノ題號下ニ、集録シタル諸能力、
 是ナリ、是禽獸ニハ、欠ケタリト見ユ、故ニ、禽獸ハ、曾テ彙類スルコトナク、
 分解スルコトナク、曾テ抽象ノ理會ヲナスコトナク、曾テ概括スルナク、
 辨決スルナク、辯論スルナク、曾テ其周匝ニ經過スル事ヲ省察スルナク、
 思慮ト云フ語ノ真意ニテ言ハ、曾テ思慮スルコトナシト謂フヘシ
 上ニ論シタル事ヲ省察シタル者ハ、禽獸ノ理性ト、省察力トチ、有スルチ
 拒ミ、人獸ノ間ニ、分割線ヲ引ク者、多カルヘク、蓋シ、其數半ニ過クヘシ、是
 何トナレ、理性ハ、一層高キ靈智上ノ、勢力ナレハナリ、然モ、其他ノ能力

其他ノ欠
 缺ヲ論ス

知覺并ニ
 記取ノ勢
 カヲ論ス

人ノ稟性ニ具カル者ニ至テハ、禽獸モ亦、之ヲ有スルコトヲ許スヘシ、然
 ルニ、吾徒ハ、尙一層深ク入りテ、禽獸ノ能力中、ヨリ、想像力ヲ、抜き去ルヘ
 シ、是固ヨリ、美妙ノ觀念ヲ有セズ、又抽象ノ理會ヲ、ナス能ハサルヲ以テ、
 想像ノ依テ以テ、其形象ヲ製スル所ノ、理想ハ、全ク欠ケタリトス、故ニ、其
 理想ノ能力タル想像モ、亦存スルチ、得サルナリ、
 然モ、禽獸モ、人心ノ諸能力ノ中ニテ、殘レル二種ノ能力ノミハ、之ヲ有セ
 ルカ、即チ、知覺ト、記性トノ、勢力ナリ、是亦、一問題ナリ、然ルニ、吾徒ハ、此中
 ニ就テ、同シク五官ノ知覺ナリト雖モ、形體上ノ元行ト、全ク靈智上ノ元
 行トハ、之ヲ區別セサルチ、得ズ、即チ、其覺性ノ、印象ヲ領取スルノ能ト、其
 印象ノ、由テ來ル所ノ物體ヲ、云々ナリト、知リ、云々ナリト、曉解スルノ能
 トハ、固ヨリ、差別アルナリ、故ニ、苟モ、此二ツノ者ヲ、區別スレハ、印象ヲ領
 取スルノ能ハ、禽獸ニモ、許スヘシト雖モ、知リ曉ルノ能力ノ存在ハ、之ヲ

争ハルヲ得ス、總テ覺性ノ物體ヲ知リ、之ヲ曉解シ、之ヲ云々ナリトシ
 テ、交互ニ區別シ、又、自己ヲ、知覺スル主ナリト知リテ、之ヲ己ヨリ、區別ス
 ルハ、其精密ナル本義ニ就テ見レハ、靈智ノ屬性ニシテ、此心ノ性ナリ、今
 若、禽獸モ、之ヲ有ストセハ、是亦實ニ、心ヲ有スルニテ、縱ヒ其等、人ノ如ク
 高カラサルモ、人ト同シト謂フヘシ
 此ニ至リ、吾徒正ニ、禽獸ト人トノ間、即テ、本能ト靈智トノ間ノ、分割線ヲ
 引カサルヲ得サルニ至レリ、禽獸モ、五官ヲ有スル、猶人ノ如シ、且其中、或
 ハ、人ノ官具ヨリモ、實ニ、一層十分ナル者アリ、而テ、外部ノ物體ハ、其五官
 ノ上ニ、印象ヲナシ、其目、其耳、并ニ其他ノ覺性ノ諸官具ハ、皆此印象ニ應
 じリ、約メテ言ハ、禽獸モ、感覺アリ、而テ、此感覺ハ、人ノ性ニ、感覺アルガ
 如ク、意識ト、伴ヒタル者タラサルヲ得ス、即チ言ハ、依テ以テ、感動スル
 ナリ、然レ、此意識ト云フハ、必ス、吾人意識ト云フ語ヲ、一層高キ意味ニ見

分割線ヲ論ス

即チ、自己意識ノ義ニテ、曉解スル所トハ、別ニシテ、其意ヲ含ムニ非ス、吾
 徒ノ信スル所ニテハ、禽獸ハ、自ラ云々タリト云フノ、知識ナク、嚴密ニ說
 キタラハ、自己意識ハナクシテ、自己ヲ知覺スル者トナスト、物體ヲ、知覺
 シタル者トナストノ間ニ、區別ヲナスコト、能ハサルナリ、又、自己ヲ、其周
 匝ノ物體ヨリ、別ナル存在トシテ、分チ思フノ理會ハ、有ラヌンテ、密ニ言
 ハ、觀念モナク、思慮モナク、周匝諸物體ヲ、了解スルノ智ナシ、故ニ知覺
 ト云フ語ノ、本義ニテ言ハ、感覺ハアレレ、知覺ハナシトス、何トナレハ、
 知覺ト云ヘハ、其内ニ、主ト客トノ差、即チ、自己意識ヲ、含メハナリ、此ノ内
 界主客ノ別ハ、禽獸ニハ、亡失ニ屬シ、唯形體ノ感覺ニ就テ、單素ナル一意識
 識中ニ、莫然トシテ、混在スルノミ、故ニ、禽獸ハ、感スレレ、思慮セス、又、曉悟
 セス、感覺ヲ以テ、悟性ト理性ニ、代ラル者ニテ、感覺ハ、其嚮導タリ、此ノ如
 クシテ、受ケタル、印象ニ、其性、響突ニ相應ス、故ニ、是如何シテ、若クハ、何故

人ノ優等
ナルヲ論
ス

云々タルヲ知ラス、是即チ禽獸ノ以テ、睿聖仁慈ナル造物者ニ依テ、其
生ヲ稟ケ、其性ヲ賦セラレタル者ニテ、其感覺、醒覺ヲ受レハ、其性ノ衝動、
一頓ニ發動運行シ、直チニ作用ニ涉リテ、自ラ己ムコト、能ハサルナリ、故
ニ此ニ於テ、人ニ於ケルカ如ク、別ニ靈智ヲ增加スルヲ要セサルナリ、是
ヲ以テ、禽獸ハ、感シテ、發作シ、人ハ、感シ、思ヒ而テ、發作ス、故ニ造化ノ主ハ、
禽獸ノ爲ニ、靈智ノ代用タル一物ヲ、賦與シ、以テ其瞽盲ナレハ、錯誤ナキ
衝動ノ扶助ヲ假シ、其單素ナル需用ト、相通シテ、單素ナル目的ヲ達セシ
メ、一層下等ナル線圈ニ、屬セシメタリ
凡ソ、人ノ以テ、禽獸ニ超テ、其主權管轄ヲ得タルハ、此中ニ在リ、人ハ、禽獸
ノ有セサル所ヲ有ス、靈智アリ、心意アリ、思慮ノ勢力アリ、曉解認知ノ勢
力アリ、故ニ、人ハ、此ノ如キ特准ヲ稟ル者タレハ、若之ヲ把持スルコトヲ
誤リ、靈智、理性ヨリモ、寧ロ、感覺ト感覺ト相通スル衝動トニ依テ、束縛ヲ

人ハ一ノ
目的ニ就
テハ下等
タルヲ論
ス

受ル時ハ、正ニ、其抛擲スル所ノ度ニ、準比シテ、其優等ノ度ヲ、殺滅セラレ、
竟ニ以テ、禽獸ノ線圈内ニ、沈没スルニ、至ルナリ、然レハ、稚幼早歲ニ於テ
ハ、人ト雖モ、禽獸ト、少差アルノミ、豈努力セサル可ンヤ、カノ諸種我狄ト、
教育ナキ人種トノ如キ、未ダ曾テ、禽獸ノ能ニ、超越スルコト、遼遠ナル能
ハス、亦唯、感覺、衝動、本能ノ生類タルノミ
一方ニ就テ、之ヲ見レハ、靈智ヲ剝奪セラレ、自己ヲ、理性ノ紀律ヲ以テ、克
勒スルコト、能ハサル者ハ、禽獸ノ下位ニ、沈メリト謂フヘシ、何トナレハ、
人ハ、禽獸ノ有スル、靈智ノ代用タル物ヲ、有セサレハナリ、人ハ、己ヲ導キ、
欲情縱肆ヲ制克シテ、本眞ノ界限ヲ、知ラシムル所ノ、本能ヲ有セス、故ニ、
苟モ、其情欲偏癖ニ委シテ、省ミテ、之ヲ羈約スルコト、莫レハ、其悲哀スヘ
キ情狀ヲ、現ハシ、太陽ヲシテ、恒ニ其運行ニ因テ、之ヲ照臨セシムルニ至
ル、故ニ、人トシテ、其嗜欲ヲ逞ウシ、自ラ克轄スル能ハサル者ハ、是其天爵

禽獸ノ記
性ヲ論ス

チ亡シ、其徳ヲ敗リ、自ラ貴重ヲ隕スニ、非スシテ、何ソヤ
今又、禽獸ニハ、記性トキカト、問フ者アルヘシ、記性ノ官司ハ、一次、感覺知
覺シタル所チ、移シテ、心ニ再現セシムル者ニテ、是唯、一次、心ニ經過シタ
ル者ヲ、意思中ニ、再生スルノミ、別ニ生出スルコトナシ、故ニ、其靈智タル
ヤ、知覺、感覺ノ本來ノ發用中ニ、含蓄セシ者ノミ、存スルニテ、此感覺、知覺
ヲ移ス上ニハ、別ニ含蓄スル者アルニ非ス、故ニ、其本來ノ發用ニ、物體ヲ
曉解スルノ、靈智アルニ非ス、自己意識アリテ、客ヨリ主チ別ツコト、アル
ニ非ス、唯感覺アル耳ニテ、別ニ含蓄セル者アルニ非レハ、唯此感覺、其次
ニ、再生スルノ外、別ニ他事ナキコト、當然ナリ、今ソレ、感覺ニ供スル物體
ハ、照影トナリ、幻想トナリテ、此心ニ、再ヒ現ルト雖、猶壁上ノ陰影、搖々
浮動スルカ如ク、吾人ノ夢中ニ現ハル、泛然ノ影ノ如シ、蓋シ、禽獸ノ記
性モ、此類ノ者タルヘリ、過去ノ事件ヲ、的然ト理會スルヨリモ、寧レ、夢幻

禽獸ハ記
取スルコ
リモ寧ロ
投合作起
タルヲ論
ス

ノ類タルヘシ、初度明亮ニ、曉悟セサル者ヲ、其後ニ至リ、一層能、曉會スヘ
キノ理ナシ、初時、印象ノ源由タル外部ノ物體ト、自己トチ、分別スル能ハ
サレハ、其後、縱ヒ此物體、理會中ニ、再現スルコト、アリ得ルモ、其分別チ、認
識スルコト能ハス、故ニ、前時ノ知覺ニ供シタル物體、若シハ、事件ト、之ヲ
知覺スル自己トヲ、結合スルハ、記性ニ、少ク可ヲサルノ元行タリ、然ルニ、
禽獸ノ記性ニハ、此元行、缺ケタリト謂フヘシ
然ルニ、尋常、禽獸ニ於テ、記性ト名クル者ハ、覺性ニ供シタル物體、現在セ
サル時モ、之ヲ理會スルノ能アリト、思フ如ク、此ノ如ク、明亮ナルニハ、非
ス、唯其物體、再ヒ其五官ニ、現ハレタル時ニ、其物體ヲ、認識スルニ、過キサ
ルヘシ、犬ハ、其主人ヲ見テ、愉悅ノ情ヲ表ハン、馬ハ、其前時ノ家ニ至ル所
ノ、途ヲ擇フチ知ル、是觀念ノ投合作起、寧ロ、感動ノ伴起ニ屬シテ、記性ヲ
ルニ至ラス、蓋シ、一定ノ物體ト、一定ノ感動感覺、混同融合シテ、相投合作

起スルニテ、物體、其耳目ニ再現スレハ、自然ニ前時ノ感動ヲ提醒ス。故ニ、
 鞭ヲ見レハ、之ト連絡シテ、體驗シタル感覺ヲ伴起ス。故ニ亦、一次路傍ニ
 テ、一物ヲ爲シ、驚怖シタル馬ハ、既ニ其地ニ其物アルニ非レバ、後其處ニ
 近クク時ハ、復畏怖ヲ表スルナリ、是其地ニ、周匝ノ諸物、猶存シテ、初度ニ
 驚怖ヲ起セシ所ノ、一層直接ナル物ト、相伴在スルヲ以テ、其實境ノ再現
 スルニ及ヒ、前時ノ不愉快ル感覺ヲ、提醒スルニ足レリトス。
 然ルニ、靈智ト、理性トテ、稟ケタル有體ニ至リテハ、此ノ如キ時ニ際シテ、
 再現シタル物體ト、之ヲ知覺スル主トシテ、前時之ヲ經驗シタル者トテ、
 相結合シ、其時ト、其事件ノ景況ト、并ニ之ト、相連絡シタル、其身ノ經歷ト
 テ、心ニ喚起スヘシ、是即チ、本來謂フ所ノ、記性ノ作用ナリ。
 然ルニ、禽獸ニモ、此ノ如キ運用アリト、思フハ、絶チ道理ナキコトナリ、禽
 獸ニ於テハ、伴起投合シタル、理會、即チ、感覺アリテ、因テ以テ、相喚起スル

論定ノ總目

ト、兼テ、前時其感覺ヲ、生シタル物體ヲ喚起スルトノ、事アルノミ、是ヨリ
 外ノ事、アリトスルモ、絶チ其明證アルナシ、今、甲ノ物アリテ、乙、丙、丁ナル
 周匝ノ諸物ト相伴ヒ、是ニ由テ、一定ノ癸ト云フ感覺ヲ、生シタリトシ、又
 再ヒ、其後ニ方リテ、甲ノ物、若シハ、乙、丙、丁ノ内、何レノヲモ一ツ伴ヒタル
 物アリトセバ、カノ癸ト云フ同上ノ理會、又一次盛ニ提醒セラレ、カノ如
 キノミ、
 余謂フ、吾人、禽獸ニ於テハ、稍的確ニ、之ヲ名狀シ得ルコト、次ノ如キニ過
 キス、是固ヨリ、感覺ヲ有シ、又單素ナル意味ニテ言ハ、物體ノ知覺ヲ有
 ス、然レ、是唯、其感覺ト連絡シテ、僅カコ、之ヲ有スル耳、カノ知覺ノ眞體ヲ、
 徵スル意味ニテ、其中ニ靈智ノ、曉解ヲ、含ミタル者ヲ、有スルニ非ズ、此感
 覺ト、其混淆セル知覺トハ、蓋シ之ヲ生シタル物體、既ニ存セサル時モ、照
 影若クハ、理會トナリテ、再現スルナルヘシ、而テ、此ノ如ク、再現シタル處

ニテ、吾人、禽獸ノ記性ト、名クル者ヲナスナリ、然レ、是人ニ於ケルカ如ク、其物體、若クハ、事件ヲ、前時ノ履歴ト結合シ、其身自己ノ觀念ヲ、知覺スル主ナリト、立ルノ比ニ非ス、唯其物體、再現スル時、之ヲ以テ、前時伴ヒ來レル感覺ヲ、再ヒ提醒スル耳

余固ヨリ自ラ知ル、此說、尋常世ニ、禽獸ノ智ニ就テ、主張スル見解ニ、非ルナリ、世多ク、禽獸ヲ理會シテ、以謂ヘラク、是亦、自己ニ似タル能力ヲ有ス、而テ、若禽獸ヲシテ、此ノ如キ理會ヲナスコ、足ラシメハ、恐クハ、彼モ亦交互ニ、人ヲ理會シテ、己ニ似タル才能ヲ、稟ケタル者ナリトセムトス、是孰レモ正シキ理會ニ非ルナリ

第二篇 腦、并ニ、神經ノ一定セル形狀ニ、係ハル心意ヲ論ス

心ノ現象中ニハ、一定ノ現象アリテ、此心ト、神經ノ機官ト、相關シテ生スル現象ノリ、是親密ニ、此機官ノ形狀ニ、属スル者ニテ、性理家ニテハ、屢之

事由ヲ叙ス

時トシテ、生理家ノ取レル見解ヲ論ス

ヲ忽零セリト雖モ、之カ表章ヲ要スル者アリ、余カ指ス所ハ、睡眠、夢、睡遊、癡狂ノ現象ニシテ、心ノ發作、此情狀中ニ含マレ、此現象ヲ發スル所ニ於テハ、性理學ノ講究ニ於テ、本來ノ目的タリ、然ルニ、是皆、之ヲ解スルニ、極メテ難キ問題ヲ、表スルコト多シ、然レ、是マテ、世ニ曉解スル者少ナキ故ニ、此心ノ發作ノ消長ヲ論スルハ、奇ナラスシテ、益ナキ事ニ、非ルナリ

問題ナル現象ヲ、解明セムト欲シテ、生理家ニ於テ、時トシテ、論述セシ見解ト、考定トハ、眞ノ心理學ト、符合スルコト少ナキヲ以テ、性理家ニ在テ、此現象ヲ講求スルコト、一層切要トナレリ、生理家ハ、腦ノ器具ヲ觀テ、自然ニ思慮ノ現象ヲ、起スニ足レル者トシ、尋常、思慮ノ運用ヲ、管轄シテ、一層高キ本元クル、靈智ハ、アルナクシテ、尋常、此心、即チ、精神ノ本元ニ、歸シタル運用ハ、一種ノ自動力ニ依テ、輸出シ、其間、我カ意識ト、意ノ用トハ、全ク止息シテ、腦器、自ラ發動スル者ナリト云ヒ、又意識トハ、其實、唯腦ノ官

能ニシテ、感覺ト、意思ト、外ノ者ニハ、非スト云ヘリ、是直白ナル物質學
 家說ニテ、吾人、人ニ於テ、心、又ハ、靈魂ト名クル者ノ、眞個ノ存在ヲ、全然傾
 覆スル學理ナリ、果シテ、腦ノ機官ハ、カノ醒時ニ在テ、吾人ノ存體ニ於テ、
 精神ノ元ニ歸シタル運用チ、睡中ニ輸出スル如ク、自ラ發動スルコト足レ
 リトセムカ、果シテ、思慮チシテ、腦ノ官能ケルコト、消化ノ胃ニ於ケル如
 クナラシメムカ、果シテ、然ラハ、吾人何ノ須要カアラズ、是唯一時、腦ノ發
 作スルノミコシテ、其他、何事カアル、是果シテ、何ノ證據カアル、其心ト指
 ス者、唯腦ノ發作シラハ、其實果シテ、何物シヤ、而テ、其人ト指ス者、唯生活
 セル一機關シラハ、其一層高邁ナル勢力チ、稟ケタリトスル者、果シテ何
 物シヤ
 故ニ、論題ナル現象ニ於テハ、カノ眞正ナル天道ヲ觀、心理ヲ覺ト、共立シ
 テ、相反ヲサルヲ道ヲ求メ、以テ之ヲ解釋スルコト、切要ナル事トナリ

定例不例
ノ別ヲ論
ス

此語ノ意
味ヲ論ス

此諸現象、中、總、同、ク、腦及ヒ神經ノ情狀ト、親密ニ連絡シテ、是ト相
 關スル者トシテ、見ルヘシト雖、其ハ、定例ノ發用トシテ、他ノ一ハ、神經、
 殊ニハ、腦機ノ、不例コシテ、錯亂セル情狀ヨリ、發見スルコト、見エ、定例
 ノ種類ニ、睡眠ト、夢トアリ、不例ノ種類ニ、睡遊ト、并ニ所謂墨斯墨利士スミス、
 術ト、癡狂等ノ錯亂セル精神ノ諸狀、アリトス
 第一章 睡眠
 睡眠ハ、何事ナリヤ、此名ノミニテ、此問題ノ解釋ニ、供スヘシヤ、蓋シ、尋常
 諸事物ノ名ハ、多ク、然ル如ク、此語ニテ、一種別ナル、景況消長ノ度ヲ、形容
 シルヲ見ル、是其事ヲ、僅カニ講解スル定義タルヨリモ、寧ロ、問題ナル事
 實ノ、標目タル品性ヲ、示シタルナリ
 睡眠、即チ英語ノスリープト云フ語ハ、日耳曼語ノスラフス、眠ルト

云フ語ヨリ、來レル者コト、拉丁ノスムニ、ス、眠ルト云フ語ハ、
ユス、後ロコ屈スル、ト云フ心ヨリ、來レカカ如ク、此狀ニ至リタル時、體ノ
屈スル形容ヲ、指シタルナリ、即チ、筋維弛緩シ、支撐スルコト無ケレバ、骸
軀、後ロニ倒レ、下コ横ハルノ謂ヒナリ、是視察者ニ在テ、其體ヲ、目的トスレ
ハ、睡眠ノ情狀中、第一ニ、目コ觸レテ、尤著明ナル效驗ナリ、然レ、此語ハ、唯
此ノ如キ意味ノ外、別ニ講解コ供ス、一キナシ

第一 睡

眠ハ最初
意ニ識ノ
失亡ヲ含
ムテ論ス

然ラハ、此外ニ、睡眠ト云フハ、何事ナリヤ、今稍密ニ、學術上ノ位置ヲ、目的
トシテ、睡眠ト名クル者ニ於テ、體ト、心トノ、狀トシテ、現ハル、所ノ諸種
ノ形象現象ヲ、視察スレハ、余カ曉解スル所コト、第一初頭ニ、最も顯著ナ
ル事實ハ、意識ヲ亡フコト、即チ、此我ナル者ヲ、亡フコトナリ、然レ、恐ラク
ハ、是全ク亡フコト非ス、猶自ラ存在セリト、見ユレハ、自己意識ヲ亡フコト、
時ト處ト、總テ外部ノ境遇ト、相關シタル我ナル者ヲ、亡フナリ、尋常、吾我

吾人此時
其亡失ヲ
覺エリル
ヲ論ス

ナ亡フト云ヘリ、是尤密ナル表言ニテ、能之ヲ、形容シタル者ナリ、
睡眠ハ、最初ニ、意識ヲ亡フ中ニ、生スルヲ以テ、其睡ルト云フ事實ノ、意識
ニ供セサルハ、當然ナリ、何トナレハ、意識ナクアリコト云フハ、是一ノ意
識ナレハ、ナリ、此事實ノ比喩ハ、尋常屢見ル所コト、今汝、一夕、看書ノ時、倦
ニ來リ、茫然其疲倦ヲ覺テ、加旃時トシテ、假寐莫然タルコト至ルコトア
リ、此時汝、思慮ノ流レヲ逐ヒ、其線ヲ、間斷ナク持スルコトハ、難シト覺ユ
ヘシ、而テ此時汝ハ、一ノ念慮ヲモ、有セスシテ、竟ニ、一時、眞ニ眠コ就キテ、
手コ齎ス書籍、不意ニ落チテ、汝ヲ醒覺スルニ、至ルヘシ、加旃人或ハ、五分
時間モ、眞ニ頭ヲ低レテ、在リシ者、自ラ醒覺スルコト及ヒ、其實ニ、全ク睡ラ
サルヲ、堅守シテ、之ヲ拒ムコトアリ、是其實、其人是ニ就テ、意識ヲ有セザ
リシコト、由ルナリ故ニ、吾人、曾テ直接ニ、睡中ノ狀ヲ、知ルコト能ハス
此意識ヲ亡フハ、形體ノ、覺性ノ發作ナキコトヨリ、生ス、是五官ハ外部ノ

是何如マ

ヲ發スル
ヤヲ論ス

物ト關係シテ自己ヲ知ラザル現象ヲ我ニ供スル者ナリ、睡中ニ於テ此
外界ト相通スル諸竅皆閉鎖セラレテ寂然放落シテ恰モ外界ニ就テ意
識ヲ有シタル連絡ヲ離レテ飛ヒ去ルカ如シ、此時ニ我カ時間空間
ノ關係ヲ認ルナク加旃其時間空間ノ關係中ニ來ル材料タル我カ自己
ノ體ヲモ認ルナシ蓋シ我カ此觀念ヲ得ルハ皆五官ニ由レハナリ故ニ
此關係ノ意識ヲ亡ラ所ニテハ睡眠ニ於ルモ死ニ於ルカ如ク時間空間
ノ理法ト其疆界トヲ脱シ又我カ體ト總テ他ノ物質ヲ存在トシ拘ハラ
ス悉ク之ヲ脱シタリ然レモ心ノ發作ハ猶存スルコト疑ヒナクシテ吾人
此間ノ意思ト感動トニ就テハ猶意識ヲ有ス唯其他ハ二物モナク總テ
自己意識ハ消滅スルナリ
故ニ睡眠ハ第一ニ神經ニ係ハルコト見ユ生活ノ官ニハ係ハラズ
見ユ生活ノ官ハ常ニ如ク運行シ加旃其力一層倍スルコトナリ又筋維

睡眠ハ第
一ニ神經
ニ係ハル

ヲ論ス

ニモ係ハラサルコト見ユ筋維ハ猶作用ニ供スヘシ唯專ラ神經ニ關
シテ神經疲倦シ陸續タル發用ニテ其活潑ナル力空乏シテ休息ヲ要ス
ルニ至リ發作歇ミテ漸クニ落下シ此ノ如クニシテ余カ前ニ云ヒシ意
識ノ亡失ニ至ルナリ故ニ睡ルト云フハ全ク神經ニテ全身ニハ非ルナ
リ
諸官其發作ヲ失ヒ睡リニ落ルハ一次ニ於テセヌシテ逐次ニ於テス第
一ニ視官脱シ眼瞼下垂シテ閉ルニ至ル之ニ次ク者ハ恐ラクハ味嗅二
官ナルヘシ觸聽二官ハ脱去スル者ノ中ニテ最後ニ位ス故ニ睡リニ落
チタル時喧嘩ハ容易ニ我ヲ覺破ス故ニ又他人我カ名ヲ呼ビ或ハ我ニ
觸レテ容易ニ我ヲ醒覺ス故ニ此二官ハ醒覺ノ時ニ最首タリ而テ又一
官ハ既ニ睡リテ他ノ官ハ猶醒ルコトアリ今汝カ目ハ既ニ睡リタル時
汝カ傍ヲニ坐スル人言フ事アレハ汝猶之ヲ聞クヲ得ルカ如シ死ニ於

五官逐次
ニ睡リニ
就クヲ論
ス

第一身
體管束ノ
失亡ヲ論
ス

ケルモ、此ノ如ク、既ニ見ルコト能ハス、又言フコト能ハサルモ、聞クコト
アリ
此、自己意識ノ失亡ト、相伴ヒテ、身○體○管○束○ノ失亡アリ、即チ、支體ノ官具ヲ、我
カ意ニテ、管束所轄スルヲ、亡フナリ、是五官ト、神經ノ發作ヲ、失フヨリ、起
ル者ニテ、吾人、何時ニテモ、此身體上ニ、意ノ力ヲ陳フルハ、唯神經ニ依テ、
然ルコトヲ、直チニ意ノ發出スルニハ、非ルナリ、故ニ、神經疲乏ニ至リ、其力
ヲ費耗シテ、既ニ動力ヲ、供スル能ハス、又、高キ靈智ノ命令ヲ、施行スルコ
ト能ハサレハ、意モ既ニ形體ノ官具上ニ、其管轄ヲ、維持スルコト能ハス、
其物質上ノ小王國ヲ、制御スルコト能ハスシテ、其政令モ廢シ、其王威モ
息ムナリ、此時ニ當テヤ、忽焉トシテ、生活ノ急潮ヲ、停メ、即時ニ、其王、其朝
臣侍臣ノ五官ヲ、世々斷ニサレ、睡眠中ニ、閉鎖シテ、カク幻劇ヲ演スル、迷
宮ヲ説話ヲ、現出スルナリ

睡眠ニ近
ツク徴ヲ
論ス

是ヲ以テ、睡眠ノ近ツク最初ノ、徴候ノ一ハ、筋維ノ弛緩、眼瞼ノ垂下、頭顱
ノ低下、兩臂ノ萎放、體軀ノ直立ヨリ、横臥ノ位置ニ、沈ムナリ、カク禮拜堂
ノ講説ニ於テ、頭顱、前面ノ横欄ニ、請モ、親懇ニ支柱セムコトヲ、求ムルニ
際シ、之ヲ引カフ、猶且懇請スルヲ、免カレシムルハ、幸ナリト謂フヘシ
此論題ナル事項ハ、形體ノ管束ヲ亡フコトニテ、此睡眠ノ現象ハ、密ニ醉
醒ト、眩暈ノ現象ト、相似タリ、是何レモ、神經ノ發作ヲ失フハ、同一理ニテ
神經ハ、意ノ力ヲ、形體上ニ行フツ、媒介タレハナリ、然ルニ、其神經ノ發作
ヲ失フコト、一ノ例ニテハ、自然ニ生スル所トシ、他ノ例ニテハ、自然ナラ
ザル源因ニ由ルト雖モ、意力ヲ失フノ直接效驗ハ、同一ナリ、之ト同一ノ
效驗、一定ノ疾病ニテモ生シ、又、竟ニハ、死ニ於テモ、然ル者ナリ
是ノ類例ニテ、心ノ運用ニ就テ、意ノ管束ヲ、失フコトアリ、是實ニ、心ニ於
ケル所ノミニテハ、睡眠ト、其本體ノ姿勢ヲ同シ、其品性ヲ具ヘタリ、此時、

類例ナル
事ヲ論ス

第三心
ニ就テ管

心ノ發作ハ、猶行ハル、ト、假定スヘキ道理アリ、其時多分ハ、吾人、心ノ發作ヲ知レ、思慮ハ、其思慮ニテ、自由ニ往來シ、行テ之ヲ規定シ、之ヲ管束スヘキナシ、是吾人、醒時ニ在テ、爲シ得ル如ク、我カ思慮ニ於テ、之ヲ管束スルノ首タル勢力ハ、實ニ他ノ思慮ヲ省クノ中ニ存スレ、此時ニ當リテハ、我カ勢力ニテ、一定ノ思慮ヲ把握シテ、他ノ念慮ヲ省キ去リ、専ラ此ニ我カ心ヲ注着スルコト能ハス、且又、其意思ノ中ニ、快カラサル脈絡アルモ、之ヲ廢シ、之ヲ抛擲スルコト能ハス、吾人、如何ニ努力シテ、之ニ克クムト欲スレ、此不愉快ナル印象ヲ、何如ニスルナシ、吾人ハ、我カ自己ノ意思ト、其偶然ナル伴生ト、掌中ニ在リ、是此心ニ固有スル力、管轄ヲ受ケス、自在ニ運行シ、唯其固有ノ理法ニ因テ、開導ヲ受ケ、以テ我ヲシテ、至多至奇ナル幻影ヲ見セシメ、恰モ其實在タルカ如シト雖、其實、我カ唯、其劇場ニ於テ、受動ノ看客タル耳

心ノ能力
ハ、睡眠中
ニ止息セ
サルヲ論
ス

或人ハ、假定シテ、以謂ヘラシク、睡眠中ハ、心ノ能力、或ハ其一分ヲケ、或ハ全體ヲ罷シ、止息シテ、就中、一層切ニ、意ニ關スル一等高キ能力、殊ニ然リト、然レ、心ノ作用ノ發動スル間、即チ、心ニ意思ノ存スル間ハ、其發動、其意思ハ、一種ノ方向ヲ指シテ、一種ノ目的ノ上ニ、布陳セサルヲ得ス、故ニ睡眠中ニ、一次全ク、止息スト云フハ、ニモ明證ナシ、吾人、此心ヲ理會シテ、發動思慮スレ、其能力ハ、少シモ布陳スルコトナシト、思フコト能ハサルナリ、何トナレハ、心ノ能力ト云フ者ハ、即チ、唯、云々ノ方法、云々ノ様法、云々ノ物ニ就テ、發動スルニ堪ヘタル者ヲ、指セハナリ、或ハ、知覺タリ、或ハ、理會タリ、或ハ、記性タリ、或ハ、想像タリ、或ハ、辨決タリ、或ハ、論辨タリ、或ハ、又、其發動スル瞬間ニ、表ハル、他ノ能力タルヘシ、是必ス、此心ノ固ヨリ知ル所ノ能力ノ一タルヘシ、然ラレバ、吾人、其存在ノ、他時曾テ意識ニ供シタルコトナキ新能力ヲ、睡眠中ニ、發出ストセムカ、是豈、果シテ然ラム

睡眠中一定ノ源由ニ係ル者コシテ、二個ノ源由アリ、第一ハ、惡慮ノ接續ニ就テ、意ノ管束、全ク止息スルコト、第二ハ、自己意識ノ失亡、殊ニ依テ以テ、或カ身體官具ノ用、其時間空間、并ニ凡テ知覺スヘキ物體トノ關係ヲ失亡スルコトナリ、故ニ第一ノ源由ニ依テ、我カ思慮往來スルコト、定規ナク、連絡ナク、故ニ此時、事物總テ、相附着スルコトナク、伴生ノ理法ニテモ、之ヲ分解スルニ、十分ナラス、吾人、思慮ノ狂暴ナル潮汐中ニ、埋没セテ、之カ爲ニ、流蕩セラレ、コト、猶急流奔湍ノ際ニ、一輕葉ノ漂ヒ去ルカ如ク、猶現藝ノ舞蹈ニ於テ、彼此ニ旋回スルカ如ク、朦朧トシテ、醒ヲ求メ、自己管束ノ輻勒ヲ持セ、世欲スレバ、復只、之ヲ失ヒ、再ヒ、怖ルカキ舞蹈中ニ、帶回セラレ、コトナリ、

然ルニ、其能力、睡眠中、其發動ニ於テ、實ニ少差ナキ能ハス、是前ニ指目シタル源由ニ、係ル者コシテ、首トシテ、二個ノ源由アリ、第一ハ、惡慮ノ接續ニ就テ、意ノ管束、全ク止息スルコト、第二ハ、自己意識ノ失亡、殊ニ依テ以テ、或カ身體官具ノ用、其時間空間、并ニ凡テ知覺スヘキ物體トノ關係ヲ失亡スルコトナリ、故ニ第一ノ源由ニ依テ、我カ思慮往來スルコト、定規ナク、連絡ナク、故ニ此時、事物總テ、相附着スルコトナク、伴生ノ理法ニテモ、之ヲ分解スルニ、十分ナラス、吾人、思慮ノ狂暴ナル潮汐中ニ、埋没セテ、之カ爲ニ、流蕩セラレ、コト、猶急流奔湍ノ際ニ、一輕葉ノ漂ヒ去ルカ如ク、猶現藝ノ舞蹈ニ於テ、彼此ニ旋回スルカ如ク、朦朧トシテ、醒ヲ求メ、自己管束ノ輻勒ヲ持セ、世欲スレバ、復只、之ヲ失ヒ、再ヒ、怖ルカキ舞蹈中ニ、帶回セラレ、コトナリ、

何ヲ以テ符合スルコトナキヤチ論ス

第二ノ源由、即チ感覺ノ意識ナク、知覺スヘキ物體ノ、我ト關係ナキコトニ由テ、我カ心ノ運用ニ、適宜ナルコト、符合スルコト、至ク欠ルニ至リ、時間、空間、并ニ人身同一ノ理法ハ、舉リテ之ヲ視ルコトナク、而テ、吾人、之ニ就テ、其理ニ合セサルモ、之ヲ覺ユルノ意識ナク、又奇々怪々、尤モ反言對ニ屬スル結合ニモ、驚異スルコトナシ、爰ニ在ルカトスレハ、彼處ニ在リ、今ハ此ト視、又其ト視、其景色ハ、孔尼可低加多ノ山間ニ、在ルカト思ヘハ、烏拉ノ山脈ニ、亞刺比亞ノ沙漠ニ在リ、然ルニ、吾人、此ノ如キ變化ヲ見テ、曾テ至奇ナルコトトセズ、今禮拜堂ノ偏間中ニ、徜徉スレバ、其時宜ニ適セサル、殊ニ襤褸ナル衣ヲ蒙リ、又忽チ、野牛ノ我カ後ニ在テ、草ヲ喫スルヲ見ル、此ノ如ク、轉移瞬間ニ在リ、蓋シ、吾人、外界トノ關係ニ就テ、意識ヲ有セサルハ、何ソヤト謂ハ、之ヲ有スルハ、獨リ五官ニ在リテ、依テ以テ時間ト、空間トノ理法ヲ、認識スルナリ、然ルニ、睡眠中ハ、此五官、迷沒

上ニ舉ル
源由其諸
現象ヲ解
釋スルニ
足ルヲ論
ス

ニ屬スルヲ以テ、時間ト空時トハ、我ニ於テ何カアラム
上ニ舉ケタル源由コテ、睡眠中ニ布陳セル心ノ諸種ノ能力ニ就テ、奇怪
且支離ナル發動アルハ、十分ニ其講釋ヲナスヘシ、記性ハ過去ヲ擅マ、
○諸種ノ時限ニ於テ、之ヲ示シ、諸物鏡ニ現ハレ、事件並ヒ過キ、尋常見ル
所ノ形容顔面、其眞ニ存スル如ク、又其眞ニ在リシ如クハ、見ユサルナリ、
吾人、動モスレハ、故人ト說話スルニ、其人數年前ニ死シタル事ニ於テハ、
毫モ意思中ニ生ズルコトナシ、故ニ、此時、印象、感動、念慮、妄想、并ニ總テ此
諸能力ノ伴生アリト雖モ、記性ト想像トハ、極メテ稀ニシテ、中ニモ辨決
論辨トニ至テハ、殆トアルナキカ如シ、然ルニ、初頭ハ、此ノ如ク、見ユレ
ル、之ヲ密ニ查覈スレハ、其實、此ノ如キ心ノ自然ナル運行中ニ、總テ此諸
力ノ布陳アルハ、明カナレド、唯上ニ舉ケタルニ源由ニ依リ、變更ヲ受
ケテ以テ、奇異怪々ノ效驗ヲ呈スルナリ

心ノ諸能
力直ニニ
意ニ關セ
サルヲ論
ス

今若、心ノ能力ハ、其發動ト運用トニ於テ、何レモ全ク意ニ關シテ、意ノ許
可ナク、意ノ申令ニ於テセサルハ、一モ、其勢力ヲ有スルコト、能ハサル者
タリト、是實ニ證ス可ラシメハ、睡眠中ノ如ク、意ノ威權、一時止息シテ、之
ニ、依頼スル諸能力、其勢力ヲ失ヒ、潛居セサルヲ、得サル時ハ、意ハ既ニ己
ニ、其王位ヲ有セサルヘシトス、然ルニ、縱ヒ悉皆ナラサルモ、心ノ運用ノ
多分ハ、其然ラサルコト、眞然ナルヲ知ル、此能力皆、自然ノ運用ニ屬スル
ハ、猶意ノ發作ニ屬スルカ如ク、加旃、其中或ハ、一二ノ時例ニ於テハ、直ニ
ニ意ノ管轄ニ屬セサルカ如ク、見ユル者アリ、譬ヘハ物ヲ記シテ、之ヲ追
思シ得ルト、之ヲ忘ル、トノ如キ、又周匝ノ諸物ヲ、知覺スルト、依テ以テ
後來、云々ノ意思、伴生ノ理法ニ依テ、觀念ト印象トノ連絡ヲ、失ハサルト
ノ如キ、皆我カ選ヒニ、供スル者ニ非ルカ如シ、又或ハ、心ノ運用ノ中、其一
ニハ、他ノ運用ニ比スレハ、一層意ト密ニ連絡シ、一層直チニ、意ノ媒介ヲ

受クル者アリ、然レ、余謂フニ、何レノ能力ニテモ、意ノ指揮ナケレハ、發作スルコト能ハス、意ノ欲スル所ニ抗スル能ハスト、云フ如クニ、意ニ關屬スル者ナルコトハ、證ス可ラサルナリ、蓋シ、事實ニ據レハ、心ノ發作ノ端緒、意ニ依テ、一次運用ニ付セラレタル時ハ、其發作、後來一時、猶進行シ、意ハ既ニ引キ去リタルモ、猶進行シテ、或ハ睡中、若シハ、深ク幻想ニ沈ミタル時ノ如ク、其主ナキモ、其業ヲ嗣クヘキコト、見エタリ

此ノ如クナレハ、何ニ由テ睡中ハ、心ノ運用ヲ管束スル、意ノ勢力ハ、止息スルニ至ルカ、何物カ之ヲ生スル、是猶身體ニ就テ、意ノ勢力ヲ失フト、一般ニシテ、神經ノ機關ノ發作ナキヨリ來ルカ、蓋シ、意ノ止息スルハ、必ス神經ノ發作ナキヲ伴ヒ、之ト相連絡シテ、見ユルト云フ事實ト、神經ノ發作ヲ止ムル者ハ、何ニ由テモ亦、意ノ止息ヲ促スコト、見ユルハ、猶疾病癡狂、神遊、麻藥、醉中、等ノ如キ事實ト、又其一ヲ發スル度ハ、其一部ノ亡失ニ

何ニ由テ
意ノ勢力
ノ止息ス
ルニ至ル
カヲ論ス

此效驗ヲ
總論ス

神經諸機
ノ疲乏ヲ
論ス

テモ、全體ニテモ、他ノ一ノ度ト、相比例スルト云フ事實ト、此三ツノ事實ニ據レハ、余ニハ、神經ノ發作ナキニ、由ルト云フ觀念、勝レリト見ユ

然ラハ、則チ、睡眠ノ首タル現象ナリト、見ユルハ、感覺スル意識ノ失亡、身體ニ就テ、意力ノ失亡、心ノ運用ニ就テ、意力ノ失亡、此三ツニ止ルナリ

然レハ、睡眠ハ、最首トシテ、神經諸機ノ攪動ニシテ、其疲倦缺乏ヨリ、發スルコト、見ユ、天然ノ理法ニテ、神經モ、恒ニ發作シテ、息マサルコト能ハス、休憩ハ、必ス努力ノ後ニ、來ラサルヲ得ス、故ニ一ノ源由アリテ、愈、速カニ、神經ヲ疲勞スレハ、其睡眠ヲ促スコト、愈、速カナリ、是吾人、知ル所ノ事實ニシテ、小兒ノ時ノ如ク、女子ニ於ケルカ如ク、又詩人、技術家等ノ、感性ノ強キ人ニ、於ケルカ如ク、其體質、尤感動シ易ケレハ、一層睡眠ヲ嗜ム者ナリ、是ト表裏シテ、懶惰ナル性質ニテ、何ニモ、感動スルナク、神經ヲ勞スルコトキ者ハ、正ニ相反スル根源ヨリ、睡眠ニ、落ル者ニテ、神經ノ發動ノ、

疲倦ニハ非ス、其神經十分ニ存在セサルナリ、老智曰ク、吾人若動物性ト、植物性即チ滋養性ト、一次ニ睡ラシメハ、竟ニ醒覺ニ至ルノ期、莫ラシムヘシト、是即チ死ノミ、喜羅可利多斯曰ク、睡中ニ在テハ、人々各其世界ヲ有シ、醒時ニ至レハ、人々相通シテ、一ノ世界ヲ有スト、又他人ノ言ニ、恰モ能ク之ヲ形容シテ曰ク、睡眠ハ、心潮ノ満干ニシテ、人生海中ノ事ナリト

第二章 夢

前章ニ表章シタルハ、睡眠ハ、先首トシテ、神經機關ニ係ハリ、其疲乏ニ因テ、五官、其發作ヲ止メ、恰モ死ノ如キニ至ルコトナリ、然ルニ、同時ニ亦、滋養ノ機關ノ、以テ此生活ニ、欠ク可ラサル官能ハ、運行シテ、息マサルナリ、而テ、其感覺器ノ發動ヲ、停ムルヨリシテ、**(第一)**意識ノ亡失ヲ生ス、是少クモ、外界ノ庶物ト、相連絡シ、相干涉スルコトニ就テハ、必ス然ル者ナリ、**(第二)**身體、即チ筋維ノ軀ニ就テ、意カノ亡失ヲ生ス、**(第三)**心意ノ運用ニ就テ、

以前ノ講究ニ反リ論ス

夢ハ何物タルヲ論ス

意ノ管束ノ亡失ヲ生ス、然レ、心ハ猶發動ニ屬シテ存シ、其運用進行シテ、息ムナシ、唯意之ヲ管束セサルノミ、**(第一)**今ハ乃チ、一層別段ニ、睡眠中ノ心ノ發動ニ就テ、其種別ナル形狀ヲ取テ、之ヲ論セムト欲ス、是即チ、前既ニ論定シタル元理ニ據テ、容易ニ講解シ得ヘキ情狀ナリ、然ラハ夢ハ何物ナリヤ、余之ニ應ヘテ曰ク、夢ハ、睡中ノ心ノ發作ニシテ、一定ノ道理ニ因テ、吾人、其後ニ之カ意識ヲ有スル者ナリ、然レ、意識ヲ有スルハ、睡中ノ心ノ發作ニ於テ、悉ク然ルニ非ス、恐クハ、多分ナルヘシ、感性ト、意トハ多分發作ナシ、故ニ、心ノ運用ヲ、率先シテ、之ヲ指揮スル管束ノ本元、退縮スルヲ以テ、諸種ノ思慮ト、感動ト、心ノ製煉局ニシテ、製造セラル、トモ、諸種ノ能力ノ布陳ニシテ、奇怪ナル煉丹仙藥ヲ、製煉スルトモ、多分後來ニ至リ、之ヲ報告セサルナリ、然ルニ其感動ノ一部分ハ、生シテ存

吾人ノ夢ノ源因ヲ論ス

在シ、而テ、此感動ヲ、全ク失ハサラシムル爲ニ、夢ヲ破ル源因、其間ニ來リ、而テ又、此心ノ理會、尋常ヨリモ、一層活潑ニ、印象ノ力ヲ添ヘテ、現ハレ、以テ吾人ヲシテ、其後ニ在テ思慮シタルコトヲ記シテ、之ヲ追憶セシム、是即チ、夢ノ哲學ナリ、此ノ如ク、睡中ノ我カ思慮ヲ追憶スルコトヲ、吾人、夢ト名ケ、殊ニ、一層多ク、此語ヲ用ウルル、其睡中ノ思慮理會、交互ニ、相附着シ、相連絡シテ、稍一種ノ合一ヲ成ス者ニ於テス

吾人ノ夢ハ、種々ナル境遇ヨリシテ、其形容ト、品性トチ、取ル者ニテ、是全ク、偶然ナル者ニ非ス、又悉ク、理由ナキニ非ス、故ニ、既ニ其連絡ヲ、踪跡シ能ハサル時ニテモ、其夢ト、其時ノ體、若クハ、心情ノ形象トノ間ニ、云々ノ連絡存シテ、若知ル可ヲシメハ、依テ以テ、夢中ノ形容顔色ノ彷彿ヲ、解釋スルコ、足ルヘシト、思フ事アリ、吾人ノ夢ノ、首タル源因ト、云フヨリ、恐クハ、其變化ヲ、生セシムル、他カト、云フコト、一層正シカルヘケレト、其實ハ、

第一ノ譬喩

(第一) 吾人現在ノ體上ノ感覺、殊ニハ、形體諸機ノ内部ノ狀情ト、(第二) 吾人以前醒時ノ思慮、性質、殊ニハ、一時心ニ、旺シタル情狀トナリ

此變化ヲ、生セシムル源由ノ、第一ニ就テハ、其運用ノ例、蓋シ、諸人ニ於テモ、自己ノ經驗ニ、存スヘシ、汝若、踈硬ナル、牀蓐上ニ、寢テ、若クハ、狹窄ナル位置ニ、臥シタル時ハ、骨ヲ傷ツキ、若クハ、楚撻ニ遭フト、夢ムヘシ、又若、汝カ衣帶ニテ、頸ヲ強ク締メタル時ハ、縊ルト、夢ミ、又汝カ晚餐ニ當リ、殊ニ鹽梅ニ佳ナレトモ、消化セサル食餌ヲ嚥ケタル時ハ、汝カ夢裏ニ、肥大ナル黑熊來リ、汝カ胸膈ニ當リテ、泰然トシテ坐シ、又或ハ、嘗テ一武人ノ、飽食ノ後ニ、夢ミタルカ如ク、暗黒ノ王公アリテ、足ヲ伸ヘテ、其胃部ノ上ニ、横フルコト、猶今、楊丘ニ在リ、碑上ノ、墓ノ如シ、又士低瓦的氏ノ、說話ニ、一貴人アリ、其寢ニ就シヤ、數罈ニ熱湯ヲ盛り、脚冷ヲ防キケルニ、其夜、埃德那山ノ噴火口邊ヲ、徘徊シタリト、夢ミシト、是亦、正ニ此例ニ當リテ、形體ノ

感覺ニテ、足跡ニ熱ヲ覺ヘ、以テ其地位ノ觀念ヲ提起ス、是其地モ、亦此ノ如キ感覺ヲ、起スヘキ所ナルヲ以テ、竟ニ此念、其真ニ永續セル感覺ト、混同シテ、亦實在ノ品性ヲ取り、以テ、此夢ノ形容ヲ、占メタルナルナリ、故ニ、今若、汝カ睡中ニ於テ、應戸ノ落ルヲ聞キ、若クハ、不意ノ聲響ヲ聞キ、依テ以テ、汝ヲシテ、其真因ヲ知ラシムル如ク、朗然汝ヲ醒覺スルニ至ラス、汝其響ヲ聞キ、感受ノ器、唯一部分ノミ、醒覺シタル時ハ、恐ラシクハ、汝正ニ之ヲ誤リ認メテ、砲聲トナシ、其瞬間ニ、汝ハ方々、海上ノ戰、中ニ在リ、或ハ、海賊ト奮闘ニ、從事スヘシ、吾人ノ夢ハ、此ノ如クニマテ、此類ノ感覺衝動ニテ、感染ヲ受ル者コテ、之ヲ巧ニニ裝置スレハ、汝カ思フ如ク、他人ノ夢ヲ、提起シテ、之ヲ結ハシムルニ、少クモ、稍彷彿ヲ得セシムヘシ、一士人、自ラ此法ニテ、其睡中ニ、決闘ヲナシ、委曲ノ技ヲ盡シ、竟ニ拳銃ノ打發ニ至ルマテ、夢ミタルヲ説話セリ、其拳銃ハ、其響ニテ、自ラ醒覺セシ所ノ瞬間

潛伏病ヲ論ス

ニ、其掌中ニ、置キタル者ナリト、是唯受動ノ夢ナリ
 一定ノ形體ノ疾病、起首潛伏セル者、吾人、醒時ニ、之ヲ知ラサレハ、睡中ニ、自ラ之ヲ感スルコト屢アリ、蓋シ此時、其體ノ機關、内部ノ感動ヲ、一層能覺ユルヲ以テ、其夢ヲ感化スルナリ、此ノ如キ事例ニテハ、夢ハ、形體機關ノ情狀ニ於テ、指針ノ類ノ用ヲナスナリ、カノ稍一定ノ夢ノ、陽ハコ、先兆ノ品性ヲ具スルコトアルモ、此理ニテ、之ヲ解釋スヘキコト疑ヒナシ
 第二ノ原因ハ、吾人ノ夢ニテ、直チニ其事ヲ見ルコトハ、非スト雖モ、其以テ、一種ノ形容ヲナシ、品性ヲ取ル所ノ者ニ至テハ、少クハ、皆我カ前時ノ思慮、若クハ、正サニ心ノ旺スル業課、若クハ、平昔ノ性質ニ於テ、現ハルハ、ナリ、蓋シ、吾人、睡眠ニ落ル時、心ノ發作ハ、猶進行スルコト、睡前ニ異ナルナシ、故ニ、何如ナル方向ニテモ、何如ナル流道ニテモ、既ニ衝動ヲ受ケタル所ニ從ヒ、又何如ナル事業ニテモ、終日我ニ深ク印象ヲ起シタル所ニ從

第二ノ源因ヲ論ス

ヒ又何如ナル事コテモ、極メテ久シク、尤モ強ク、我カ心ニ旺シタル所ニ
 從ヒ、其物、我レ正ニ周匝ノ庶物ヨリ、我カ意ヲ失ハムトスル瞬間ニ、自ラ
 復現シテ、心ハ猶新タル奇觀ト、共ニ進ミ、或ハ晝日若クハ暮夜ノ未ダ
 解了セサル問題、若クハ煩難ナル課程ノ未ダ通曉セサル者ト、共ニ進ミ
 思慮ノ端緒ヲ復取シテ、之ヲ一定ノ目的ニ達スルハ、稀ナル事コ、非ルナ
 リ、而テ且ニ至リ、睡リ醒レハ、前夜夢中ニテ、之ヲ思ヒシ時ハ、超乘ス可ラ
 スト、見エシ者モ、其問題ヲ解釋シ、若クハ、其煩難ヲ通曉シテ、其難キヲ覺
 エサルナリ、是其實ハ、前夜之ヲ思慮シテ後、棄置セシコハ、非ス、睡中ニ猶
 我カ腦ハ、正ニ此事ニ工夫ヲ費シ、或ハ時トシテ、終夜ナルコトモアルヘ
 シ、而テ朝ニ至リ、之ヲ曉解スルハ、是其時、此心、一層新鮮ナルヲ、以テソ故
 ニ非スシテ、終夜腦漿ヲ以テ、此ニ從事シタル結果ナリ、時トシテハ、吾人
 醒メタル時、此ニ就テ、意識ヲ有シ、睡中ニ經過シタル苦心ノ甚シク且久

同一理ヲ、
 猶譬喩ヲ
 以テ論ス

シカリシヲ、暗ニ追想シ得ルコトアリ、余以謂フニ、尋常此ニ就テハ、意識
 ナシトス、然ルニ、唯其明證ハ、世ノ能知ル理法コシテ、心ノ慣習ハ、其從來
 ヨリ流通シ來リテ、漸クニ耗損シタル流道ヨリ、注灌スルヲ、常トスル者
 ナリ加フルニ、カノ曩時ニ難キ所、醒時ニ至リ、何故カ、曉解スルニ、至ルト
 云フ事實モ、屢ニ觀察ニ供スレハ、併セテ以テ、之ヲ證スヘキナリ
 孔徳爾設多ハ、夜半ニ至リ、已ムヲ得テ、一問題ノ解法ヲ、究メヌシテ、之ヲ
 措キ、寢ニ就キ、タレモ、睡中ニ提醒ヲ受ケテ、其問題ノ、正シキ解法ヲ、得テ
 ンリト云ヒ弗蘭哥林ハ、一ノ紛錯セル政略上ノ、舉措ニ就テ、睡中ニ十全ナ
 ル決定ヲ、得タリト云フ、然ルニ、是獨リ、孔徳爾設多ヲ推シテ、此事アル歟
 學家ト、ナヌ可ラヌ、又獨リ弗蘭哥林ヲ指シテ、此事アル政事家ト、ナヌ可
 ラヌ、是固ヨリ、有ルヘキ事ニシテ、吾人、前時心ニ、染ミタル事業、其時正ニ、
 旺シタル情狀心ノ性質、思慮ノ慣習、感動ノ慣習ハ、皆以テ、我カ夢ノ體段

ヲ定メ、其形容ヲ成ス者ナリ、是皆主觀ノ連絡ヲ有シ、何如ニシテモ、我、即
 チ、我カ眞ノ履歴ト、相離拆シケル者ニ非ス、故ニ通常人ノ思フ如ク、偶然
 ニシテ、相關セサルノ事ニ非ルナリ、故ニ大統領義徳瓦的カ、夢ヲ以テ、其
 心ノ情狀、其眞ノ性質偏癖ニ、指針ヲ假ス者ナリト、表章セルハ、道理ナキ
 コトニ非スシテ、是夢ハ此心ノ、何如ナル方向ニ、在ルカチ示スノ、統旗ナ
 リトス今カノ院本ノ大名家索士ノ、諸本ノ中ニテ、馬加彼多ノ夫人ノ夢
 ニ、其獨知ヲ罪シタルノ夢ハ、豈其眞ヲ得タリト、謂ハサルヲ得ムヤ
 吾人ノ夢中ニハ、唯我カ天稟ノ資質ト、旺シタル思慮ノ儀象ト、現ハル、
 耳ニアラス、又或著家ノ表章セル如ク、我カ生來ノ才能モ、此無意ナル心
 ノ發動中ニ、顯ハル、コトアリ、蓋シ、其才能ハ、我カ教育ト、家業トニ拘ハ
 リテ、出現スル機會ヲ、得サル者ナルニ、睡中ヲ時トシテ、機ニ乘スルヲ、得
 ル者ニテ、或ハ、詩人トナリ、或ハ、書工トナリ、或ハ、説家トナリ、何ニテモ、其

此故ニ性
 質上ノ才
 能モ顯ル
 ハ、論ス

夢ノ附着
 ナキヲ論
 ス

性ノ趨ク所ニ從ヒ、又何ニテモ、其壓住セラレタル心ノ、冀慕スル所ニ從
 ヒ、又我カ醒時ニ於テ、徒ラニ期望スル所ニ從ヒテ、出現スル者ナリ
 襲ニ云ヒシ所ノ、道理ニ因テ、夢ノ附着ナキコトハ、十全ニ解説スルヲ得
 ヘシ、余謂フニ、吾人、睡眠中、我カ思慮ニ就テ、意力ノ管束ヲ亡失スルハ、固
 ヨリ、眞然ナリト雖阿咸氏ノ思ヘル如ク、全ク、是ニ係ハルニ非ス、其實、
 吾人、此時ニ於テ、此ノ如キ附着ナキコトヲ、知ラサル耳、故ニ、我カ意力ノ
 亡失ニ、係ハラサルハ、勿論ニテ、意力ハ縱ヒ増スアリトモ、意識ノナキ缺
 亡ハ、之ヲ補ハシムルコト、能ハサルナリ、故ニ、是ニハ關セサル、由、全ク別
 ナル源由ニ關ス、而テ、其源由ハ、既云ヘル如ク、睡中ニハ、吾人、我カ周匝ノ
 物ト、ノ關係ヲ亡ナヒ、我時間ト空間トヲ亡フ、故ニ、其物ノ符合スルヤ、適
 當スルヤ、自在ニ獨立スルヤ、相附着スルヤ、之ヲ辨決スヘキ本則ヲ、有セ
 サルナリ

其實在ニ
似タルヲ
論ス

何ニテモ、實在ニ似タル者ハ、夢ヨリ甚シキ者ハ非ス、カノ地形風光ノ若
キ、動靜坐臥ノ若キ、不意ノ事變ノ如キ、總テ特ニ的然トシテ出現シ、我カ
前ノ空中ニ、像影ノ現ハシ、總テ唯主觀ノ物ニハ、似サルナリ、或人ハ、之ヲ
一事實ニ歸シテ、以謂ヘテク、是夢中ニ於テハ、我カ心ノ理會ヲ、攪撓シテ、
別ニ注意ヲ呼起スル者ナク、吾人專ラ此中ニ在ルヲ以テ、實在ノ如ク、見
ユルナリト、然レ、余ハ、醒時ニ在テ、我ノ注意、全ク一緒線ノ思慮中ニ、沈ミ
タル時ト、比例シテモ、此ノ如キ理會ノ表現シテ、言ハ、客觀上ノ實在ト
シテ、浮動スル質アルヲ見ス、其理會ハ、徒ニ理會ニシテ、唯一層活潑ナル
耳、是ヲ以テ余ハ、此夢中ノ實在ト見ユルコトヲ、他ノ源由ニ、歸セムト、欲
スルナリ、蓋シ、吾人ノ慣習ハ、總テ我カ意ノ、指揮管轄ノ至ラサル所ニテ、
我ト、我カ意トニ、拘ハラステ、往來スル者ハ、之ヲ視テ、客觀ノ物トス、是
睡中、腦漿發作ノ、第一理法タリト見ユ、故ニ、吾人、之ヲ管束シ、能ハサル所

時間ノ長
短ヲ論ス

ノ理會ハ、理會トセスシテ、知覺、即チ實在ナリト、信スルニ至リ、自然ニ、此
ノ如ク、欺カル、ナリ
或著述家ニ從ヘハ、實事上ノ時間ト、夢中伴象ノ時間トハ、全ク比例ス可
ラスシテ、是ヨリ隱微ナル者ハ、莫シト見ユト、是蓋シ、吾人ノ夢ハ、多ク、時
ノ比例ニ於テ、極メテ僅少ノ時間ニ、結成スレド、我ニ見ユル所ニテハ、陸
續トシテ、久シク時間ヲ經タリト、見ユルコトヲ、指セルナリ、其一例ハ、一
士官ノ說話ニ、佛朗西顛覆ノ時、獄中ニ幽ハレシ時、一朝、衛哨ノ交代ニ就
テ、番兵ノ叫呼ノ爲ニ、醒覺シタレド、再ヒ睡ニ就キケルニ、其夢中ニ、巴里
ノ一街上ヲ、騎馬ニテ、分列式ニ立テ、通行スル、帶銃シテ且勇猛ナル武
人ノ、極メテ長ク、又極メテ恐怖スヘキ行列ヲ見タリ、是其通行ノ間ニ、頗
ル時間ヲ歴タリ、其時、之カ爲ニ、駭愕シテ、再ヒ夢覺メタル時ニ、曩ニ夢ノ
始リシ前ニ、番兵ニ叫ビシ所ノ、問號ノ答ヘテ、明亮ニ聞ク比ホヒナリシ

吉凶形前
兆スル形
容アル形
論スル形

ト、或人ノ云ヘルニ、此ノ如キ時ハ、心ノ運行、他時ヨリモ、一層速カナリト、然レ、是明證ナキ事ナリ、余ハ士低瓦的氏ノ説ヲ、正シキ解釋ナリト思フ、其説以謂ヘラク、吾人ノ夢ハ、我ニ實事ナリト見ユ而テ、此伴象ノ事件ノ、接續ヨリ外ニ、時間ヲ評價スルノ術ナキ故ニ、夢中ニ經過スル腦中ノ理會ハ、其事件ノ實事タル時ニ、經過スルト同シク、正シク其タケノ時間ヲ、經ダリト見コルナリト、是極メテ、自然在ルヘキノ効驗ニシテ、此説以テ、問題ナル伴象ノ例外タルコトヲ、解釋セテ、餘蘊ナシトス、
夢ハ、時トシテ前兆ヲナスコトアリヤ、而テ、是如何カ、之ヲ解釋スルヲ得ヘキカ、西塞魯ハ、夢ノ前兆ト謂フヘキ一奇例ヲ、記セリト、余謂フ、是カノ二亞爾加的亞人ノ事ヲ指スナリ、昔此二人、墨峨羅ニ來リ、各別ニ、僑居シケルニ、其一人夢中ニ他一人ニ來レルコト、二度ニ及ヒ、初度ハ、救援ヲ求メダレト、後ヨバ、既ニ殺死セラレタルヲ以テ、明朝夙ニ、此都府ヨリ出テ、

同質ノ他
ノ一事例
ヲ舉ク

或門ヲ通行スル、被蔽セル車中ヨリ、其屍ヲ取ラムコトヲ、其友ニ報シタリキ、其人、此夢ニ驚キ、期ノ如クシテ、其處ニ到リケレハ、果シテ車アリケルヲ以テ、竟ニ、其屍ヲ檢出シ、其兇犯ヲ捕ヘテ、之ヲ、官ニ付シタリト、
他ノ一事例モ、恐ラクハ、亦均シク、驚クヘキ事ニテ、倫頓期刊紙ニ記セリ、
哥倫瓦拉ニ住メル、維廉氏ト云ヘル人、一夜、英國ノ内閣尙書、平民房ノ廊下ニテ、殺サレタル夢ヲ、三度マテ、見ケルヲ以テ、深ク之カ爲ニ驚キテ、其知人ニ、之ヲ、説話セルコト、他人ニ及ヒケルカ、後其日夕ニ及ヒテ、内閣尙書、ノ波期瓦拉氏、夢ノ如ク、暗殺セラレタルコトノ、確報ヲ得タリト、然ラハ則チ、是果シテ、實ニ、湊合ノ一奇事ダリヤ、是別ノ事理アルニ非ス、唯偶然ニ屬シ、其事ノ如ク、夢ニ現ハレ、其事實ト、此ノ如ク、密ニ相符スルハ、唯偶然ルカ、然ルニ、是固ヨリ、此一事例ニ、限ルニ非ス、此ノ如キ事、記傳ニ多シ

學士予兒ノ記セル事例

學士予兒ハ必體相關運用ト云フ切要ナル書ノ著述者ナリ、其中ニ自己ニ觀察シタル事ナリトシテ、次ノ事ヲ載セタリ予氏ノ一友曾テ郊外ノ塋地ニ於テ墓誌ヲ讀ムコトヲ好メリ、一夜夢ミラシ、其慣習ノ如ク、塋地ニ到レハ、忽チ新墓アリテ、目ニ觸レ、意チ惹ケリ、就テ之ヲ見レハ、其親友ノ墓ニシテ、死没ノ月日姓名ヲ表レテ、的然クレハ、其友ハ、即チ其日ノ暮夜ニ、共ニ會話シテ、歡チ盡セシ人ナリ、是ヲ以テ、極メテ驚愕セタレハ、唯其夢ナルヲ以テ、再ヒ之ヲ思ハス、曾テ之ヲ追懷スルコト無リシカ、數月ノ後、其友ノ計告ヲ得タリ、其死没ハ、夢中ニ墓誌ヲ讀ミシ其日ナリケリ

學士亞比爾加論正ノ、說話ナル事例ハ、又此湊合ノ一奇事ナリ、姉妹二人アリテ、其同胞ノ弟ノ病牀ニアルカ、爲ニ同シク其隣房ニ臥セシニ、其姉夢ニ、時辰鏢ノ遏止シタル故ニ、之ヲ妹ニ告ケタレハ、妹答ヘテ曰ヘラシ

亞比爾加論正ノ說話ナル事

増加ノ事

是殊ニ好カラズ、何トナレハ、獨リ是ノミナラス、弟ノ息モ、遏止セリト、其姉愕然トシテ、覺ムレハ、即チ夢ナリ、依テ時辰鏢ヲ取テ、之ヲ檢スルニ、旋回異ナシ、又其弟ヲ視レハ、睡正ニ酣ナリ、然ルニ、次日ノ夜、復夢ルコト、一ニ前夜ノ如クニシテ、別ニ異ナシ、翌朝ニ至リ、其姉將ニ書机ニ就テ、時辰鏢ヲ把ラムトシ、其針ノ遏止スルヲ見、喫驚スルニ方リ、同時ニ、其妹、病人ノ房ニ在テ、喊叫スルヲ聞キ、愕然タリ、而テ病者ハ正ニ此時ヲ以テ、最後ノ息ヲ絶チケリト

同質ノ一例ヲ、說話セル者アリ、然レ、余其說ノ由ル所、如何ナル信スヘキ人ニ、出ルカ、之ヲ知ラス、其說ニ云ヘラシ、老校安德列ノ女弟、一夜、其遠征セル兄、捕縛セラレ、軍法裁判所ノ訟庭ニ引カレタリト夢ミ、其諸士官ノ容貌、并ニ服章等、明亮ニ心中ニ印象シ、其庭中、囚人ト、裁判官トノ位置マテ、的確ニシテ、且總テ審理ノ事情、其裁判、并ニ其兄ノ處刑ヲサヘ、夢ミ

ケレハ、深ク痛心シテ、爲ニ驚キ醒メテケリ、後、深ク之ヲ掛意シケルカ、果シテ、其捕縛、審判、羈刑ノ報知アリテ、其悲哀ヲ、確定シタリ、其奇トスヘキハ、其夢ト、符合シタル事實ニテ、其事ノ起リシ時、其地、其訟庭、其位置、裁判官ノ服章等ニテ、中ニモ、此女子、曾テ見サリシ人ナレド、華盛頓、那吉士二氏ニ於テハ、殊ニ其形容ヲ徵シテ、之ヲ語レリト云フ

又他ノ一事例ハ、之ヲ説話セル人、嘗テ、或ル島ノ近邊ニテ、難船アリタルヲ、夢ミタリ、然ルニ、其船ニハ、其同胞船長トナリテ、傍ラ貨物ノ主ナリケルニ、船ハ、覆没シタレド、人ハ、皆助カリタリト、見テケルニ、深ク之ヲ憂ヒ、直チニ、保險會社ニ到リ、其同胞ノ貨物ヲケニ就テ、別ニ、五千弗ノ保險料ヲ、償ヒタリ、然ルニ、次ノ郵便ニテ、新報ヲ得ケルニ、其船ハ、果シテ、其人ノ夢ミタル時ト處トニ符合シテ、破船ニ及ヒタレド、水夫ハ、皆安全ヲ得タリト

其湊合ナルカヲ論ス

然ラハ、則チ、總テ此等ノ事ヲ、湊合相符スルナリト云フハ、誠ニ容易ニシテ、是皆、其湊合タルコト、確然タリト、謂フヲ得ヘシ、然レ、其唯湊合タルハ、確然タルコトニ非ズ、蓋然ニ屬スト謂フヘシ、之ヲ湊合ナリト稱シ、湊合ト見レハ、依テ以テ、其理由ヲ、解釋スルコト、容易ニシテ、遺漏ナシトシテ、之ヲ經過スルハ、是唯、哲人ノ扮粧ヲナシテ、人間ノ無知ヲ、掩蔽スル淺慮ノミ、是附會タルニ、過キヌシテ、其附會タルモ、亦其隱微ヲ、究ムルコト、能ハサルハ、絶テ前時ニ、異ナルナリシテ、一モ依テ以テ、説明スルコトナキ、附會ナリト、謂フヘシ、余カ見ル所ニテハ、其附會タル、爲シ得ヘキ、附會中ニテ、最モ蓋然ナル附會ニ、非ズシテ、其中ニテモ、尤モ蓋然ニ、近カラサル附會ナリ、上ニ舉ケタル諸例ハ、前ニ定メタル、吾人ノ夢ヲ生ジ、之カ情狀ヲ、粧添スルノ、理法、即チ約束ノ中ニテ、孰レニ當ルヘキヤナ、見ルヘシ、今此等ノ夢ハ、其言ノ如クナレハ、夢ミル者ニ在テ、現在其體ノ感覺ヨリ、提

之ヲ必ス、
理外ナリ
ト定ム可
ラサルナ
論ス

起セラレタル者ニ非ス、又夢ニシ者、其醒時ニ當リ、何故ニ此等ノ事件ヲ
思ヒ、其事件ノ接續ヲ、思慮ス、キカ、此事例ノ性質ニテハ、此ノ如キコト
ヲ、思フ道理ナキ故ニ、是亦、唯醒時ノ思慮ヲ、再現シタルニ非ス、勿論、先兆
ト云ヘル夢ハ、此道理ニ依テ、解釋スヘキ者、尤モ多キコト疑ヒナク、多分
ハ、吾人現在ノ、感覺衝動ニ由リ、或ハ、晝日、其心或ハ、感興シ、或ハ、掛慮スル
所アリテ、思慮ノ緒餘ヨリ、發スル者ナリ、然レ、上ニ援キタル事例ハ、此類
ニ非ルナリ

然ラハ、則チ、吾人、夢ハ、時トシテ、先兆タルヲ、信スヘキカ、既ニ、其此ノ如ナ
ルヘキヲ、疑フノ道理ナケレハ、是此等ノ時ニ當リテハ、理外ノ事件ナラ
サルヲ、得ムヤト、蓋シ、將來ノ事、理外ニ於テ、夢中ニ、通知ヲ得ルハ、疑ヒナ
シ、カ、聖書ヲ、信スル者ハ、皆之ヲ、信セサルヲ、得、サルカ、如ク、此事ノ有シ
コト、且、僅々、ナラサルコト、疑ヒナシ、然レ、是必ストスヘキ、假定ニ非ス

之ヲ必ス、
理外ナリ
ト定ム可
ラサルナ
論ス

テ、夢ハ、前兆タリトモ、理外タラサルコトアルヘシ、蓋シ、吾人ノ知ラサル
一ノ理法、存スルヲ、依テ、以テ、神經甚シク、振起セラレタル時、平常受
ケサル、衝動ヲ、感スルニ至リ、吾人ニ、隱微ナル、一道アリテ、此ノ如ク、遊
遠ナレバ、其他形、其場處、其事件ヲ、通知スルニ至リ、以テ、將來ノ事ヲ、認識
スルノ、奇異ヲ、致スナリ、今、誰ニ、テモ、能、其然ラサルヲ、證シ得ル者アリ
ヤ、之ヲ、證スルハ、カ、上ノ諸事例ヲ、以テ、唯、偶然ノ、湊合トスルヨリモ、一
層、蓋然ナラサルニ、近カラスヤ、今、若、生スル所ノ事件、其事例ノ多キコト、
彼カ、如ク、其、療法ノ、驚クヘキコト、彼カ、如ク、コシテ、前時ノ夢ト、相合スト
雖、其、通合スル、源由ノ、如何タルハ、固ヨリ、之ヲ、知ル可ラストセハ、然ラ
ハ、果シテ、蓋然ナリトスルニモ、足ラサルカ、之ヲ、以テ、將來ヲ、啓示スル爲
ニ、神力ノ、直チニ、煤价スルナリト、思フモ、亦、同シク、道理ナキトスルカ、神
力ノ、煤价アルヘキコト、余カ、敢テ、否、肯ンセル所ニ、テ、唯、其然ル所

以テ、知ラサルノミ、故ニ、此ノ如キ事コ於テハ、或ハ、一ノ理法アリ或ハ、爰
 ニ暗指セル如キ、一種ノカアリテ、未ダ其理ヲ、講解ス可ラスト雖モ、一部
 分ニハ、身體ノ情狀ニ屬シ、其特ニ感發シ易キ時ニ於テシテ、其運用ノ法
 ハ、未ダ曉解ス可ラスト雖モ、其存在ハ、上ニ援キタル如キ事例ニテ、徴ス
 ルニ足ル者ニ非ル、莫キヲ得ムヤ、然レ、余敢テ、之ヲ以テ、眞ノ解釋ナリト、
 肯定スルコト能ハス、唯余カ見ル所ニ從テ、或ハ以テ、此問題ヲ解スルニ、
 足ルヘキ者ヲ、提起シテ、指示スルニ、過キサル耳、
 然レハ、此事實ノ理由トスヘキハ、唯四ツノ解法トナスヘキ者、アルコト
 較著ナリ、**(第一)**此ノ如キ事實アルヲ拒ムコト、即チ此ノ如キ夢ハ、絶テ無
 シト云ヒ、或ハ、縱ヒアルモ、現實ノ効驗アリテ、之ト合通スルコト無シト、
 謂フナリ、**(第二)**之ヲ呼テ、湊合相符セリト、スルナリ、**(第三)**理外ノカアリト、
 スルナリ、**(第四)**之ヲ體テ、感覺ヨリ、提起スル者ト、スルナリ、余カ見ル所ニ

此事實ノ理由トナ
 スニ供ス
 ル諸法ヲ
 論ス

テハ、此假想ノ中ニテ、第二ト最後トノ、中間ヲ擇フヘシ

第三章 睡遊

睡遊ノ磁
 染ノ狀ニ
 關係スル
 ナ論ス
 是他ノ同
 質ノ現象
 ニ似タル
 ナ論ス
 之ヲ爲ニ
 定メタル
 方法ヲ論
 ス

原名、ソムナムプリスム、即チ睡遊ハ、或著述家ハ、之ヲ自然ノ磁染睡眠ト
 名ケ、カノ尋常神遊ノ狀ト、名クル者トハ、異ニシテ、首トシテ、睡遊ハ、自然
 ニ屬シ、神遊ハ、人工ノ運用ニ屬スト、定メタリ
 余尙、此後ニ於テ、言次、夢モ、睡遊モ、神遊モ、癡狂モ、皆密ニ相似タルヲ、表章
 スルニ至ルヘシ、蓋シ、此諸狀ハ、各皆同一ノ一大理法ニテ、其品性ヲ成シ、
 殆ト知覺ニモ、供セサル漸度ニ於テ、交、相通シテ、實ニ相共ニ、親密ナル關
 係ヲ、有スル者ナリ
 是カ爲ニ、第一ニ、睡遊ノ現象ヲ叙述シ、次ニ、此諸狀ノ同一理ニテ、解釋ス
 ヘキヤヲ、講究スヘシ
 睡遊ノ首タル現象ハ、次ノ如シ、其本人ハ、熟睡ノ狀ニテ、己カ爲ス所ニ就

睡遊ノ叙

テ、全ク意識ヲ有セズシテ、忽然トシテ起キ、周旋行歩シ、其道スル所ハ、危キ處ヲモ避ケズ、時トシテハ、到ル可ラサル處ヘモ到リ、談話ヲナシ、醒時ノ如ク、事ヲ作シ、暗中ニテ兩眼ヲ閉テ、或ハ、兩目ヲ縛蔽スレド、猶能醒時ニ在テハ、慎密ニ注意シ、視力ヲ勞スヘキ運用ヲモ、成シ得、其尋常醒時ニ於テハ、實ニ視エサル物ヲモ、知覺シ、恐ラクハ、其處ニ在ラサル物、若クハ將來ノ事ヲモ、知覺スヘシ、而テ此狀ヨリ醒覺シタル時ハ、全ク何事ノ有リヤヲ知ズ、自ラ其奇怪ニシテ、不正ナル位置ニ在ルヲ、驚愕スルナリ、波多ノ總領牧師培養學校ノ書生タリシ時、其實験ニ出シ事例ナリトテ、佛蘭西ノ百學韻府中ニ、説話ヲ載ス、一牧教師アリ、歲猶少カクシテ、睡遊ノ名アル者、爰ニ住ミケレハ、總領此奇病ノ性質ヲ、究メムト欲シ、毎夜、其少年ノ睡後、時トシテ、其室ニ到リケルニ、其少年、乍テ起テ、紙ト、筆墨トヲ取テ、教訓講義ノ著作ニ從事シ、一片葉ヲ書寫スル、極メテ明亮讀ムヘ

説話ニ傳
ヘタル事
例

同質ノ他
ノ事例

シ、而テ、片葉ヲ書寫シ了レバ、朗々之ヲ讀ミ、上行ヨリ、下行ニ至ル、其聲調、爽然ニシテ、抑揚亦、平日ニ異ナルナシ、若草句ノ意ニ適セサル者アリハ、之ヲ削リ、其改正ヲ書シ、削リタル行、若クハ、語ノ正ニ於テスルコト、其位置ヲ失フコトナシ、總テ、此等ノ事ヲ爲スニ、兩眼ノ助ケテ、假ルコトナク、兩眼皆閉ナテ、睡眠中ナルコト、著明ナリ、此時、一厚紙ヲ取リ、其目ト紙トノ中間ニ、間隔スルモ、妨ケナク、又其不便ヲ覺ユルコトナシ、其書紙ニ換フルニ、他ノ同寸法ノ紙ヲ、以テスルニ、亦其變換ヲ覺ユルコトナシ、唯寸法ノ異ナル紙ヲ、以テスレバ、其人、即チ其異ナルヲ、睇破セリト云フ、是觸覺感動ノ覺性ハ、猶作用ニ供シテ、之ヲ以テ、先導ノ器トスルヲ見ルヘシ、同標ノ事例ハ、其數、殆ト限リナク、傳説ニ存シ、中ニモ、同一現象ヲ觀ルコト多シ、或事例ニテハ、其本人、一片紙ニ、全文ヲ書記シ、之ヲ復閱シテ、細心ニ句ヲ切リ、讀チ點シ、地名人名ニ、線畫ヲ施スヲ見、且此現象ヲ、現

夜中ニ限リタルコトコト非ス、人アリ、教院ニ在テ、神事ニ服シツ、磁染ノ
狀ニ入り、竟コ、兩眼ヲ閉チテ、其家ニ歸レル者アリ、而テ途中、車馬ノ往來、
人行ノ繁キニ、細心ニ之ヲ避ケ、數里ノ遠キ處モ、此狀コトテ其使用ヲ辨シ、
往來平安コシテ、歸リ來ル者アリト云フ

一珍奇ノ事例、一貴人ノ說話ニ傳ヘタリ、其人、其雞ヲ飼ヘル茅障、夜々騒
喧コシテ、之ヲ搶奪スル者アルヲ知リ、殆ト期スル所ヲ、全ク失ハムトス
ルニ至ソリ、然ルニ、怪ムヘキハ、家ニ大狗アリテ、能夜ヲ守レ、絶テ之カ
爲コ、騷擾スルコトナキナリ、因テ此事ノ眞狀ヲ、的知セムト欲シ、其家僕
ヲシテ、一夜、之ヲ守ラシメタリケレハ、其夜果シテ、盜アリテ來リケルニ
シ、拒捕ノ争ヒノ後、竟コ拿捕ニ就キタルコ、能ク々視レハ、即チ其貴人自己
此過惡ノ主コトテ、熟睡コトテ、爲セル事ナリキ

一奇例

又他一事例ノ說話アリテ、全ク奇異ナル一狀ヲ、現ハセリ、余想フニ、佛蘭

西ノ事ナルヘシ、小女學校アリテ、畫技ノ競功ノ爲ニ、褒銀ヲ注セリ、然ル
ニ、其爭競者ノ中ニ、一少女子ノ、遲鈍ナルアリケルカ、自ラモ、其技ノ劣レ
ルヲ、知りケレ、深ク其幸ヲ得ムコトニ、熱心セリ、然ルニ、一時ハ、其技ノ
進マサルヲ以テ、深ク恨ミトナシタレ、其朝毎ニ、筆ヲ取ルニ臨ミ、漸次
ニ、覺ユルコトアリテ、前日其畫ヲ描キシ後ニ、何物カ、之ニ加功シテ、増減
スル所アリト知レリ、此ノ如キコト、既ニ日ヲ歴クレハ、自ラ其奇異ナル
ニ、驚キケリ、然ルニ、其加功セル手ハ、極メテ勝レタル手コトテ、其自己ニ比
スレハ、巧ミナルコトモ、筆勢モ、遙上ニ出タリ、依テ之ヲ、其同塾ノ女伴ニ
正スコ、各、皆、其事ヲ知ラズト拒ミ、此ノ如キコト、數次ニ及ヘリ、其女子乃
チ、其室ノ戸後ニ、其畫具諸器ヲ置キ、以テ室ニ入ル者アレハ、必ス醒覺ス
ヘシト、此ノ如ク、設チナシテ、少シモ、其諸器ハ、動カシタル跡無レ、其秘
密ナル加倍ハ、猶前ノ如ク續キタリ、最後ニ、其女伴、意ヲ決シテ、室外ニ在

テ、監守ハ一人モ、夜中ニ其室ニ入ラズサリケレド、其加功ハ猶已マサ
 リケリ、後其女伴、愈々疑ヒテ、竟ニ其女子ノ動作ヲ、視究メタリケレド、是
 於テ、始メテ、其秘密ヲ、解釋シ得タリシト、其女伴ハ其女子熟睡ノ狀ニテ、
 全ク起坐シ、衣裳ヲ着ケ、机卓ニ對シテ、坐チ占メ、其業ニ從事セルヲ見タ
 リ、故ニ、是其自己ノ手ナリケレド、自己ヨリハ、全ク意識ナクシテ、其業ニ服
 事シ、シカモ、其畫法ノ妙、醒時ニ在テハ、曾テ近ツクコトヲ得サリシ所ニ
 テ、遂ニ其時ノ爭競者中ノ、秀逸タリシト、而テ、其畫ハ、其女子、自ラ自己ノ
 手ニ非ズト、拒ミタレド、後、獲銀ヲ得タリト云ヘリ、
 今、此女子、晝日ニ於テ、兩眼ヲ開キ、且他ノ官能、其意ヲモ、ホ分ニ管束使用
 シテ、畫キタル所ニ比ズレハ、睡中ニテ、其兩眼ハ、蓋然堅ク閉合シテ、暗中
 室裏ニ在リ、其筆ヲ使用スルコトニ、更ニ勝レタルハ、是何ノ故ソヤ
 此事ヲ就テ、其理由ヲ解釋スル者ハ、實ニ難シク、事ニ涉リ、總テ醒遊者

其疑問

其理由

解スヘキ
諸種ノ事
ヲ論ス

第一ニ其
運動ニ就
テ論ス

ノ、陽ハニ、熟睡ノ狀ニテ、起立徘徊スルハ、何ソ故ソヤ、其女子ノ描キタル
 所ハ、頗ル靈智ノ高度ヲ要スル所ナルニ、却テ意識アルナシト見ユルハ、
 何ノ故ソヤ、其人醒時ニ在テハ、大危害ヲ犯サスシテハ、瞬間モ立チ得サ
 ル處ニ、危懼スルナリ、安全ニ行歩シ得ルハ、尤尋常ナル所ナレド、是何ノ
 故ソヤ、其女子、目ヲ用サスシテ見得、又真ノ暗黒裏ニテ、至密ナル注意ト
 至精ナル視力トヲ、要スル事業ヲナシ、且又、唯之ヲナシ得ル耳ニ非ズ、其
 巧、同一ノ人、醒時ニ在テ、諸事皆便利ナル時ニ於テ、ナシ得ル所ヨリモ、遙
 カニ、之ニ勝レタルハ、何ノ故ソヤ
 第一ノ事、即チ、睡中ノ運動行歩ニ就テハ、其理由ヲ解スルノ法、二種アリ
 吾人之ヲ假定シテ、全ク自動力ナリト、ナスヲ得、是或有名ナル生理家ノ
 見解ナリ、其言ニ云ハク、意識アル靈魂ハ、絶テ此事ヲナスナリ、絶テ運動
 ナ知ラサルナリト、蓋シ云フ、意ハ、唯筋維ノ收縮ト、骨節ノ切斷ヲ、受ケタ

此見解ヲ駁ス

ル時、怒張ルノ外、絶テ運動ノ事ニ關スルナシト
既ニ上ニ暗指シタル道理ニ因テ、吾輩ハ、自動力ノ考定ヲ、取ルコト能ハ
ス、是凡テ、眞ノ心理學ヲ、傾覆スル説ナリト見ユ、形體ハ、神經ノ機關ノ、發
作スル精力ニ從ヒ自ラ運動スト雖也、其機關ハ、再ヒ、唯心ヨリ、起シタル
發作ニ從ヒテ、發作スル者コト、心ハ、此機關ヲ活動シ、通徹シ、且管束スル
者ナリ、故ニ醒時ハ、心裏ノ發用アリテ、而テ後ニ、神經ノ發動而テ後ニ筋
維ノ發動アリ、是皆意ノ、管束ヲ受ク、唯睡中コトハ、此管束、一時停歇シテ、思
慮往來シテ、其變幻ニ任セ、伴生ノ理法ナラテハ、曾テ他ノ法理ニ、屬スル
コトナシ、然レ、心ハ、猶發作シテ止マズ、思慮ハ、其無意ノ運動ヲナシテ、亦
自ラ多事ナルナリ、此運動ヲナスハ、即チ、腦髓神經ノ司ル所タルヤ、明カ
ナリ、而テ、今、腦ハ、自ラ思慮シ、神經ト筋維トハ發作シ、四肢百體、依テ以テ、
自然ニ運動シテ、曾テ心ノ精力ヨリ、發動スルコト非スト云フハ、誠ニ淡白

他ノ考定ヲ論ス

無味ノ假定ニシテ、凡テ、此心ノ世ニ知ル事實ト、カノ事例ノ、明白ナル證
據トハ、兩立ス可ラスシテ、且凡テ、心體相關スル正シキ考ヘトハ、相敵視
スル者ナリ
又他ノ一、一層理アルコト似タル假定ハ、以謂ヘラシ、此意ト云フ者、本來ハ、
睡中ニ、心ト體トニ就テ、管束ヲ失フ者ナレ也、睡遊ノ狀ニ於テハ、一ノ方
法アリテ、稍少シク、其勢力ヲ復シ、心體ヲ管束シ、以テ其身體ヲシテ、其時、
心ニ旺盛シタル思慮ト感動トニ、一致シテ、起立徘徊スルニ至ルナリト、
故ニ、此時ハ、意アリテ、思慮ト提起トチ、管束スルコトナク、是皆、無意、無志、
偶然ニシテ、只本來ノ伴生ノ理法ニ、屬シタル耳、然レ、此時、其提起ト衝動
トノ活潑有力ナルコト、一層倍シタルコト由ルカ、若クハ、感覺スル機關ノ
離開シテ、其一部分ノニ、醒覺ノ狀タルコト由ルカ、孰レニシテモ、意ハ、此心
ノ提起ヲ受ケタル狀ト、一致シテ、發作シテ、ソレヲ、身體ノ機關ヲ、管束

講究ノ第二點

スルノ勢力ヲ復取シテ以テ運動ヲ發スルニ至ルナリ、是ヲ以テ此時ハ其夢、只受動ニシテ體ノ起立シ、手ノ筆ヲ把リ、當然ノ運動ヲナシ、作用ヲナスコト、皆其夢中ノ心ノ理會ト、相通シテ、事ニ服シ了リテ、恰合ナルニ至ルナリ

此答辭ハカノ睡遊者、何ヲ以テ、陽ハニ、意識ナシト雖也、靈智ヲ要スル作用ヲ成シ得ルカト、云フ第二ノ疑問ニ對フルニ足レリトス

此時ニ當リ、意識アルコト、疑ヒナシ、是必ス無キヲ得ス此瞬間ノ思慮ト感動トハ其瞬間ニハ我ニ知ラレ、ナリ、今思慮ト感動トニ意識ヲ有セスト言フハ、思慮セズ、感動セスト、言フコトナリ、今其舉動ヲ成ス、彼カ如クシテ、後ニ之ヲ記セスト雖也、是其事ノ起リシ時、意識ナシト云フ明證ニハ非ス、唯記性ノ存セサルコト、意識ノ存セサルニハ、非ルナリ

何カ故ニ睡遊ハ、之ヲ後ニ記スルコトナキヤ、是或ハ解釋スルヲ得可ク

記性ナキ

ヲ論ス

第三ノ疑問

或ハ解釋スルヲ得ヘカラス、是五官、其一部分ハ、發動ナキニ由テ、其周圍ノ物體ト、我カ身ト、現實ノ關係ヲ、知覺スルコトナキハ、蓋然ノ理ナラスト、謂フ可ラス、然也、此道理ヲ以テ、此時ノ間、此心ハ、自己ノ發動ニ就テ、意識ヲ有セサルコトヲ、憑證ス可ラス、是固ヨリ、有ル可ラサルノ事ニ屬ス

第三ノ問題ナル、睡遊者ハ、何故ニ、人ノ醒時ニ在テハ、到リ能ハサル處ニ、到リ得ルカ、譬ヘハ、懸崖ノ端ニ沿ヒ、家ノ屋上ニ乗ルカ若キハ、何ソヤト云フコト至テハ、其解釋、單素ニシテ容易ナリトス、兩眼ハ閉ナタルヲ以テ、觸覺ヲ無二ノ嚮導トス、故ニ其脚ハ、唯其蹠ヲ支フル爲ニ、數寸ノ地ヲ要ス、之ヲ得レハ、其他ニ要スル所ナキハ、他ニ何事ノアルモ、總テ知サレハナリ、吾人ヲシテ、他時跣歩ノ後、危害アルヲ知ラシムル者ハ、目ニテ、是實ニ却テ、現在ノ危害ヲ、生スルナリ、今汝、地上ヨリ、一尺許離レタル板上ナラハ、僅カニ、二寸ノ幅ナリ也、走過シテ、安全ナルヘシ、故ニ若汝ヲシテ、

高卑ノ差ヲ知ラザラシメハ、地上ヨリ百尺ノ距離ナルモ、同シク二寸ノ板面ヲ走過シ得ルシムルニ、筋維ノ努力ハ、同一ナルヘシ、カノ睡遊者ハ、其眼ヲ閉テ、專ラ觸覺ノ性ニ、寄信スルカ故ニ、曾テ其危害タルヲ知ラサルナリ

然ルニ、猶至難ノ問題アリ、是睡遊者ハ、暗黒裏ニ在テ、書ヲ讀ミ、文ヲ綴リ、書ヲ描キ、走過スル等、他人ノ爲スヨリモ、一層能之ヲナシ、又自身他時、目ヲ開キテ、爲スヨリモ、一層能之ヲ爲スハ、何故ソヤト云フニ在リ、何カ故ニ、睡遊者ハ、見ルコト無クシテ、此等ノ事ヲ爲シ得ルヤ、又如何シテ、暗中ニ在リ、視神ノ官具ヲ、閉塞シテ、之ヲ見得ルヤ、此事實ハ、著明ナルコトナレド、容易ニ、解釋ス可ラサルナリ、其形體ハ、何カ故ニ、能運動シ、且頗安全ナリヤ、又腦ノ發作ハ、何カ故ニ、睡中ニテモ、運行シ、縦ヒ、後來之ヲ、記取ヒサルモ、發作ハ、存セリヤ、是余能之ヲ、解釋シ得タル所ナリト雖モ、其書ヲ

猶答辭ヲ要スル問題

讀ミ、書ヲ描キ、暗室中ヲ、前行スルモ、周匝諸物ト、相抵衝スルコトナク、迅速ニ走過スルニ至テハ、是至密ナル視力ヲ、要スルノ運用ニシテ、本來視神ノ官具ヲ、用井スシテ、能視得ルコトハ、何ニ由テ然ル、是余カ、明カナラサル所ナリ、今睡遊ヲ指シテ、自動力ナリトスルモ、此言以テ、此問題ヲ、解スルキニ非ズ、唯人ノ視ルコトハ、自動力ナリト謂フヲ得ヘキモ、目ナリトシテ、視ルハ、自動力ナリト謂フ可ラス、其考定コトハ、一處ヨリ、一處ニ至ル運動ハ、自動力トス、是其人、睡中ノ行歩ヲ謂フ、然モ、足ニ非ル器動ハ、自動力ナリト謂フ可ラス、又睡中ニ於テハ、靈魂ノ生活、形體ノ生活中ニ、混在スト云フト雖モ、是此難問ヲ、解釋スル所ニ非ス、此言誠ニ然ルモ、形體ノ、目無ウシテ、視目ノ、光無ウシテ、視ルハ、如何無雙ノ考定ニテ、且稱スヘキ解法ヲ、供シタリト、見ユルハ、或、日耳曼ノ性理家、又本邦ニテハ、老智ノ發明セル所ニテ、一般覺性ノ考定是ナリ、其言

一般覺性ノ考定

ニ云ク、凡テ各種ノ感性ハ、其源ニ溯レハ、唯一概通ノ覺性ニ約スヘシ、即チ感觸ノ覺性是ナリト、其比喩トシテ、指ス所ハ、蟹ノ耳ノ若キ、蠅及ヒ、蝸牛ノ目ノ若キ、蠅ノ嗅ニ於ケルカ若キ、此ノ如キ種類ニハ、各自ニ、視、聽、嗅ノ官具アルコトナク、唯感覺ニ供スル概通ノ神經、布衍シ、或ハ、神經ヨリ、少シク纖維線支出シ、常皮ヨリ稍薄ク、一層細微ナル膜ト、相連接スル耳、是ニテ、吾人平常、物ヲ知覺スルノ道ハ、無二不易ノ道タルコト、非ルヲ知ルヘシ、視聽等ノ各種ノ官具ハ、總テ知覺スル爲ニ、必要タルニ非ス、况ヤ、感覺ニ於テ、テ、カノ蝙蝠ノ若キハ、其自チ、全ク除キタル後ニモ、以前ノ如ク飛翔シ、正シク以前ノ如ク障礙ヲ避ケ、サル莫キハ、試驗ニテ、發見スル所ナリ、此ノ如キ事例ニテハ、知覺ト云フハ、唯觸感ノ亢極シタル者ニテ、特別ノ覺性、屢、混合シテ、概通ノ覺性ヲ表シタルナリト、而テ又、睡遊者ニ於テモ、此事例ニ、外ナラズト云ヘリ

此考定ヲ論ス

上ニ舉ケタル概說中ニハ、眞理ノ存スルコト疑ナシ、然レ、余未ダ、カノ事例ニテ、解釋ヲ要スル者ハ、悉ク是ヲ以テ、其理由トナスヘキヤ、否ヤヲ、知ラス、蓋シ、此理ニテ、視神ノ官具ナシト雖モ、一定ノ物體ヲ、曖昧混沌ト、知覺スルハ、此概通ノ覺性ヨリ、供シ得ヘキコトヲ、解釋スルニ、足レリトス、然レ、醒時、目ニテ視ルヨリモ、一層明亮ニ、視得テ、一層精密ニ、運用シ得ルハ、解スヘキニ非ス、是余カ未ダ、曉解セサル所ナリ、或人ハ、假定シテ以謂テク、是或ハ、最内ノ一意識ニシテ、形體ノ機官ト、相待タスシテ、隱微ナル靈魂ノ生活存シ、依テ以テ、形體ト、靈魂ト、平素ノ關係毀廢停止スル時、之ヲ時トシテ、發出表現スルコト、非ルヲ得ムヤト、是吾人、上説ト相反シテ、知ル所タリ、然レ、隱微ヲ解クニ、一層大ナル、他ノ隱微ヲ、以テスル者ナリ、余謂フ、吾輩、如何ナル考定ヲ、取ルモ、若クハ、總テ取ルコトナキモ、此諸事例ノ事實ヲ、觀ル時、ハ、從ハサルヲ、得サル者アリテ存ス、神經ノ諸機、一定

如何ナル說ニ從フヘキヤヲ

ノ混亂ヲ受ケテ甚シキ激動ノ狀ニ至リタル時即チ疾病コテ衰弱シ尋
 常ノ事ニテモ平日ヨリハ一層強ク神經ヲ覺動スル時ハ尋常ニテハ耳
 目ニ知覺ス可ラサル物ヲモ知覺スルヲ得或ハ時トシテ知覺スルニ至
 リ加旃感性ニテ耳目ノ用ヲ兼チ且他ノ官具ノ用ヲモ兼ルナリ是前
 述ヘタル如ク睡遊即チ自然磁染ノ睡中ニ發スル者コシテ吾人又神遊
 ノ狀ト或頗狂ノ種類トニ於テハ或ハ奇異ナル形狀ノ發スルヲ見ルコ
 トアリ

其心裏ノ
 運用著明
 ナルヲ論
 ス

唯此現象ニ就テ專ラ心ノ運用ノミヲ論スレハ睡遊ノ心狀モ容易ニ解
 說ス可ラサル者コハ非ス睡遊ニ於テモ又睡眠夢神遊又頗狂サヘモ總
 テ是ト密ニ連絡セラル諸狀ニ於テモ意ハ思慮ノ連絡ヲ管束スルノ勢
 カチ亡ス故ニ其時方ニ旺スル所ノ思慮感動ニテ其作用ヲ起シ全ク其
 作用ノ樣法ヲ定メテ此狀ニテ之ヲ成シ得ルナリ此旺スル思慮感動ハ

睡遊ノ事例ニテハ恐ラクハ多分前時源由ノ効驗ニテ前時ノ心意ヨリ
 其發作ノ續ク者ナルヘシ而テ意ノ勢力停歇シテ五官閉塞シタル時モ
 其神經ノ流通性質固有ノ發作ノ類ニテ同一ノ管溝ニ注シコト前時ノ
 如キナリ其靈魂ニ至テハ蓋シ其瞬間ニ方テ此ノ如キ錯用ニ就テ意識
 ナ有スヘシト雖モ後來之ヲ追思スル時ハ既ニ消滅スルナリ

第四章 錯亂セル心意ノ作用

睡遊夢等ト密ニ親接シテ錯亂セル心意ノ一定形アリ是尋常癡狂ト名
 ヲ是亦總テ睡遊ト相通シテ一元行ニ出テ思慮ノ連絡ニ就テ意ノ管束
 全ク停歇失亡スル者ナリ總テ此諸種ノ心狀ニ於ケル現象ニハ意ノ亡
 失ヲ以テ品性ノ形容本體ノ基礎トナサハルヲ得ス

錯亂セル心ノ發作ハ其形狀諸種アリテ稍彙類ニ供ス一ハ一時ノ經過
 一ハ久時ヲ經皆靈智感性ノ一定ノ錯亂ヨリ生ス

他ノ心上
 現象トノ
 關係

其彙類

(第一) 時、經過
ヲ論ス

人為ノ發
狂

此中ニテ或ハ人工ニテ揮發劑、衝動劑、麻醉飲等ヲ以テ發セシムル者アリ、或ハ身體自然ノ原由、即チ疾病等ニテ發スル者アリ

心意ノ作用、錯亂スル形狀中、尤モ通常ナルハ、麻醉飲劑ニテ發スル、人為一時ノ形狀是ナリ、是本來發狂ト名クル所ニテ、亞爾哥兒性、或ハ、麻醉性ノ衝動藥、支那ノ阿片、印度人ノ大麻、ハチシト名クル如キ藥劑ニテ、全ク醉ヒ、若クハ、少シク醉フ時モ發スル者ナリ、是亦顛茄、并ニ烏頭等ノ草木コヲモ、發スヘシトス、凡テ此等ノ事例ニテハ、其毒最初ハ、血分ニ浸入シテ、毒血トナリ、而テ、神經腦漿ノ發作ヲ、潰亂スルコト、見ユ、印度ノハチシハ、東方ニテ、尋常醉ヲ取ル爲ニ、用ウル所ニテ、蓋シ阿片ヨリモ、多カルヘシ、亞爾哥兒性ノ飲料ハ、凡テ此ノ如キ衝動劑ノ、五官ヲ攪動スル樣法ノ、比喻トスルニ足レリ、初頭ハ、之ヲ用キタル人、心意ノ發動、増進スルヲ覺ニ、思慮迅速ニ往來シ、陸續トシテ、愉快ヲ發シ、想像力モ發動シ、記性妄

想、理性共ニ醒覺ナリ、而テ漸次ニ此心上ノ發作、増進シテ、竟ニ自然ニ意ノ管束ヲ免ルルニ至リ、一事一物ニ意ヲ注スルコト難クナリ、竟ニ爲ス可クサルニ至リ、奇怪ノ念慮、胡亂ニ徘徊シ、一モ著明ナル源由ニ出ルナク、又絶テ知ル所ノ提起ノ理法ニ由ルコトナシ、此念慮、其注意ヲ惹キテ、竟ニ全ク我カ心ヲ之ニ委スルニ至ル、是ニ至テハ、患者ハ既ニ外界ノ物ニ就テ、意識ヲ有スルコトナキモ、同時ニ又、外界ヨリノ感觸衝動ハ、之ヲ受クルコト、猶磁染ノ狀ニ於ケルカ如シ、此許多ノ所カノ睡遊、神遊、并ニ尋常ノ夢ニ於ケル心ノ狀ト、密ニ相似タルハ、余カ指示ヲ待タズ、阿片ニテ發シタル心ノ狀ハ、蓋シ、一層甚シカルヘシ、其腦漿ニ逼リ、實在ト相似タル照影ハ、一層具ニ迫リ、一層數多ナルヘシ、然ルニ其後ノ疲勞反動ハ、孰レニテモ、畏ルヘキ者ナリ、阿片ノ說話ニ就テハ、讀者應ニ有名ナル德國西ノ著ハセル、阿片人ノ識誨ヲ見ヨ

狂病症ノ發

尋常發狂病モ本體ニテハ上ニ舉ル所ト同一性質タリ唯其症候ヨリモ
肇ル原因即チ誘因ニ於テ異ナリトスル耳是亦甚タ同一ノ症ヲ見ハス
コト屢ニテ心ノ發動増進スルコトモ現ハレ注意ノ難キコトモ同シク
奇怪ナル照影往來常ナク思慮ノ連絡奇異ニシテ且意ノ管束ヲ受ケス
其心竟ニ其照影ノ有トナリテ自己ノ運用ヲナス爲ニ總テ管束ヲ失フ
是ニ於テ此心ノ理會スル所ノ事物ハ總テ取テ實在ノ形體トナシ既ニ
理會タルニ非スシテ知覺トナス譬ヘハ畫圖ト思フ物モ壁間ニ運動シ
平面ト思フ物モ室内ニ充滿スルシテ想ヲナスカ如ク之ヲ以テ眞ニ見
ル物トナスナリ故ニ其感覺ハ健康現實ノ視神ヨリ異ナルコト無シト
雖モ唯其效驗ハ全ク内部ニ於テ發作シ感受管ヨリ却テ視神經網
膜ノ旁ニ發動シテ現實ノ視神ト全ク顛倒ヲ相ナスナリ聲モ亦聞ユト
雖モ同シク種々ノ音ヲ聞ク其誘因ハ内部ヨリ外部ニ發シ外部ヨリ内

其夢ヨリ
異ナルヲ
論ス

部ニ達スルニ非ルナリ
此狀ノ夢ト異ナル所ハ本主ノ睡眠ヲ要セサル又諸能力ノ錯亂夢
リモ一層大ナル一層甚クシク且其時間モ一層永キナリ其幻景モ恐
ハ一層的切ニテ外部ノ眞成本體ト理會スルコトモ一層活潑ナルヘシ
其夢ト同シクシテ磁染ノ時ノ理會ト同シカラサルハ顛狂ノ念慮幻景
ハ後來之ヲ追思スルコトヲ得ルニテ多分ハ然ル者ナリ然レ唯其心ニ
之ヲ虚誕ト見現實ノ事件ナラズト思フコト難シトスル所ナリ
夢ニテハ吾人視聽シタリト見ユル物腦漿若クハ他器ノ感動ニテ感受
官ニ生シタル變化ナリ發狂ニテハ其感受官自錯亂シテ虚妄ナル形容
幻象ヲ呈スルナリ
心風ト名スルモ亦心ノ作用ノ錯亂セル狀ナレモ上ニ舉ル所ト異ニシ
テ是ハ靈智ノ錯亂ニ兼ヌルニ多少情ノ次序ヲ失シタル者ヲ以テセリ

心風ヲ論

其患者ハ、総テ何ニテモ、深ク感動スル者ニ逢ヘハ、甚シク發スル者ニテ、此感發ニ伴ヒ、多少亦靈智ノ紛亂アリ、此二ツノ形狀ハ、實ニ交互ニ相繼キテ、殆ト定體ナシ、相連絡スル者ナリ、其主本クル元行ハ、何レモ、同一ニテ、思慮感動ヲ、意ニテ管束スルコトヲ、亡スニ在リ、是皆、身體ノ原因ヨリ發スル者ニテ、一時經過ノ症ナリ

提起ノ勢
力ヲ論ス

上ニ舉タル、総テ諸種ノ發狂ニ於テハ、人爲ニテモ、自然ニテモ、其心ハ、外界ヨリノ提起ヲ、受ルニ供シ、其提起シタル物、屢念慮ヲ、管轄スル者トナルナリ、是ヲ以テ、看待ニ供スル者ハ、患者ノ面前ニテ、言行スル事ニ、深ク戒慎ヲ、加フルコト、必要ノ嚴規タリ、學士加爾偏多ノ說話ニ、此事ノ例ヲ、舉ケタリ、其中ニ、或ル有名ノ國手、熱病ノ患者ノ、窓ヨリ跳下シテ、命ヲ失フニ至ラシメシコトハ、多數ナルヲ舉ケ、患者ノ面前ニテ、此ノ如キ事件ヲ、防クヘキコトヲ、侍者ニ命スルハ、其醫モ、亦極メテ、鈍漢ナリト、是此事

(第二)久
時ヲ歴ル
形狀ヲ論ス

ニ就テ、說話セル事實ナリ、余將ニ、心時錯亂ノ、一層永久ナル形狀ヲ、表章スヘシ、是尋常癲狂ト名クル者ニテ、本來心意ノ發動、常例ニ異ナルヲ、徵スル名ナリ、此狀ハ、心風、若クハ、痲疾等ノ、續イテ攻惱スルニ因テ、腦漿衰弱シ、或ハ、靈智ニ、一定ノ錯亂ヲ、致シ、或ハ、情ノ感發、錯亂シテ、永久ノ偏癖ヲ、ナス者アリト見ユ、其靈智上ノ、能力、錯亂シタル者ニ於テハ、其症候ノ、首本タル、形容ハ、前ニ述ヘタル所ト、同一ナリ、即チ心ノ、運○用○ニ○就○テ○意○ノ○管○束○ノ○失○亡○ナリ、是既ニ云ヒシ如ク、此ニ表章スル心意ノ、異常ナル作用ニ、諸種アル病症ニ於テモ、性理上ノ、基礎タルナリ

靈智ノ錯
亂ヲ論ス

記性ヲ攪
動スルヲ
論ス

此論題ナル、事例ニテハ、記性ノ、能力ノ、誤欠ヲ、多分第一ノ、徵候トシ、殊ニ、記性ノ、中ニテ、嚴ニ有意ニ屬スル者、即チ追憶ヲ、甚シトス、是ニ由テ、過去ノ、經驗ハ、溯ル可ラサルノ、境外ニ在テ、之ヲ利用スルコト、能ハハルカ故

論辯辨決ノ作用、欠ケタリトス、其思慮ハ、附着ト、連絡トヲ失ヒ、過去ノ基礎ヨリ、切斷シタルカ如ク、既ニ之ヲ、伴生ノ理法ニテ結合スルコト能ハス、一往一來、自動力ノ類ニテ、奇怪ナル運動ヲナシ、之ニ就テ、其心ハ、恆ニ其力ノ微弱ナルヲ覺ルナリ、其記性、漸次ニ衰萎シテ、意既ニ前時ノ如ク、心ノ發動ニ就テ、正シキ管束ヲ行ハス、其威光モ微弱ニナリ、其權力モ去リ、心自己ノ管轄ヲ失フコト、猶船ノ其錨ヲ離レタルカ如ク、事々無聊ニシテ、一定癡狂ノ迅流ニ、期スル處ナクシテ、漂蕩ス、然ルニ、其心ノ發動ハ、猶全ク、其分量ヲ、減スルナク、恐クハ、甚シク、増進スルコト、アル可シト雖也、唯夢ノ如ク、發動スルノニシテ、總テ其理會ハ、實在トナリ、現在ノ眞世界ニ至テハ、夢ヲ以テ、之ニ混シ、夢ヲ以テ、之ヲ作ルカ故ニ、唯茫然トシテ、其心裏、自己ノ理會混合セルノ媒介ニ因テ、之ヲ曉解スル、極メテ糺糊ナルニ至ル、總テ、其情ノ發起スルコト、全ク、缺亡シテ、竟ニ此ノ如キニ、

容易ニ療
ス可ラサ
ルヲ論ス

感性ノ錯
亂セル作
用ヲ論ス

至リ得ル者ハ、屢ナリ
上ニ舉グル症ハ、以前ニ述ヘタル心狀ヨリモ、醫療ニ供スルコト、甚ダ稀ニシテ、腦中ノ一定ノ錯亂ヨリ、發スル癡狂ニ至テハ、實ニ全愈ノ望甚ダ少シ、時トシテハ、自然ニ、快復スルコト、アレモ、全ク治スルコトナシ、是年齡、資質、預定ノ諸原因、總テ、人ノ管束ス可ラサル境遇ノ、諸種ナル事ニ、關スル者ナリ
癡狂ノ他ノ形狀、最初、靈智上ノ諸能力ノ、錯亂ヨリセシテ、唯情ノ感發、錯亂セル、偏癖ヨリ發シ、之ヲ主症トスル者アリ、時トシテハ、其錯亂セルコト、一般ニ、諸情ニ及フ者アリ、此症ハ、精密ナル治療ヲ要スル者ニシ、患者ハ、小兒ノ如ク、之ヲ待スルコト、尤モ柔温ニシテ、且、智識ヲ要スヘシ、此症ハ、其自己管束ヲ、助クル論證ト、其動機ヲ、促カスコトニ、供スル者ナリ、或、事例ニテハ、諸情ノ中ニテ、一情、殊ニ、此錯亂ヲ、致シ、中央ノ座位ヲ、占

ル者アリ、又或事例ニテハ、頗ル穩靜ナル者アリ、總テ此ノ如キ事例ニテハ、其情殊ニ甚烈ナル時ハ、自殺兇殺等ノ一種別ノ行事ニ誘フコトアリ、之ヲ任氣ノ癡狂ト名シ、此時ハ、其旺スル念慮、即チ其氣ノ衝動、此心ヲ虐使シ、其凶命ニ抗ス可ラサルカ如ク、之ヲ驅テ、罪ヲ犯サシムルニテ、其患者モ、此衝動ニ就テ、意識ナキニ非ス、畏懼ニ因テ、之ヲ轉セムト欲スルコトナキニ非ス、且此所行ト伴ヒ、ナイニカ快樂ト欲心トアルニ非レド、之ニ抗スルコト能ハサルナリ、是猶那伊亞加羅ノ急流ニ浮ヘル小艇ノ如シ、嗚呼、人ノ身世ニ於テ、理性、其王位ヲ廢セラレ、意、君主ノ權ヲ失フ時ハ、岌々手トシテ、豈危カラヌヤ、恐ルヘキノ、甚シキナリ

心理學上卷 大尾

氏著 服心 理學

明治十一年二月

下冊

文部省印行

心理學下冊目錄

第二區 情ヲ論ス

心理學下冊目錄

第二區 情ヲ論ス

發端題目

第一篇 此學ノ此部ノ旨趣難易并ニ切要ナルヲ

論ス

第二篇 感性ノ分解并ニ彙類ヲ論ス

諸家感性ノ大部分記傳ノ略

第一部 單純ナル情緒ヲ論ス

第二情 本能上ノ情緒ヲ論ス

第一章 愉快并ニ其反對タル悒鬱ト名クル心

意上ノ一般ノ形狀

第二章 朋友ノ死ニ於ケル憂悶

三七

第三章 他人ノ幸福憂患ニ就テ生スル同感

四三

第二篇 道理上ノ情緒ヲ論ス
第一章 自己優劣ノ觀ヨリ發スル歡喜悲哀ノ情緒

五七

第二章 笑樂ノ享樂

六五

第三章 新珍奇異ノ享樂

八九

第四章 美妙高妙ノ享樂

九五

第五章 躬行ノ正直ナルニ於テノ自得悻戾ナルニ於テノ悔恨

一一〇

第二部 情款ヲ論ス

一一八

第一篇 善意ノ情款

一一八

第一章 親族ノ愛

一二一

第二章 朋友ノ愛

一三〇

第三章 恩人ノ愛

一四〇

第四章 住處并ニ本國ノ愛

一四五

第二篇 惡意ノ情款ヲ論ス

一五三

第一章 怨恨并ニ其諸類(嫉妬猜忌報復)

一五三

第三部 欲ヲ論ス

一七七

第一篇 欲ノ情狀并ニ彙類ヲ論ス

一七七

第二篇 形體ノ資質ヨリ生スル諸欲ヲ論ス

一八三

第三篇 心意ノ資質ヨリ生スル諸欲ヲ論ス

一九一

第一章 幸福ヲ願フノ欲

一九一

第二章 知識ヲ求ムルノ欲

二〇五

第三章 權勢ノ欲

二二二

第四章 權勢ノ欲一定ノ變化ニ因テ勝ヲ好ミ

二一七

所有ヲ好ムノ欲トナル者

第五章 結交ノ欲

二三三

第六章 貴重ヲ受ル欲

二四一

第五篇 希望并ニ恐懼ヲ論ス

三五二

第三區 意ヲ論ス

二

發端總論

一

第一篇 意ノ情狀ヲ論ス

六

第一章 意ノ發作中ニ含メル元本

八

第二章 此元本ノ講究

一四

第二篇 意ト他ノ心裏諸勢力トノ關係ヲ論ス

三二

第三篇 意ノ自在ヲ論ス

四六

第一章 意ノ自在ノ説ヲ執ル考

四九

第二章 其直ナル據證

五九

第四篇 前論ト相係ハル疑問ノ一説ヲ論ス

七一

第一章 意ニ反スル撰擇

七一

第二章 吾人行フヘキ偏向ナキ事ヲ行フ勢力

七五

第三章 動機ノ響動

八二

第一 意ハ必陽象ノ自然ニ向フ者ナリヤ

八二

第二 意ハ動機ノ最強キ者ニ因テ定メラル

八五

者ナリヤ

第三 動機ハ原因ニシテ執意ハ應效ナリヤ

八七

第五篇 教門中一定ノ眞理ト一連絡ニ於テ觀ク

九七

ル意ノ説ノ一派ヲ論ス

第一章 人ノ心意上ニ上帝ノ及ホス所ノ力 九八

第二章 人己カ身上ニ及ホス力 一〇九

第六篇 意ノ強弱ヲ論ス 一一六

第七篇 記傳ノ零〇意ノ自在ノ説ニ就テ爭論ノ 一二三

概略

引用書

下冊目次畢

心理學下冊

亞墨利加聯邦神教學士約瑟奚般著

日本 西澤周 譯

第二區事情ヲ論ス

發端題目

第一篇 此學ノ此部ノ旨趣難易并ニ切要ナルヲ論ス

分解ノ端緒

此科學ノ新ナル一部ヲ講究セムト欲スルニ臨ミ此書ノ緒言ニ既ニ論
シタルコトナレドモ心ノ此勢力ニ就テ尙暫時其分解ト彙類トニ復歸シ
テ論スルヲ良トス讀者須ラシ追懷スヘシ心ノ能力ハ其分解ニ於テ智
情、意ノ三大部ニ分チ第一部ニハ思慮知識ノ諸勢力ヲ包含シ第二部ニ
ハ感動ノ勢力第三部ニハ意ノ勢力ヲ包括セシコトヲ而シテ此三大部
ノ中第一ノ勢力ハ既ニ前諸篇ニ論究シタルヲ以テ今ハ將ニ第二ニ説

二大部ノ
差異ヲ論
ス

キ至ルヘシ
心ノ發動ノ中ニテ此部ト前ノ部ト異ナルハ猶感スルコト、思慮スル
コト、異ナルカ如ク其區別ハ大ニ且較著ナレハ人苟モ自己ノ心ニ就
キテ其運用ノ如何ヲ知ル者ハ誰カ之ヲ誤解スル者アラム、縦ヒ人皆之ヲ
解釋スルコト能ハズトモ又所謂情ハ何如ニシテ生スルト云フヲ審
説話ニ得ズモ其差異アルヲ知ルハ人皆然ラサル莫シ故ニ吾人其意義
ヲ定メ得ルト然セサルトニ拘ハラズ思慮スルコト、感スルコトハ其
行爲ニ差異アリテ心ノ情狀中全ク別ナル意識ヲ有スルハ十分ナリト
ス今日生平ノ言語ニモ固ヨリ此差別アリテ教育アル人モ教育ナキ人
モ同シク之ヲ用キ農夫モ學者モ均シク之ヲ認メ世界ノ文章ニハ總
テ之ヲ識セリ

二者ノ關

此二部ノ勢力交互ニ相關スル理ニ就キテハ智ハ本來情ニ先タチ情中

係ヲ論ス

ニハ智アリテ智ニ賴ル者ナリ故ニ預メ或物ヲ認識スルコトナケレハ
感動アルコトナシ感動ハ物體ヲ觀ルニ因テ提醒セラル者ナリ但シ
余爰ニ感動ト云フハ勿論心上ノ感動ヲ指スニテ單素ナル形體上ノ感
覺ヲ指スニハ非ス故ニ一ノ情愛アレハ必情愛ノ目的アリ一ノ好欲ア
レハ必好ミ欲スル物體アリテ其物體ハ情ノ心裏ニ提醒セラレサル前
ニ先ッ初頭ニ智ニテ之ヲ理會スル者ナリ吾人今愛スル時ハ或物ヲ愛シ
欲スル時ハ或物ヲ欲シ或ハ恐レ或ハ願ヒ或ハ惡ム時ハ必其物アリ而
シテ其物タルヤ多少明亮ニ定メ得ヘキ形質アリテ以テ此感動ヲ提起
シ且其智ニテ此物ヲ理會シ若クハ知覺スルコトノ明亮活潑ナル度ニ
準シテ感動ノ強弱モ生スルナリ

感動ノ強
弱ハ智ノ
強弱ニ關

是ヲ以テ感性ノ品級勢力即此心ノ感動ヲ受クル強弱ハ靈智ノ勢力ノ
品級健俊ニ關シ一定ノ界限内ニテハ其一ト他ノ一ト其差等同等ナリ

スルヲ論

靈智ニ感
動ノ波及
スルヲ論

トス故ニ人其心強剛健俊ナル者ハ其情ノ感動萎靡么麼ナル人ヨリモ一層強ク美爾頓ミルトン格朗空カロムエル拿破崙エブストル空丕斯麥ノ若キ皆尋常ノ人ニ超脱セルハ特智ノ知覺ノ明亮強健ナルノミナラス感動ノ力モ亦相若ケルナリ蓋シ此中ニ彼ノ諸人ノ俊傑タル秘密ノ存セルハ亦尠少ニ非ルナリ凡ソ古今說術ノ大家ノ雄辯ナル文段中ニテ吾人ノ意思ヲ挑起シ其言辭ノ我ニ貫徹スルハ特ニカノ嚴正ナル致知學ニ依テ抗拒ス可ラサルノ權力ヲ以テ刻薄ニ辯倒シタル所ニハ非ス凡ヘテ其燬クカ如キ憤怒ヲ以テ其敵手ノ詭論ヲ挫折シ偽題ヲ粉塵ニシテ其論證ト抗論トヲ悉皆掃蕩シ盡シテ火ノ原ヲ焚クカ如シト云フコトハ非スデモステニスブルク德謨斯底尼斯波哥空丕斯麥等ノ談論ニハ此例トナスヘキ所許多アリ

又一方ニ就キテハ智ノ形容ニハ何レノ時ニテモ此心ノ感動ヲ受クル形質強弱ニ關スルコト少カラスト云フモ亦眞ナラスト謂フ可ラス其

ス

心ノ能力
中ニテ此
部ノ切要
ナルヲ論
ス

感性敏捷活潑ナル者ハ靈智上ノ理會ニ於テモ亦均シク一層速ニ一層強クシテ想像知覺妄想且論辯スラ依テ以テ速カニナリ恰モ電氣ニ抵觸スルカ如ク因リテ以テ活動スルニ至ルナリ

其感性ノ遲鈍緩慢ナル人ハ其智モ殆ト必愚蠢蒙昧ナリ若吾人奇怪ナル事ナレトモ感動ナキ人ヲ見ルヲ得ハ其靈智ノ度禽獸ニ勝サル極メテ僅少ナルヘシ

感性ノ性質ハ此ノ如キヲ以テ此心ノ作用中ニテ此部ノ切要タルハ一日ニシテ瞭然タリ蓋シ人々行爲ノ源ハ斯ニ在リテ總ヘテ人性ノ學即吾徒ノ從事スル所ニ就キテハ斯ニ頭緒アルヲ知ルナリ凡ソ人生行爲ノ問題中其組織シテ異常ナル者ニ通曉セムト欲シ歷世ノ史乘社會ノ情狀凡ヘテ吾人ノ性情ニ通曉セムト欲セハ能感性ノ性質ニ通シ其理ニ明ナラサル可ラス此中ニ此世界紛錯ノ事ヲ行爲ニ施サシムル動機存シ

又此中ニ人ヲシテ、人生ノ大劇場ニ於テ、繽紛交錯、變化己マサルノ戲臺
中ニ居ラシムルノ源由存スルナリ、故ニ總ヘテ人々ノ氣力ニ衝動ヲ發
揮シ、其方向ヲ指定シ、人々ノ品性ヲ調成シ、人々ノ履歷ヲ造爲シ、人々ノ
運命ヲ定ムル者ハ、人々ノ情欲ヲラサルハ莫シ、是ヲ以テ、人ヲ知リ、世界
ヲ知ルト云フハ、之ヲ有力的ニ説話セハ、人ノ心腸ヲ知ルニ在ルノミ
人性ニ在リテ、此部ノ切要タルコトハ、次ノ學士多馬不羅昂ノ文段中ニ
能敘述セル所ナリ

曰ク、吾人性ヲ稟クル、此心ノ靈智ノ形狀ニ就キテ視レハ、蓋ソ所謂情ナル
者ナシト雖也、記念、辨決、想念ノ爲ノ若キ、凡ヘテ其諸種ノ形狀ヲ具セル
者タルハ、然レモ、凡ヘテ此等ニ伴フニ情ヲ以テセサル時ハ、唯靈智ノ
官能ノミニシテ、其貴重ヲ欠クコトハ、幾何ナルヘキ、凡ヘテ吾人、此活
潑ナル感動アリテ、而シテ後ニ細密ナル注意ヲ提起シ、記念ヲシテ、永ク

懷裏ニ保タシムルコトアリ、又此活潑ナル感動アリテ、而シテ後ニ眞理
ヲ愛シ、榮華ヲ愛シ、衆人ヲ愛シ、辨決ヲシテ、倦ムコトナカラシムルコト
アリ、若此愛、微リセハ、吾人、知識ノ開達宣布ヲ要スモ、之ヲ稱揚スルニ、陸
續トシテ、辨決ヲ勞セハ、豈其中心ニ歡フニ至ラヤ、又此活潑ナル感動
アリテ、吾人、カノ想像力ノ奇觀ヲ觀察シ、又カノ天然不易ノ一層奇觀ヲ
ル美妙ヲ觀察シ、心ニ感興、悅樂スル所アリ、蓋ソ天然ノ美妙ノ若キハ、常ニ
存スル所ナリト雖也、所謂之ニ模倣スルハ、即此感動ヨリ生スル所ニシ
テ、之ヲ眞ノ模倣トナスナリ、是ヲ以テ、吾人、心上ノ他ノ官能ノミニ依レ
テ、唯寰宇中、動靜機關ノ看客タルニ過キス、唯此情アリテ、始メテ能ク吾人
ヲシテ、天地ノ大ナルヲ感シ、人ヲ愛シ、神ヲ尊フコトヲ知ラシムルナリ
ト云々

不氏又曰ク、然ルニ余上ニ論シタル所ハ、吾人ノ情ヲ、比喻シテ、其至好ノ

ス可ラサ
ルヲ論ス

形容ヲ述ヘタルナリ、此等ノ情ハ、極メテ好ミスヘシト雖モ、又其好ミス
ヘキヲ以テ隨テ又恐ルヘキ形容ニ、出ルコトアリ、然レモ其恐ルヘキ所モ、
亦吾人ノ觀察ニ供シテ、切要ナラサルニハ非ス、蓋シ情ハ、吾人ノ敵ニシテ、
吾人畢生ノ戰ニ於テ之ト死闘ナサ、ルヲ得ス、故ニ此吾人ヲ攻撃ス
ル敵ニ就キテハ、吾人先其以テ我ヲ攻撃スル軍器兵略ニ、悉ク通曉スル
ヲ善シトシ、又吾人若敗ヲ取ラハ、其以テ我ヲ待ツ所ノ苦楚、何如ヲ知悉
シ、並ニ若シ捷ヲ獲ルトキハ、我カ福祿、何如ヲ知悉シ、以テ能ク我カ戰爭ヲ
シテ、強クシテ撓マス我カ勝利ヲシテ、一層必然ナラシムルヲ善シトス、
吾人ノ情中、此殊ニ怕ルヘキ種類ノ、目錄中ニハ、何レコレモ、所謂情欲ト
云フ者ヲ兼、此欲即人生ニ罪業ヲ生シ、慘苦ニ陷ラシムル者ニシテ、寸陰
ト雖モ其疆域ヲ管轄スルニ懈ルノ時アレハ、常ニ我カ福祉ヲ蠶食シ、竟
ニ悔恨以テ其暴威ヲ怖ル、ニ至ルノ外、我カ德域酸削シテ、毫モ餘地ナ

此講習ノ
難キヲ論
ス

キニ至ル、此ノ如クニシテ、猶未ダ全ク壞爛セサル者ハ、其心腸、猶善キ好
ムノ意ヲ存シ、逡巡躊躇、猶恢復ヲ望ムヘキ者アリト雖モ、悲哉、此情欲ハ、
孱弱ナル犠牲ヲ屠殺ニ促シテ、竟ニ凋衰萎靡再萌生ス可ラサルニ至ル、
譬ヘハ、カノ渺茫タル沙漠ニ、暴烈ノ大風起ルカ如シ、特リ目前觀ル所ノ
沙堆ヲ飛揚シ、旋渦ヲナシテ、天ニ剽スルノミナラス、其蒼然儘々ノ地ヲ
存シ、礪礪一望ノ中ニ、稍藹然タラムト欲スルモ、之カ爲ニ、嫩葉枯殘シ、再
其萌芽ヲ望ム可ラサルカ如シ、
吾人ノ性中、此感性ノ部ヲ講習スルニハ、一難事アリト云フ、說ニ就キテ、
姑ク一言ヲ載スルコト、切要タリ、感性ハ、其真個ノ性質ニ於テ、感發興起
ノ品性ヲ有ス、故ニ正シキ辨決ニ、必用タル、淡靜ニシテ、不偏ナル觀察省
察ヲナスニ、一ノ阻礙ニシテ、心ノ發動中ニテモ、此部ノ講究ハ、成功ヲ得
ルニ、特別ノ難事タリト謂ヘリ、今願望、恐懼、憤怒等ノ如キ、活潑ナル情ノ

發動スル瞬間ニハ此心詳細ニ反省ヲナサトストモ殊ニ混亂ニ屬シ、
而テ其感發ヲ制スル時ハ切要ナル時間ハ既ニ己ニ過クルナリト是
士低瓦的氏カ其決行道德力緒言中ニ殊ニ此難事タルヲ表章シテ其證
ニ虎^{ヒュ}謀ノ説ヲ引カレシ所ナリ

是此科學
ノ此部ニ
限ルコト
ナラサル
ヲ論ス

然ルニ問題ナル難事ハ其實凡ヘテ心理ノ科學ニ屬シ、獨其中ノ此部ニ
ノミ限ル事ニ非ルノ一タリ而シテ士低瓦的氏ノ援ケル文段ニ於テ虎
謀ノ意モ然カナリト見ユ今吾人何コテモ情ノ方ニ興起セル時ニ、
眼力ヲ以テ我カ自己心意ノ作用ヲ、視察スルニ固ヨリ便法ヲ得ス、
又機會ニ非スト謂フハ固ヨリ眞ニシテ是獨僅ニ感發セル時ニ、
之ヲナシテ其當ヲ得サル耳ナラス、論辯ノ如キ想像ノ如キ追懷ノ如キ靈知ノ作用
ト雖ヒ專心ニ注意ヲ要スル時ハ亦爲ス可ラサル事ニ屬ス、此ノ如キ時
吾人自己ヲ視察セムトスル瞬間ニハ此心ノ用既ニ己ニ前時ノ如クナ

報知ヲ得
ルノ源由
ヲ論ス

ラスシテ我カ視察セムト欲スル經驗ノ目的ハ既ニ間歇シ、論辯、想像、追
懷ハ歇ミテ我ハ唯我ヲ視察スルノミ故ニ吾人智ト情トニ拘ハラズ、無
ニ脚基ト頼ムヘキ者ハ平日記性ニ據ルカ如ク、後來能、尋思シテ其時ノ
心ノ發動情狀、其作用ノ云々ナリシコトヲ拾集スルニ在リ、是吾人感性
ノ作用ニ就キテモ、又靈智ノ作用ニ就キテモ、情興感發ノ度、殊ニ甚シク
シテ現時ノ意識ヲ攪擾シ、自己心裏ニ經過セシコト、後來追想スルニ
能ハサルニ至ルニ非ルヨリハ皆能ナシ得ヘキ所ナリ、
又且吾徒全ク自己ノ視察ニノミ、依頼スルヲ必トセス、之カ報知ヲ取ル
ノ源由ハ二様アリテ、一ハ我自己ノ心ヲ視察シ、一ハ他人ノ上ニ、
視察スルナリ、此後ノ源由ヨリシテ吾人此心ノ作用中ニテ、此部ノ性質ニ、
通曉スルコト極メテ多シ、蓋他人ノ感性ハ吾人ノ監視ニ供スルコト、
一層多クシテ他人ノ靈智ノ情狀ヲ視ルヨリモ、誤謬ニ落ルコト鮮シ、
此等ノ時

コハ、縱ヒ其瞬間ニ當リ、情欲旺盛ナル者ハ、自監視セムトス。トモ、感慨甚シク之ニ堪フ可ラスト雖モ、傍觀者ニ在リテハ、平心仔細ニ其情ノ效驗ヲ觀察シ、其現象ヲ表出シ得ヘシ故ニ、自己省察ト同一ノ難事ヲ見サルナリ

第二篇 感性ノ分解并ニ彙類ヲ論ス

感性ト云フ語ノ意中ニ、以前示セル定義ニ準シ、何ニテモ、感動ノ性質タル者ヲ包括シテ、一ニハ、思慮、認識ヨリ之ヲ差別シ、又一ニハ、此語ヲ亦嚴ニ心ニ與ル感動ニ限リ、唯形體上ノ感覺ト云フ者ヨリ、區別スレハ、乃此中ニ、一定ノ首タル區別アリテ、吾人、心ノ情狀中ニ、此一類存シテ、其中ニ、又甚著ルキ大區別、大差異ノ在ルヘキコト、明ナリ、此差別ニ依リテ、吾人、之カ位置ヲ定メ、之カ分類ヲナスニ、至ルカリ、吾人ノ感動ハ、其數許多、其種諸様アリ、故ニ十全ノ精確ヲ以テ、之ヲ枚舉彙類スルハ、爲シ得可ラス

一定ノ差別ヲ表シ得ヘキヲ論ス

ルノ事ナリト雖モ、其中、交互ニ、類似差異ノ所、一定シ、自然ニ區分シテ、一類一種トナルヘシ

普通ノ差別ヲ示ス

感性ノ諸狀諸様ヲ、一貫シテ、普通ノ一區別アリ、是初頭ニ於テ、明亮較著ナル者ニテ、即稱意、不稱意ノ別ナリ、凡ヘテ各種ノ感動ハ、其眞個ノ性質中ニ、必此一ツヲ具ヘサルコトナクシテ、一ハ、我ニ快樂タリ、一ハ、我ニ痛苦タリトス、此別、或時ヨリモ、甚較著ニシテ、烈シキコトアリ、又或時ハ、孰レコトモ難ク、論題ナル感動、快樂痛苦ノ品性ヲ、合マサルニ非レハ、其度極メテ薄キ者アリ、又或時ハ、二ツノ元行、兩ナカラ混合シテ、同一ノ感動ナレハ、之ヲ受ル心ニ、一次ニ、快樂ト、痛苦トヲ、含ムコトアリ、然レモ、其感動意ニ稱フニ、モ非ス、意ニ稱ハサルコトモ非スシテ、正シク、中立不偏ナリト、云フ者ニ至リテハ、余之ヲ理會スルコト能ハス、中立不偏ノ狀ハ、感性ノ

單純ナル
情ヲ論ス

發シタルニ非ス。唯其欠クタルニテ、所謂無情（希臘語「アパテオス」）云フ語ニテ、徴スル如ク、心ノ此ノ如キ情狀ヲ表シテ、尤適當ナリトス。此普通較著ナル差別ヲ論過スレハ、吾徒感性ノ中ニテ、單純ナル情ト名ツケ得ル、一種ノ大類別ヲ見ル。此中ニ、人生上ノ喜憂二情ヲ含ミ、之ヲ攪動スル目的ノ異ナルニ從ヒ、諸種ノ變態ト、諸種ノ度ヲ兼テタリ、凡ヘテ心ノ情狀中ニテ、一定較著ノ形容ヲ占ムルコトナクシテ、吾人ノ發動中ニ、喜悅若クハ、愁鬱ノ色澤ヲ帶ヒサスル者ハ、概シテ此中ニ入り、而シテ又、其感動、一層特別ナル形容ニテ、朋友ヲ喪シテ、感スル悲哀悵鬱ノ若キ、他人ノ幸福ニ就キテ、同感ノ歡喜、又其不幸ニ就キテ、同感ノ憂悶ノ若キ、自己ノ勝レタルコトヲ察シ、若クハ、其告示ヲ受ケテ、生スル享樂ノ若キ、譏刺ヲ受ケテ、憤怒スルカ若キ、或ハ笑謔或ハ新奇、或ハ美妙ノ享樂ノ若キ、皆此中ニ包含スル耳ナラス、猶之ニ加ヘ、行事ノ正シキ意識ヨリ、發ス

其他本能
上ノ情ト
理性上ノ
情ハ差別
ヲ論ス

錯綜セル
品性ノ諸
情ヲ論ス

ル鑿足ト、カノ邪行ニ就キテ、悔恨ノ熱情、其度ノ甚シキハ、懊惱ト名ツケ、地上ノ生路ニ、艱險ヲ生シ、涼雲寒影ノ凋殘ヲ促スカ如キ、凡ヘテ此等皆單純ナル情ニシテ、之ヲ生セシムル目的ノ異ナルニ準シ、種々ノ狀アリト雖也、約マル處、唯喜憂ノ諸形タルニ、過キサル耳。然レニ又、此單純ナル情ニ、諸種特別ノ形狀アル上ニ、其一ハ、他ノ者ヨリ品位ノ一層高キコトヲ知ルヘシ、上ニ枚擧セシ中ニ、後ニ示シタル諸情、笑謔ヲ視、新奇ヲ視、美妙ヲ視、正直ヲ視テ、興起セル感動、且一般ニ、美妙ニ上、道徳學上ニ、屬スル情ノ若キハ、是皆其品位一層高クシテ、靈智開達ノ高度ヲ含メリト見ユルニ由リ、之ヲ稱シテ、理性上ノ情トシ、以テ他ノ單純ナル情ニテ、區別ノ爲ニ、本能上ト名クル者ト、差別スルナリ。上ニ、分解ニ從事シ了シタルヲ以テ、今ハ次ニ、既ニ論シタル者ヨリ異ナル、一種ノ情ニ、至ルヘシ、是即錯綜セル品性ノ情ナリ、是既ニ己ニ、目的ニ

此種類ニ
猶小區別
アルヲ論
ス

於テ好樂、愛足、若クハ、然ラサル若キ單純ノ感動ニ非スシテ、情ヲ挑發スル目的ニ善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スルコト、多少定體アリ、且太甚ニシテ、單純ノ情ト混スル者ナリ、故ニ此感動ハ能動ノ狀ヲ取り、客觀トナリ、此情ヲ蓄フル胸臆ヨリ之ヲ喚起セシ目的マテ、自然ニ經過ス、然ルニ其目的ニ就キテ、善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スル欲ヨリ、カノ主觀ナル喜愛ノ元行モ、屢之ニ混同一和シテ、知ル可ラサルニ至ル、然レヒ此元行ハ、此錯綜セル情ノ中ニ、必少ク可ラサルノ本體トシテ存スルナリ

此種類中ニ通常情款ト名ツクル諸情アリ、是亦小別シテ、善意ト、惡意トニ區分シ、以テ此情ニ依リテ、各自ノ目的ノ善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スルヲ表スヘシ、カノ單純ナル情ハ、總ヘテ喜悅ト、其反體タル愁鬱ト、ノ諸體諸様アルカ如ク、情款モ亦愛情ト、其反體タル憎恨ト、ノ包涵セル一本ヨリ、多般各種ノ變化ヲ生スル者トス

情款ニ諸
種ノ目的
アルヲ論
ス

情款ハ之ヲ寄スル目的ノ異ナルニ從ヒテ、亦異ナル者ナリ、其善意ノ種類中ニテ、尤モ勝レタルハ、親族ノ愛、朋友ノ愛、恩人ノ愛、家國ノ愛ナリ、又惡意ノ情款中ニテ、世ニ尤モ切要アリト呼フ者ハ、自己ノ傷害ヲ厭惡スルノ感動、他人ノ邪行ヲ見テ、憤怒スルノ情、嫉妬ノ感動、及此等ノ諸類ナリ

情欲ヲ論
ス

此諸種ノ情款、惡意善意共ニ、其生スルコト、常度ニ超ニ激昂勒スルニ堪ヘスシテ、業ニ己ニ道理ノ管束ト、安定ナル省察トヲ受ケス、其情獨、人身全體ノ司令ヲ掌握シテ、他ニ一層高キ切要アルニ、拘ハラヌ、其人ヲ逼迫シテ、漫ニ欲スル所ノ目的ニ從ハシムルニ至リテハ、直ニ變シテ、我カ性ノ情欲トナル、此ノ如キニ及ヒテハ、吾人此肉身ノ生ノ爲ニ、自家心裏ノ戰闘ト、紀律トニ因リテ、之ヲ維持セムト、欲ストモ、亦一モ存スル者ナシ、又諸情ノ中、其他ニ一種類アリテ、其性質、前ニ擧ケタル、首タルニ區分ト

欲ヲ論
ス

其本體ヨリシテ、異ナリトス、是即吾人ノ欲ナリ、此欲ハ、二種類ノ者ニ
 テ、其一、人ノ形體ノ性、其官具ノ狀ニ本ツク者ハ、飲食ノ欲、筋維發動ノ欲、
 休憩ノ欲、等ノ如ク、何ソコテモ、肉體ノ性ト、其需用トニ供スル者ヲ、世ニ
 之ヲ肉性欲ト名ツケタリ、其一ハ、此形骸ノ性ヨリモ、却テ此心ノ性ト需
 用トヨリ、生スル者ニシテ、肉體ノ欲、即肉性欲ヨリ區別スル爲ニ、理性欲
 ト名ツケ得ヘシ、此中ニテ、尤切要ナルハ、幸福ノ欲、知識ノ欲、權勢ノ欲、社
 交ノ欲、名望ノ欲ナリ
 喜悅ハ、其反體ニ愁鬱アリ、愛情ハ、其反體ニ憎恨アルカ如ク、好欲ニモ、亦
 其反體タル厭忌アリテ、其目的モ、亦好欲ノ目的ト同シク、其數、許多ナリ、
 富饒ツ欲ニハ、其對面ニ貧乏ノ厭忌アリ、生存福祉ノ欲ハ、困難死亡ノ厭
 忌ト、相對シテ立ツカ如シ、蓋シ此二ツノ者ハ、譬ヘテ言ハ、一感動ニ積極
 消極ノ二アルカ如シ

願望恐懼
ヲ論ス

分類ノ總
目ヲ論ス

又、吾人ノ情中ヨバ、其他尙、一種ノ切要ナル者アリテ、人生ノ禍福ニ關ス
 ルコト、殊ニ甚シク、吾人襟襟ヨリ、以テ墳墓ニ至ルマテノ、徑路ニ於テ、此
 光陰中ニ往來スルコト、蓋シ尠少ニ非ス、是即願望ト恐懼トナリ、然ルニ、此
 二者ハ、其用タル、切要ナリト雖、其要スルニ亦、好欲厭忌ノ本體、稍變化ヲ
 受クル者ニ過キスシテ、感性ノ總別ニ於テ、同區ニ繫クヘリ、即願望ハ、或
 善ヲ期シテ、冀望スルノ欲トシ、恐懼ハ、或惡ヲ兆シテ、之ヲ厭忌スルノ情
 トス
 上ニ擧ケタル三大種ハ、情緒、情款、欲ニシテ、余ノ指ス所、果シテ人性上感
 性ノ諸種ニ、誤謬オカラシメ、ハ、縱ヒ、其分解ト彙類トナシテ、全然網羅シ
 悉スニ、至ラズトモ、吾徒、當今ノ目的ニ、供スルニハ、稍精密トスルニ、足ル
 ニ庶幾シ

諸家感性ノ大部分、記傳ノ略

諸家ノ取
ルル區別
ノ本則ヲ
知ルノ項
要ナルヲ
論ス

彙類ノ總
本則ヲ論
ス

此題目ノ講究ハ、此事ニ係ハレル記傳^Cヲ一瞥スルニ非レハ、全備ト謂フ可ラサルニ似タリ、吾徒自己ノ講究ニハ、稍確定ノ效驗ヲ得テ、其斷言ニ至ルヲ得タレトモ、尙又、此事ニ就キテ、諸家ノ見解ト、斷言トハ、何如ナリヤ、之ヲ知ルハ、亦有益ノ事タリ、諸家ノ取ラレシ所モ、猶靈智上ノ勢力ニ、於ケルカ如ク、感性ノ部ニ至テモ亦、其區分彙類ノ本則ニ於テハ、其說種々アリ、今此書ニテハ、唯其中一層切要ナル者ヲ、吾徒ノ一覽ニ供スル耳、感性ノ事ヲ論著セル諸家ノ中、或ハ諸情ヲ、願望ト、恐懼ト、愛情ト、憎恨ト等ノ如ク、交互ニ相對シテ、配置シ、以テ此區別ノ本則トナセルアリ、又或ハ、之ヲ人身上、社交上等トシテ、彙類セルアリ、又他ノ著者ハ、時ヲ主トシ、過去、現在、未來トシテ、類集セルアリ、又或著者ハ、本能上、理性上トシテ、分類セルアリ、然ルニ、吾人心性上ノ此部分ニ就キテ、論述スルニ至リシ諸家ハ、專^C又然ラストイヘトモ、大率之ヲ以テ、蘇倫學(即道德上ノ事ヲ)目的

希臘ノ諸
學派ヲ論
ス

トシテ、論セルコト多キカ故ニ、此ノ如キ目的ニハ、上ニ擧ケタル如キ區別ト、順序トヲ以テ、尤モ適當ナリトシテ、取ラレタルニテ、凡ヘテ特ニ、性理學上ノ事ヲ、本旨トセルニ、非ルナリ、希臘人中ニテ、伯拉多派ノ諸人ハ、諸情ヲ、恐懼、好欲、喜悅、憂愁ノ四首情中ニ、含蓄ストナセリ、即、失望、厭忌ハ、憂愁中ニ含ミ、願望、勇敢、憤怒ハ、好欲中ニ、包在セルカ如シ、凡ヘテ希臘ニテハ、外物ニ攪挑セラレ、情ヲ動カスハ、此心ノ受動ノ狀ナルヲ以テ、一般ニ情欲ヲ名ケテ、パドスト云ヘリ、其意ハ、苦ヲ被ムルト云フコトニテ、此語ヨリ、英語ノパスホス、憤^C又パス、ヘチツク、激^C等ノ語ハ、來リ、又此語ヨリ、拉丁ノパツシ、腦^C及、パチオル、惱^Cト云フ語出テ、而シテ、英語ノパスシウ、情^Cト云フ語ハ、來レルナリ、士德衣加派ニテハ、特ニ、總ヘテノ諸情ヲ、徵シテ、パデ、疾^Cトシ、以テ、此心ノ紛亂ト視タリキ

豪多黎ノ區別

本源分派ノ別ヲ論ス

哥顏ノ區別

輓近ノ著者中ニテ、豪多黎ハ、感性ヲ二大類ニ分チ、喜悅ト、不喜悅トシ、喜悅中ニ、愛情、好欲、願望、歡樂、愉快ノ追懷ヲ括シ、不喜悅ノ中ニ、上ノ諸情ノ反對タル、憎惡、厭忌、恐懼、憂愁、不愉ノ追想ヲ包テタリ。
 英吉利ニテ、或他ノ著家、瓜側、克樓丕ノ如キハ、諸情ヲ窮メ、畢竟、愛、惡、ノ三本源ヨリ、枝別シタル者トシ、此三ツヲ、第一元ノ情欲トシ、餘ハ皆、其分派トナセリ。
 哥顏ハ、其情欲論ト云ヘル、極メテ有益ナル書中ニ、感性ヲ分チテ、情欲、情情款ノ三ツトシ、此第一語ヲ以テ、此心ノ、或衝動スル原因ヨリ受ケタル、初頭ハ、印象ヲ徵シ、第二語ヲ以テ、第一ノ印象ニ繼ケル、一層永キ感動ヲ徵セリ、是顔色ト、容貌動作トノ上ニ、露洩シテ、外ヨリ觀ルヘキ徵標アル者ナリ、而シテ、情款ト云フ語ニテハ、其目的タル物體ヨリ、此心ニ響動シタル、緩弛ナレトモ、一層永續スル者ヲ指セリ、又情欲ト、情款トナシ、此著家ハ、

學士來徳ノ彙類

士低瓦的ノ區別

尙區別シテ、自愛ヨリ發スル者ト、倫交ノ理ヨリ生ズル者トノ二ツトモ、學士來徳ハ、名ヲ創シテ、情ヲ能動ノ本元トシ、之ヲ三種ニ分チ、機關上、肉體上、理性上トナシ、第一種ニ、本能、并ニ慣習ヲ括シ、第二種ニ、吾人ノ肉欲、第三種ニ、吾人作用ノ一層高邁ナル本源ヲ、位置シタリ。
 獨格拉士低瓦的ハ、本能上、即、天賦ノ本元ト、理性上、即、管束ノ本元ト、二種トナシ、天賦ノ中ニ、肉欲、好欲、及、情款ヲ包括セシメ、管束ノ中ニ、自愛、及、道德上ノ能力ヲ列シタリ、又好欲ヲ、肉欲ヨリ區別シテ、好欲ハ、肉欲ノ如ク、形體ヨリ、生スル者ニ非ス、又時期ヲ定メテ、一定ノ間歇アリテ發シ、其目的ヲ達スルコト及ヒテハ、止息スル如キニ、非ストセリ、又情款ノ名目中ニ、凡ヘテ人情上、其目的トシテ、他人ニ對シ、或ハ善意ヲ示シ、或ハ惡意ヲ示ス所ノ、諸本元ヲ、包抱セシメタリ。

不羅昂ノ區別

學士不羅昂ハ、情ト云フ總名ヲ命シタル感性感性ヲ分チ、時間ト其發作トノ關係ヲ主トシ、直接、反顧、期望ト立テタリ、而シテ、直接ノ中ニハ、道德上ノ感動ナラサル者ハ、愉快、悵鬱、驚動、及其對、美妙ノ感動、及其對、高妙ノ感動、笑樂ノ感動ヲ類集シ、又道德上ノ感動ニテハ、德ト不德トチ、差別スル情、愛惡ノ情、同感ノ情、驕傲恭謙ノ情ヲ、布列シタリ、而シテ、反顧ノ中ニ、憤怒、感恩、悔恨、得意ヲ含メ、期望ノ中ニ、凡ヘテ吾人ノ好欲、恐怕ヲ、包チタリ、博士、阿威ハ、感性ヲ二大部ニ分チ、天然ト、道德トナシ、天然ノ中ニ、情ト、欲トチ、含マシメ、道德ノ中ニ、德義ノ情操ト、獨知トチ、包チ、而シテ、欲ノ種類中ニ、本能、肉欲、偏癖、情款ヲ括シタリ、學士喜確ハ、感性ヲ、肉性、理性、精神ト云フ、三ノ受性中ニ、類別シ、肉性中ニ、本能、肉欲、天然ノ情款、私利ノ感動、不利ノ感動ヲ、舉列シ、理性ノ中ニ、美妙、學術、彝倫、敬神ノ感動ヲ、插入シ、最後ノ精神受性ハ、此二者ヨリ、異ナリテ、

阿威ノ區別

喜確ノ區別

以上ノ諸區別ヲ論ス

此二ノ如ク、其性分ニハ非ス、寧ロ、其人ノ氣質品性ヨリ、生スル者トセリ、此彙別ノ種々ナル模範ヲ、講究シテ、辨析ヲナスハ、此書ノ疆界ニテ、禁スル所、亦此書ノ旨趣ノ要スル所ニモ、非ルナリ、然レモ、唯之ヲ正言セハ、此分類ノ方法、諸種アリト雖モ、一モ、全ク、浹洽セリト、謂フ可ラス、是皆、嚴ニ學術上ノ態度ニ、合セスシテ、譬ヘハ、哥顏ノ方法ノ如キ、吾人ノ感性ヲ舉リ、推窮シテ、自愛ト社交ノ性トノ、二大本ニ出テタリトシ、一ハ、我カ自己ノ福祉ヲ、願フノ欲トシ、一ハ、他人ノ景況品性ニ、涉ル者トシ、而シテ、此第二ノ者ヲ、分解シテ、愛惡ト云フ、エソ、元首タル情款ニ、歸セリ、是此著家ノ説トスル所ナレモ、其區別ノ專擅ナルカ、故ニ、辨駁ニ、屬スヘキハ、一目ニ、シテ、亮然タリ、是寧ロ、性理トシテ、論スルヨリモ、彝倫學ニ、屬スヘシ、今ソレ、單純ナル情ハ、本來此二大本ノ、何レヘモ、歸ス可ラサル者多ク、且又、一ニハ、情ト、欲トノ、性理上ノ、別異ハ、此類別中ニ、全

士低瓦的ノ區別ヲ論ス

阿威ノ區別ヲ論ス

ク脱却セルナリ、總テ上ニ擧ケタル方法ハ、其他ノ諸種モ實ニ此同一論ニ當ルナリ

士低瓦的氏ノ分類ニ於テ、其論駁スヘキハ、自愛ノ元ト、并ニ又道義ノ能力トハ、兩ナカラ、實ニ吾人ノ性中ニ賦與セラレタル者ナルコト、他ノ性分本能上ノ者ニ異ナルナシ、然ルニ士氏ハ、道義ノ能力ヲ、他ノ情ノ天賦即本能ト稱スル者ヨリ區別シテ、之ヲ理性ノ元トシテ、類列セリ、且又肉欲ハ、唯欲ノ一種、其一異狀ナリ、而シテ、自愛モ、唯其一異狀ニテ、吾人自己ノ福祉ヲ欲スル者ナルニ併セテ之ヲ混合セリ

阿威氏ノ區別ハ、同一理ニ據テ、尙一層論駁ニ供スヘキ者ナリ、其感性ヲ分テテ、二大類トシ、天然ト、道德トノ情操トナセリト雖モ、是事實ニ於テモ、又名義ニ於テモ、差別アルコトニ非ス、其道德ノ情操ト稱セル者モ、亦吾人ノ性分上ニ本ツキテ、眞實ニ天然タルコトヲ失ハス、亦猶吾人ノ欲

彝倫學ト、性理學ト、講究ノ異ナルヲ論ス

ト、情款トノ如シ、又天然ト云フ語ハ、本來道德ト云フ語ト、相對シテ、差別アリテ、相反スル意ヲ、徵スルニ非ス、士氏ノ用サタル本能ト、理性トノ若キハ、辨駁ス可ラスト、云フニハ非レモ、果シテ此ノ如キ差別ノ存スルアラハ、其見解ノ區別ヲ、尤モ能ク精密ニ名狀シタル者ト、謂フヘシ

ソレ、書ヲ著ハスニ、其本旨ハ、道德彝倫ノ科學ニ就キテ、其本理ヲ、辨明スルニ在ル時ハ、自愛ノ元ヲ、他ノ諸情ヨリ、簡拔シテ、各自ニ之ヲ列スルコト、固ヨリ、願フ所ニシテ、カノ社交ノ元、道義ノ情操ノ若キハ、人ノ道德上ノ、品性躬行ニ、一層直説ニ涉ル者ナレハ、總ヘテ、之ト區別スヘシ、然レ、嚴密ニ、性理ヲ論スルニ至リテハ、其正鵠、唯人心ノ現象ヲ取リ、之ヲ、其天然ノ次序ニ、排列シテ、以テ、其義ヲ表明スルニ在ルヲ以テ、其分類中ニ、上ノ法則ヲ取ルハ、爲ス可ラサル事タル、著明ナリ、此ノ時ハ、心ノ諸運用ト、諸情トヲ、視察シテ、之ヲ排列スルニ、致知學上、又道學上ノ差別ニ、涉ラスシ

不羅昂ノ

テ、唯專其性。理上ノ差別ヲ、類別スヘシ。此ノ如ク、見解ヲ立レハ、道義ノ情操ト雖ヒ、是皆感動ノ性アリテ、感性ニ屬シ、絶エテ靈智ノ覺性ニ屬セザレハ、之ヲ單純ナル情ニ、位スヘクシテ、天性ヨリ、他ノ同種類ノ感動ト、異ナルニ非ルナリ。譬ヘハ、吾人過去ノ事ニ就キテ、正シキ行為ヲ觀テ、心ニ嘉樂ヲ覺エ、又邪ナル行為ヲ觀テ、心ニ痛苦ヲ覺ユルカ如キ、其嘉樂ト痛苦ト、此心ニ感スルハ、之ヲ他ノ事ニ因リテ、感スル所ノ嘉樂ト痛苦トニ、異ナリトセムヤ、是唯、此感動ヲ、喚起スル目的ノ異ナル耳、是皆其本體ニ就キテハ、同一類ニシテ、其差異アルハ、類ノ同シカラサルニ非ス、種ノ異ナル耳、故ニ、上ノ二者ノ若キハ、喜悅ト憂愁トノ、同一類ノ元ヨリ、物ニ因リテ、變化ノ加ハリタルコト、其相異ナルモ、情ノ欲ヨリ異ナリ、又愛惡ノ情款ヨリ異ナル如ク、差異アルニ非ルナリ。

學士不羅昂ノ彙類法ハ、粹倫學ニ涉レルコト非レヒ、均シク、性理學ニ涉レ

區別ヲ駁ス

ルニモ非ス、諸種ノ情ノ、時ト相關スルハ、偶然ノ事ニ出テ、本體ヨリシテ、差アルニ非ス、且ソレ、其直接ノ情ト名ツクル者ト、少シモ時ノ意思ヲ含ムコトヲ、要セスシテ、生スル者トノ若キ、感性ノ部分ヲ擴メテ、全ク之ニ、配當スヘキ差異ニモ、非レハ、是虛粧タルニ、過キサルナリ。

第一部 單純ナル情緒ヲ論ス

第一篇 本能上ノ情緒ヲ論ス

感性ニ就キテ、做シタル分解ニ、之ヲ三大別ノ種類、即情緒、情款、欲ニ、排列シタルハ、讀者正ニ記得スヘキ所ナリ、而シテ、此三者、相通シテ、有スル所ノ性ハ、是皆、之ヲ提醒スル目的ヲ視テ、善トシ、惡トスルニ準シテ、此心ノ狀、自愉快ト、不快トヲ、覺ユルコトナリ。

三者ノ中ニテ、第一ニ、論スヘキ單純ナル情緒ハ、感動ノ一大部ヲ、包括セル名ニテ、其中ニ、諸種ノ變態ト、度ノ強弱トアリト雖ヒ、約マル處、人生ノ

端緒ノ分解ヲ論ス

單純ナル情緒ノ性ヲ論ス

喜悅ト、憂愁トヲ成ス者ナリ、故ニ、諸種ノ單純ナル情緒ハ、其意義ヲ稍廣ク取ル時ハ、喜悅ト、憂愁トノ、二概名中ニ、包括スヘクシテ、皆此總概セル一元ノ變態、即人間ノ行事間ニ、一元ノ盈虛消長スル者ノミ、是皆ニ事一物ヲ、善視シ、惡視スル時ニ、興發スル者ニテ、且其事物ハ、現在ニ之ヲ有シ、現在ニ之ヲ享ケ、或ハ、現在ニ之ニ苦ム上ニアリ、此ノ如ク、現在ニ在ルヲ以テ、欲ヨリハ、異ナリトス、欲ハ、恒ニ、一ノ善視シテ、未^タ有スルヲ得サル物ノ上ニ在リ、又、現在ニ有セス^ト、之ニ達スルヲ得ヘシトシテ視タル、伴象ニテ、善視スル物ニ、在ルナリ

此單純ナル情緒ノ中ニテ、其一部ハ、更ニ又、本能上ト名ツケ得ヘシ、是肉體ノ性ニ屬スル者ニテ、殆ト大概ハ、人獸共ニ、之ヲ通シ、カノ理性ヲ含有シ、若クハ、理性ヲ以テ、預^メ之カ地ヲ爲シ、且省察力ヲ兼テタル、他ノ一層高キ部類ヨリ、之ヲ差別スルナリ

情緒ノ區別ヲ論ス

故ニ、此篇ニテ、論スル所ハ、此情緒中ノ、第一種タリ

第一章 愉快、并ニ、其反對タル悒鬱ト、名クル心意上ノ、一般ノ形狀

人皆、時々、己カ意識ニ、供スル心ノ一形狀アリ、是何ニテモ、直ニ、之ヲ喚起スル源由、アルニ非レ^ト、精神、概シテ活潑愉快ニシテ、一定ノ限際アリテ、個別ノ情ト稱スルニハ、至ラサレ^ト、心裏隱々、爽快ノ流通アリテ、此靈魂ニ滿チ、總ヘテ其諸溝洫ヲ通シテ、流動スルカ如ク、見ユルコトアリ、是此所ニ就キテハ、直ニ、喜悅ト謂フ可ラスシテ、喜悅ニ供スルノ質ナリ、譬ヘハ、之ヲ指シテ、天ニ中スル太陽ノ、見ルヘキカ如シト、スルニ非スシテ、カノ蒼穹ニ洋溢セル光輝ノ、和煦ニシテ、上下ニ普徹シ、其清明ナル活氣美氣ノ中ニ、萬物ノ浴スルノ如キナリトスヘシ、之ヲ永久歡喜ノ一種ト、謂ヘルハ、能^ク名狀シタル者ナリ

此感動ノ性ヲ論ス

此情生涯
各自ノ時
限ニ在テ
旺スルヲ
論ス

天稟ノ幸福ナル人アリ、此等ノ人ニハ、此情常ニ旺スルコト、見エ、何事
ニテモ、爽快歡喜ノ色アリ、又一ニハ、是ト至ク、相反スル人アリ、凡ヘテ夙
歲ニ在リテハ、人皆、其精神ノ喜悅ヲ常トシ、他時ヨリモ、一層旺スル者ナ
レト、晩暮ニ至ルニ從ヒ、此ノ如キヲ見ルハ、一層稀ナリ、是齡長クシテ、以
テ血液ヲ寒冷ナラシムルニ由ルモ、或ハ、人世ノ行路難ニ因リテ、此胸懷
ヲ屈シ、夙歲鵬飛鷹揚ノ志ヲ縮メタルニ由ルモ、歲月既ニ逝クニ方リテ
ハ、吾人、尋常此ノ如キ心腸ノ、恩波ヲ被ムルコト、少シトス、此時ニ方リテ
ハ、既ニ己ニ、心ニ旺スル體格、此愉快ニ非ス、此事ヲ、或人能巧ニ形容セル
語アリ、曰ク、吾徒ハ、幸福ハ、何カ故ニ、幸福ナルト云フコトヲ、知ルニ非レ
ハ、幸福ニ非ルナリ、吾徒、今猶、歡喜ヲ受ルコトヲ得、且大ナル歡喜ニシテ、
我カ少時、思慮ナクシテ、歡欣シタリシヨリモ、一層大ナル歡喜ヲ享ルコ
トヲ得ルモ、吾徒ノ歡喜ハ、諸切要事件ノ、相通シテ、協同セル一源ヨリ、來

相反セル
感動ヲ論
ス

ラサレハ、之ヲ歡喜トセサルヲ、如何セムヤ、然リト雖ト、老耄ノ極期ニ至
ルマテ、猶時々、此殆ト本能ニ屬シタル幸福ハ、稍閃光ヲ發シテ、猶他年ニ、
見ルカ如キコトアリ、其不意ニ發出スル、燦爛タル光輝ハ、時トシテ、冬夜
陰雲裏ニ、發スルコトアリト雖ト、吾徒、之ヲ發スル景況ハ、絶エテ知ルコ
ト能ハサルナリト
上ニ擧ケタル心ノ此狀ト、相通シテ、至ク相反セル品性ノ一アリ、是常ニ、
悲慘ニ屬セル心腸ニテ、尋常鬱悒ト名クル者ナリ、其反對タル爽快ノ如
ク、是亦一定體ノ情タルヨリモ、寧、心ノ體格ノ如ク、何ニテモ、吾人、之ニ歸
スヘキ、較著一定ノ源由ナクシテ、存スルコト屢ナリ、隱然タル憂患アリ、
若クハ、酷シキ苦楚ニ歷セラル、事、忽經過シタリト雖ト、心ニ猶冷淡肅
殺ノ光景存シ、カノ日蝕ノ數分、若クハ、皆既ノ時ノ如キ形狀ヲ、此ノ如ク
名狀スルナリ、人多ク、其心ノ狀、常ニ此ノ如クニシテ、時ヲ歷、或ハ、生涯ノ

詩家ノ感
性ノ元行
ヲ論ス

大半ニモ、涉ルコトアリ、非常ナル才智アリテ、感性殊ニ顯敏ナル人モ、此ノ如ク、精神常ニ沈歴ノ極ヲ受ケテ、光明ナル目的上ニ、暗黒ノ影ヲ覆ヒ、其生ヲ以テ、重任トスルニ、至ルコト、稀ナル事ニ非ス、其尋常、暗淡失意ノ如キ狀ハ、常ニ疾病ノ症ニ屬シ、體中一部ノ錯亂ヨリ、生スル者トシ、時トシテハ、延キテ、此心ノ一定永久ノ錯亂ニ、至ラシムルコトアリテ、狂癲ノ尤憐ムヘキ症ニ至リ、快復ノ望ナキニ、至ル者アリ、此ノ如キコト、鬱悒ナル人ニアリト雖モ、然レモ、多クハ、柔和ニシテ、愛スヘキ侯哀ノ若キ人ニ、在リトス、侯哀ハ英吉利ノ詩人怯退ヲ以テ名アル者

茲ニ、余カ記述スル心ノ形狀、其一層和平ナル者ニ於テハ、所謂詩才ト名クル者ノ、元行トナルコト、稀ナル事ニ非ス、是即、人生ノ艱險攻撃ノ際ニ遭遇シ、悲惨ナル經驗ヨリ生シ、又苦楚憂患ノ世界ヲ憐ミ、仁愛同憐ノ大悲心ヨリ、生スル鬱悒ニシテ、カノ風琴ノ悲悽ノ聲ノ如ク、其風調ノ音樂

ニ、幽邃閑雅ノ趣ヲ寓スルナリ、此ノ如キ者ハ、テニ天尼孫ノ風調ニ多ク、又美爾頓ノ詩篇中、深愛アル如キ者、此類多ク、又殊ニハ、ジョン約翰科斯多ノ精神音調モ、此類ニシテ、科氏ハ、本來散文家ナリト雖モ、詩才中ニ就キテ、眞實高貴ノ種類中ノ一人ト、推スニ足レリ、凡ヘテ活潑敏捷ナル感性ハ、自然眞才ト伴生シテ、離ル可テサル者ナルニ、又能此和平ナル鬱悒ト、相伴ヲコト履ナリ、カノ眞ニ大ナル靈魂ハ、自天地ト相通シ、永遠ノ眞理ト、相通スル者ニシテ、亦此深沈ナレモ、和煦ナル悲悽ノ情アルハ、怪ムニ足ラス、是美爾頓カ、イル、パンセロソニ於テ、妙句ヲ吐ケル所ニシテ、之ヲ左ノ如クニ、喚起セリ

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 穆 <small>タル</small> 彼 <small>タル</small> 天 <small>タル</small> 女 <small>タル</small> | 維 <small>タル</small> 聖 <small>タル</small> 維 <small>タル</small> 神 <small>タル</small> | 如 <small>タル</small> 愁 <small>タル</small> 如 <small>タル</small> 憂 <small>タル</small> | 鬱 <small>タル</small> 陶 <small>タル</small> 厥 <small>タル</small> 頽 <small>タル</small> |
| 深 <small>タル</small> 思 <small>タル</small> 沈 <small>タル</small> 默 <small>タル</small> | 敬 <small>タル</small> 虔 <small>タル</small> 貞 <small>タル</small> 純 <small>タル</small> | 淡 <small>タル</small> 定 <small>タル</small> 靡 <small>タル</small> 亂 <small>タル</small> | 端 <small>タル</small> 巖 <small>タル</small> 靡 <small>タル</small> 倫 <small>タル</small> |
| 深 <small>タル</small> 紫 <small>タル</small> 厥 <small>タル</small> 衣 <small>タル</small> | 托 <small>タル</small> 後 <small>タル</small> 如 <small>タル</small> 雲 <small>タル</small> | 斯 <small>タル</small> 伯 <small>タル</small> 魯 <small>タル</small> 苧 <small>タル</small> | 織 <small>タル</small> 爰 <small>タル</small> 製 <small>タル</small> 巾 <small>タル</small> |

容分繞頰

悻分垂肩

嗟爾態姿

慣習洵安

步趨齊々

儀容淵々

仰天而立

欲有所言

眼晴入定

維是爾魂

諧謔ト並立ス可ラサル者ニ非ルヲ論ス

余カ擧ケタル性質ハ、之ト直ニ、其性ノ相反シタル感動ノ、時々旺スルコトアリ、或ハ、屢旺スルコトアレド、之ト並立ス可ラサル者ニハ非ス、是宜シク、知ルヘキ事ナリ、悲懷ニ偏シタル情、笑謔ニ偏シタル情ノ、殆ト同一ニ旺スル者ト、相伴フコトアルハ、稀ナル事ニハ非ス、其感性、活潑ニシテ、何事ニ依ラズ、人生悲懷冷肅ノ感慨ヲ、生セシムルニ、足ル者ヲ、痛ク此靈魂ニ、感セシムル性質ハ、又兼テ、世間品性ノ、稍當然ヨリ奇ナル事、微瑕アル事、痴呆ニ屬スル事ヲ、疾ク發見スル性質アリ、此等ニ就テ、カノ鈍根ハ、一モ、諧謔戲笑ノ種ヲ、見出シ得サルナリ、且ソレ、此心ノ、自然ノ偏尙ハ、猶張ラサル弓ノ如ク、感動ノ一端未ヨリ、相反セル一端未ニ、反張シテ、悲懷

ヨリ、輕謔ニ轉シテ、減痛ノ道ヲ求ムル者ナリ、是ヲ以テ、カノ悲愛ノ深キ侯哀ニ於テ、吾人約翰師拉邊シラベ人名ニシテ、詩本ノ名ヲ、謠フヲ聞キ、靜夜思ノ作者ハ、快活ナル談夫ト、語ルヲ見ルナリ

第二章 朋友ノ死ニ於ケル憂悶

上ニ述ヘタル心ノ概狀ハ、之ヲ種別ノ情ト、名ケ難キ者タレド、此外ニ、喜悅ト憂愁トノ、一種別格ノ形狀アリテ、吾徒ノ注意ヲ、要スルナリ、此中ノ尤ナル者ハ、何ニテモ、不意ニ、大ナル失亡、若クハ災害ヲ受ケタル時、感スル憂悶ニシテ、譬ヘハ、朋友ノ死ノ如シ、是實ニ、余カ述ヘタル鬱悵ト、密接シタル心狀ナレド、是ト異ナルハ、此情ニハ、一層較著ニテ、直接ナル源由存シ、且一層定著、一層強烈ナルナリ、其心、一時激動ヲ受ケ、猶不意ニ毆撃ヲ受ケタル如ク、此心力、全ク挫折スルカ如ク、見ユレド、一時ヲ經過スレハ、其激動強壓モ、稍緩ナルニ至リ、初頭慘怛ノ苦楚モ、消盡スレハ、又他ノ

鬱悵ヨリ異ナルヲ論ス